



滋賀県立大学2019年度

講義概要(シラバス)

※この冊子は、Web 版シラパスを PDF に変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/) で、ご確認ください。

	講義名	英語 A	(活性化	コース)(人文)			担当教員	渡	寛法			
講	義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習						
ナン	バリング番号	101ENG10)1											
	授業概要													
本と通瞬	本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。													
	到達目標													
(2	1)TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。													
	成績評価													
	種別 割合(%) 評価基準等 到達目標(1)に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します(60%)。													
7	定期試験	60	到莲日倧 	(1))に関して	. は、到達度	を確認アスト、	. B.C.O	州木試験 じ計	<u>*</u> 1回し	より(60%)。			
レ	レポート課題													
	上記以外	40	到達目標しては、	(2) 各回() に関して D小テスト	は、授業中で評価しま	中の音読活動 ⁴ ます(20%)。	やペア、	グループワー	・クに	よって評価し(20%))、到達目標(3)に関		
出欠。	出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。													
4 9	哲学の目話に	<i>ா</i> க்≕ா . . =	1 40+	12 + -	- 0 7 / 6	77 + 4\40 7	授業外学		+°					
#四:	授業の冒頭に	、唯祕小ブ	「ストルの	リエ9	りので、接	音をかねく	、家で勉強し	Cack	icevi,					
Na			\$\tau \tau \tau				教科書	<u> </u>	1		111 145 71	LCDN/LCON		
No	[™] STRIKE UP		籍名 CR TEST L	ISTEN	I NG 』	塚田幸光	著者名		金星堂		出版社	ISBN/ISSN		
1												978-4-7647-4005-1		
2														
3	+≅ 7K 1─ 1 1 = + E=	You'	- · ·			1 - :	- 1 - 1 ABITUA VI	10° 4- 1. ° °	01/ \ c+ ++		/ * ***			
利回:	授業には時間 	を測れるス	、トップウ	オツチ	- (スマー	トフォンて			UK)を持って ————	さて	くたさい。 			
Na.		3 **	年47			1	参考書				ш № >+	LODAL/LOOM		
No 1		香	籍名				著者名				出版社	ISBN/ISSN		
2														
3	3													
	前提学力等													
	前提学力等													
							履修資	格						

講義名	英語 A	(活性化:	コース)(人文)			担当教員	渡寬法
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	1							

授業計画											
回数	タイトル	概要									
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。									
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。									
第9回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第10回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第11回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第12回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第13回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第14回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。									
		担当者から一言									

英語学習の基本は音読です。まずはTOEICレベルの英文をスラスラ声に出して読めるようにトレーニングしていきましょう!

	講義名	英語	B(活性化	コース	.)(人文)			担当教員	渡	寛法			
	 義コード	1110122	2 単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習						
ナン	バリング番号	101ENG1	102											
	授業概要													
本と通瞬	本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。													
							 到達目	=						
(2	(1)TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。													
	成績評価													
	種別 割合(%) 評価基準等													
7	知達目標(1)に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します(60%)。 60													
レ	レポート課題													
	上記以外	40	到達目標しては、	票(2 各回() に関して の小テスト	は、授業中で評価しま	□の音読活動↑ ∈す(20%)。	[⇒] ペア、	グループワー	-クに	よって評価し(20%)	、到達目標(3)に関		
出欠。	出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。													
							授業外学	'컙						
毎回	授業の冒頭に	、確認小	テストがあ	ります	すので、復	習をかねて	家で勉強して	きてく	ださい。					
							教科書							
No			書籍名				著者名		出版社			ISBN/ISSN		
1	[™] STRIKE UP	THE TOE	ICR TEST L	.ISTEN	I NG 🛽	塚田幸光			金星堂			978-4-7647-4005-1		
2														
3														
						•						•		
						T	参考書	İ						
No		į	書籍名				著者名				出版社	ISBN/ISSN		
1														
2														
3														
	前提学力等													
							履修資	各						

講義名	英語 B	(活性化:	コース)(人文)			担当教員	渡寬法
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	2							

授業計画											
 回数	タイトル	概要									
	オリエンテーション	前期の振り返り、後期の目標確認。									
第2回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第3回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第4回	Unit 15	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第5回	Unit 16	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第6回	Unit 17	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第7回	Unit 18	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。									
第9回	Unit 19	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第10回	Unit 20	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第11回	Unit 21	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第12回	Unit 22	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第13回	Unit 23	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第14回	Unit 24	テキストの問題演習と音読活動を行う。									
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。									
	ラフラ府なさらに麻いていきまし	担当者から一言									

音読のスラスラ度をさらに磨いていきましょう!

	講義名	英語 A	(活性化二	コース) (人文)	担当教員	■ 香山 恵美	€					
謹	義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別 演習							
ナンル	バリング番号	101ENG10	1											
							授業概要	-						
" 캠問:	業では、英語 ついてペア、 題でテストの や、動画や音	既要に慣れ	、問題を1	解くス	ビードを	:向上させます	演習によってスコ ることや相手の話 す。また、スキミ	Iアアップを目! を聞いて質問を ングやスキャン	指します。こ する練習を ニングなど	コミュニケーシ します。TOEIC で英文を読むス	ョンはさまざまなトピッ では、 テスト形式の練 スピードと要点をつかむ			
							到達目標							
日常: TOE I	日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。 TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。													
	THE COURT OF THE PROPERTY OF THE COURT OF TH													
	成績評価													
	種別	割合(%)	評価基準	等										
7	定期試験													
レ	ポート課題													
	上記以外													
30% 30% 40%	授業内での取 授業内の課題 到達度確認テ	L 双り組み も も フト (2回	1)											
10%	アルビスドビルジン	X1 (2E	. ,				授業外学習							
							教科書							
No			籍名				著者名		出版社 ISBN/IS		ISBN/ISSN			
1	Effective Ap	proaches	to the TO	DEIC T	est	田中清美		南雲堂			9784523176220			
2														
3														
N. I		±.4	TT 67				参考書		11.11-1	ı	10001/1001			
No 1		書	籍名				著者名		出版社	I	ISBN/ISSN			
											+			
2														
3														
前提学力等														
							履修資格							

講義名	英語 A	(活性化:	コース)(人文)		担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、自己紹介	授業の進め方説明、自己紹介
第2回	Unit 1	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 2	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 3	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 4	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 5	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 6	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 7	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 8	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 9	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 10	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
		担当者から一言

	講義名	英語 B	(活性化=	コース)(人文)		担当教員	香山恵美					
講	義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別 演習	1						
ナンル	バリング番号	101ENG10	2											
							授業概要							
本授 クに 習問 練習	業では、英語 ついてペア、 題でテストの や、動画や音	コミュニケ またはグル 概要に慣れ 楽をつかっ	ーション(ノープで会) し、問題を(たリスニ)	能力の 話をし 解くス ング練	向上と、 、自分の ピードを 習などを	TOEICの問題 意見を述べる 向上させます 行います。	演習によってスコ ることや相手の話 す。また、スキミ	1アアップを目! を聞いて質問を ングやスキャン	指します。コミ: する練習をしま ニングなどで英	ュニケーション :す。TOEICでは i文を読むスピ-	はさまざまなトピッ 、 テスト形式の練 - ドと要点をつかむ			
							到達目標							
日常: TOE I	日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。 TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。													
	IVEIVVI回起を胜くことに関化、山起VVI以回を注解して回起を胜くことがでする。													
	成績評価													
	種別	割合(%)	評価基準	等										
7	定期試験													
レ	ポート課題													
	上記以外													
30% 30% 40%	授業内での取 授業内の課題 到達度確認デ	双り組み ₫ -スト(2回	1)											
							授業外学習							
							教科書							
No	Effective Ap		籍名	NEIC T	'est	田中清美	著者名	南雲堂	出版社		ISBN/ISSN			
1	Lifective A	ppi oaciies	to the re			山下消失		田芸主			9784523176220			
2														
3														
							分							
No		書館	 籍名				参考書 著者名		 出版社		ISBN/ISSN			
1							ппн		대까 11					
2														
3														
	前提学力等													
							履修資格							

講義名	英語 B	(活性化:	コース)(人文)			担当教員	香山 恵美
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	2							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 11	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第2回	Unit 12	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 13	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 14	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 15	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 16	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 17	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 18	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 19	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 20	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	問題演習	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
		担当者から一言
L		

	講義名	英語 A	(活性化コース)	(人文)			担当教員	佐久間 思帆	
講	 義コード	1110141	単位数 1 月	開講期	前期	授業種別	演習			
ナン	バリング番号	101ENG10	1							
						授業概	要			
特訓 英語 とな	TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。 英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。 毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。 期末テストの他に14、15回目の講義で英文の暗唱テストを行います。									
						到達目	標			
(3)	 (1)語彙力の向上 (2)リスニングカの向上 (3)読解力の向上 (4)英語での思考力の向上 (5)英語での発信力の向上 									
						成績評	価			
	種別	割合(%)	評価基準等			成績評	西			
5	種別 定期試験	割合(%)	評価基準等 (1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10%	ブ力10%		成績評	(西			
			(1)語彙力10% (2)リスニング	ブ力10%		成績評(西			
L:	定期試験		(1)語彙力10% (2)リスニング	ブ力10% 6 6 が力10%		成績評(西			
レ: 14回	定期試験ポート課題上記以外、15回目の講	50 50 3 0	(1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% (3)読解力10% (1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% 唱テストが行われ	ブ力10% 6 6 ボ力10% 6 uます(定	E期テスト: 知らせしま	50点中10点5	分になりま	ます) 認めた公欠り	以外は一切認めません。	
レ: 14回	定期試験ポート課題上記以外、15回目の講	50 50 3 0	(1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% (3)読解力10% (1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% 唱テストが行われ	ブ力10% 6 6 ボ力10% 6 uます(定	E期テスト 知らせしま	50点中10点5	うになりま お学校が	ます) 認めた公欠り	以外は一切認めません。	
レii 14回 5回の	定期試験 ポート課題 上記以外 、15回目の講か ウ欠席で評価か	50 50 義で英文暗 対象から除名	(1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% (3)読解力10% (1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% 唱テストが行われ	が力10% 6 が力10% 6 1ます(定 1ます(定	知らせしま	50点中10点5 せん)。な 授業外学	♪になりま お学校が 	認めた公欠り		
レン 14回 5回の 授業	定期試験 ポート課題 上記以外 、15回目の講か ウ欠席で評価か	50 50 義で英文暗 対象から除然 を、日本語	(1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% (1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% (3)読解力10% (3)読解力10% (3)読解力10%	が力10% 6 が力10% 6 1ます(定 1ます(定	知らせしま	50点中10点分 Eせん)。な 授業外学 ックレスポン 教科書	うになりま お学校が [○] [○] ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	認めた公欠り	ておくこと。	
レii 14回 5回の	定期試験ポート課題上記以外、15回目の講の方向で評価文で扱った英文	50 50 義で英文暗 対象から除 を、日本語	(1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% (1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% によったが行われ いされます(出席原 がら英語に、英語	が が が が は ます は は ます は お い き い と し ま り し ま り し る し る し る し る り る し る り る り る り る り	知らせしま	50点中10点分 きせん)。な 授業外学 ックレスポン 教科書 著者名	♪になりま お学校が ご習 ノスできる	るまで復習し		ISBN/ISSN
レン 14回 5回の 授業	定期試験ポート課題上記以外、15回目の講の方向で評価文で扱った英文	50 50 義で英文暗 対象から除分 を、日本語 書籍	(1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% (1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% (3)読解力10% (3)読解力10% (3)読解力10%	が が が が は ます は は ます は お い き い と し ま り し ま り し る し る し る し る り る し る り る り る り る り	知らせしま	50点中10点分 Eせん)。な 授業外学 ックレスポン 教科書	♪になりま お学校が ご習 ノスできる	認めた公欠り	ておくこと。	ISBN/ISSN 978-4-7647-4089-1
レ: 14回 5回の 授業 No	定期試験 ポート課題 上記以外 、15回目の講の で扱った英文 で扱った英文	50 50 義で英文暗 対象から除分 を、日本語 書籍	(1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% (1)語彙力10% (2)リスニング (3)読解力10% によったが行われ いされます(出席原 がら英語に、英語	が が が が は ます は は ます は お い き い と し ま り し ま り し る し る し る し る り る し る り る り る り る り	知らせしま	50点中10点分 きせん)。な 授業外学 ックレスポン 教科書 著者名	♪になりま お学校が ご習 ノスできる	るまで復習し	ておくこと。	

____**_** 必ず購入のこと。

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

講義名	英語 A	(活性化:	コース)(人文)			担当教員	佐久間	思帆
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	101ENG10	1								

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	英語の基礎事項の確認	基礎事項の確認									
第2回	Unit1	Part1, 4, 5, 7									
第3回	Unit1	Part2, 3, 6									
第4回	Unit2	Part1, 4, 5, 7									
第5回	Unit2	Part2, 3, 6									
第6回	Unit3	Part1, 4, 5, 7									
第7回	Unit3	Part2, 3, 6									
第8回	Unit4	Part1, 4, 5, 7									
第9回	Unit4	Part2, 3, 6									
第10回	Unit5	Part1, 4, 5, 7									
第11回	Unit5	Part2, 3, 6									
第12回	Unit6	Part1, 4, 5, 7									
第13回	Unit6	Part2, 3, 6									
第14回	暗唱テスト	Unit1~6の復習									
第15回	暗唱テスト	Unit1~6の復習									
		ー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・									

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。

講義名	英語	 3 (活性化コース) (人文	·)			担当教員	佐久間				
	1110142	単位数 1 開講期	後期	授業種別	演習	3=332					
講義コート				1文朱/至//							
, , , , , ,	ш ¬ 1012.1101	<u> </u>		授業概要			<u> </u>				
│特訓します。 │英語を読み・ │となります。	TOELC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で										
				到達目村	漂						
(2)リスコ (3)読解力 (4)英語で	到達日標 (1)語彙力の向上 (2)リスニング力の向上 (3)読解力の向上 (4)英語での思考力の向上 (5)英語での発信力の向上										
				成績評(西						
種別	割合(%)										
定期試験	50	(1)語彙力10% (2)リスニング力109 (3)読解力10%	%								
レポート課	題										
上記以外	50	(1)語彙力10% (2)リスニング力109 (3)読解力10%	6								
14回、15回目 5回の欠席で記	の講義で英文 呼価対象から防	・ 暗唱テストが行われます (除外されます (出席回数は	(定期テスト お知らせし	∼50点中10点欠 ません)。な	うになり お学校 <i>f</i>	ます) が認めた公欠し	以外は一句	切認めません。			
				授業外学	'習						
授業で扱った	英文を、日本	語から英語に、英語からE	日本語にクィ	イックレスポン	ノスでき	るまで復習し	ておくこ	:と。			
				教科書	Ė						
No coope o		書籍名 HE TOEIC L&R TEST PRE-	港口價学	著者名 子、柳田真知	7	金星堂	出席	版社	ISBN/ISSN		
1 INTERME		HE TUETO LAR TEST PRE-	海口 阪夫	于、州田县和	<u> </u>	本生圣			978-4-7647-4089-1		
2											
3	14日バネナ										
則期と教科書	は同しです。!	必ず購入のこと。 									
Ne	参考書 										
No	No 書籍名 著者名 出版社 ISBN/ISSN										
1											
2											
3											
どのような物	でも構わない	ので辞書を持参のこと。									

前提学力等 2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修 は認めない。

講義名	英語 B	(活性化:	コース)(人文)		担当教員	佐久間	思帆	
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	101ENG10	2								

	ı	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	基礎事項の確認
第2回	Unit7	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit7	Part2, 3, 6
第4回	Unit8	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit8	Part2, 3, 6
第6回	Unit9	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit9	Part2, 3, 6
第8回	Unit10	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit10	Part2, 3, 6
第10回	Uni t11	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit11	Part2, 3, 6
第12回	Unit12	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit12	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit7~12の復習
第15回	暗唱テスト	Unit7~12の復習

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。

講義名	英語 A	(活性化:	コース)(人文)		担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	D1ENG101							

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。 語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

- 1.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
 2.映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
 3.映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
 4.映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

	成績評価										
種別	割合(%)	合(%) 評価基準等									
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。									
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%									
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度(授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)									

半期で4回以上の欠席は評価をしません。 遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。 予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751							
2	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身 !	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736							
3	ローマの休日		電波実験社	9784864900133							

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

前提学力等

特になし

講義名	英語 A	(活性化:	コース)(人文)			担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/映画 (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
		<u>- 担当者から一言</u>

¹²月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 B	(活性化:	コース)(人文)			担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	2							

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。 語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

- 1.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
 2.映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
 3.映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
 4.映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。								
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%								
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度(授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)								

半期で4回以上の欠席は評価をしません。 遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。 予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751						
2	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身 !	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736						
3	ローマの休日		電波実験社	9784864900133						

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

前提学力等

特になし

講義名	英語 B	(活性化:	コース)(人文)			担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	01ENG102							

	I	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/映画 (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

¹²月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

	講義名	英語 A	(活性化コース)	(人文)			担当教員	関 初海	
請	講義コード	1110161	単位数 1	開講期	前期	授業種別	演習			
ナン	ドリング番号 101ENG101									
						授業概要				
TOE I	C形式の問題を Cのリスニンク	・ 正確に解く が音声や読魚	く力を身につける。 解問題を活用し、	。 ライティ	ング・スピ	ーキング能力	といっ	った、英語発信	言能力をきたえる。	
						到達目標				
(1) (2)	TOEICの語彙力 リスニング能]を身につけ 力の向上	ける							
(3)	リスニング能 リーディング ライティング	能力の向上能力の向上								
(5)	スピーキング	能刀の冋上								
						라 / 基 顿 / 英				
	種別	割合(%)	評価基準等			成績評価				
;	定期試験	70	到達目標(2),(3)	, (4)につ	いて定期試	験で評価する	0			
		, ,								
レ	ポート課題	0								
	上記以外	30	到達目標(1)につ 到達目標(5)につ	いて毎回 いて、授	回の授業冒頭 受業内でのプ	での小テスト レゼンテーシ	で評価	西(10%) で評価(20%)		
授業	時間数の3分の	01以上欠席	した者は評価対象	きにしない	, 1,					
						授業外学習	1			
						技業外子自				
						数 权事				
No				Ī		教科書 著者名		T	 出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTE	R FOR THE	TOEIC L&R TEST	Γ PRE-	溝口 優美	子他		金星堂		9784764740891
	INTERWEDIATE	=								
2										
3										
										,
						参考書				
No		書籍				著者名			出版社	ISBN/ISSN
1										
2										
3										
						前提学力等	-			
						履修資格				

講義名	英語 A	(活性化:	コース)(人文)			担当教員	関初海
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーションとUnit 1	授業の進め方についての説明 Unit 1 Travel
第2回	Unit 1(2)	Unit 1 Travel (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第3回	Unit 2(1)	Unit 2 Dining Out (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第4回	Unit 2(2)	Unit 2 Dining Out (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第5回	Unit 3(1)	Unit 3 Media (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第6回	Unit 3(2)	Unit 3 Media (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第7回	Unit 4(1)	Unit 4 Entertainment (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第8回	Unit 4(2)	Unit 4 Entertainment (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第9回	Unit 5(1)	Unit 5 Purchasing (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第10回	Unit 5(2)	Unit 5 Purchasing (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第11回	Unit 6(1)	Unit 6 Clients (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第12回	Unit 6(2)	Unit 6 Clients (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第13回	Unit 7(1)	Unit7 Recruiting (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第14回	Unit 7(2)	Unit7 Recruiting (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第15回	総復習	前期の総まとめ
		担当者から一言

	講義名	英語 B (活性化コース) (人文)					担当教員	関 初海			
請	講義コード	1110162	単位数 1	開講期	後期	授業種別 演習					
ナン	バリング番号	101ENG10	2								
						授業概要					
TOE I	C形式の問題を Cのリスニング	正確に解り	く力を身につ 解問題を活用	ける。 し、ライティ	ィング・スピ	ーキング能力といっ	った、英語発信	言能力をきたえる。			
4.03						到達目標					
(1)	TOEICの語彙力リスニング能)を身につけ 力の向上	ける								
(3)	リスニング能 リーディング ライティング スピーキング	能力の向上 能力の向上 能力の向上	· - - -								
(3)	XC (2)	3677071-11	-								
						成績評価					
	種別	割合(%)	評価基準等								
7	定期試験	70	到達目標(2)	, (3) , (4)につ	ついて定期試	験で評価する。					
V	ポート課題	0									
	上記以外	30	到達目標(1) 到達目標(5)	について毎[について、扌	回の授業冒頭 受業内でのプ	での小テストで評 レゼンテーション	面(10%) で評価(20%)				
授業	時間数の3分の)1以上欠席	 した者は評価	対象にしな	ι ۱ ₀						
					-						
						授業外学習					
		= 2	·* ~		ı	教科書		UUIC AL	1000//100/		
No	SCORE BOOSTE		籍名 TOEIC L&R	TEST PRE-	│ 溝口 優美	著者名 	金星堂	出版社	ISBN/ISSN		
1	INTERMEDIATE	<u> </u>							9784764740891		
2											
3											
	<u> </u>				<u>I</u>		I		1		
No		書籍	籍名			著者名		出版社	ISBN/ISSN		
1											
2											
3											
J											

	前提学力等										
	履修資格										
						/授》(分)(方)					

講義名	英語 B	(活性化:	コース)(人文)		担当教員	関初海	
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	2							

	_	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーションとUnit 8	授業の進め方についての説明 Unit 8 Personnel
第2回	Unit 8(2)	Unit 8 Personnel (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第3回	Unit 9(1)	Unit 9 Advertising (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第4回	Unit 9(2)	Unit 9 Advertising (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第5回	Unit 10(1)	Unit 10 Meetings (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第6回	Unit 10(2)	Unit 10 Meetings (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第7回	Unit 11(1)	Unit 11 Finance (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第8回	Unit 11(2)	Unit 11 Finance (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第9回	Unit 12(1)	Unit 12 Offices (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第10回	Unit 12(2)	Unit 12 Offices (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第11回	Unit 13(1)	Unit 13 Daily Life (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第12回	Unit 13(2)	Unit 13 Daily Life (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第13回	Unit 14(1)	Unit 14 Sales & Marketing (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第14回	Unit 14(2)	Unit 14 Sales & Marketing (単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動)
第15回	総復習	後期の総まとめ
		担当者から一言

到達目標 Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation. (2) fluency and (3) good											
対域性	講義名	英語 A	(応用コース)	(人文)				担当教員	Graham Jones		
接触機器 Will use a range of communicative activities to gain confidence and improve their English skills. Students will use a language framework to (a) set goals for their English, (b) neasure their progress, and (c) start thinking about English learning as infalong activity. **Biddents** will be able talk about activities encomptered in energysty. If a using familiar grammatical constitutions, and write about them lainty consensely and logically. Stysenis will be able to students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly. ***********************************	講義コード	1110331	単位数 1	開講期	前期	授業種別	演習				
Students will use a range of communicative activities to gain confidence and improve their English ckills. Students will use a name of the state of their English. (b) measure their progress, and (c) start thinking about English learning as lifeling activity. Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about the fairly cohesively and logically. Students will be able to seek English with (1) good pronunciation. (2) fluency and (3) good belivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex enchances and paragraphs that are (3) specified and punctuated correctly. ***English** will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex enchances and paragraphs that are (3) specified and punctuated correctly. **Endlish**	ナンバリング習	番号 101ENG10)3								
### State S						授業概	要				
Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about betwen fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly. Rammatically correct (3) spelled and punctuated correctly.	language framework to (a) set goals for their English, (b) measure their progress, and (c) start thinking about English learning as a										
them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good elivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex entences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly. References and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.						到達目	票				
種別 割合(%) 評価基準等	them fairly odelivery; the	Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex									
定制試験 50 End-of-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test. レボード課題 50 Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Objective 2 is worth 50% of the total grade for the Writing test. 上記以外 授業外学習 One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests. 教科書 No 書籍名 著名名 出版社 ISBN/ISSN Breakthrough PLUS Level 2 Miles Craven Macmillan Education 978-0-230-43819-4 2 3						成績評	西				
短期試験 50 Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Objective 2 is worth 50% of the total grade for the Writing test. 上記以外 授業外学習 One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests. 教科書 No 書籍名 財政社 ISBN/ISSN 1 Breakthrough PLUS Level 2 Miles Craven Macmillan Education 978-0-230-43819-4 2 3	種別	割合(%)				0		'	50/ - f the test of the second	- (the One-line test	
上記以外 授業外学習 One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests. **********************************	定期試験	50	End-of-term S	peaking to	est. Each	Speaking Ob	gective	is worth 2	5% of the total grade	e for the Speaking test.	
授業外学習 One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests. 教科書	レポート課題	題 50	Mid-term Writ grade for the	ing test. Writing	Writing test.	Objectives 1	& 3 ar	e worth 25%	and Objective 2 is v	worth 50% of the total	
Mo 書籍名 著者名 出版社 ISBN/ISSN **** *** *** ** ** ** ** **	上記以外										
Mo 書籍名 著者名 出版社 ISBN/ISSN **** *** *** ** ** ** ** **						拉米 瓦芒	RE 6				
数科書	One hour a we	eek. Review a	nd practice cl	ass materi	al, and			ts.			
No											
Breakthrough PLUS Level 2 Miles Craven Macmillan Education 978-0-230-43819-4 2	No	聿	年夕	T			i		<u> </u>	ISBN/ISSN	
	Breakthr				Miles Cr			Macmill			
参考書 出版社 ISBN/ISSN 1	2										
No 書籍名 著者名 出版社 ISBN/ISSN 1 2 3	3										
No 書籍名 著者名 出版社 ISBN/ISSN 1 2 3						4.4					
1 2 3	No	聿	<u> </u>						出版計	ISBN/ISSN	
3		<u></u>	78 H			884			14 /PA 14	132.7, 10011	
	2										
前担党力学	3										
메르는 기구											

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	Graham Jones	
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	3							

		授業計画
	タイトル	概要
第1回	Introduction	Welcome to the class
第2回	Unit 1	Lifestyles
第3回	Unit 1	Lifestyles
第4回	Unit 2	Leisure
第5回	Unit 2	Leisure
第6回	Unit 3	Getting along
第7回	Unit 3	Getting along
第8回	Mid-Term Test	One-page essay
第9回	Unit 4	Interests
第10回	Unit 4	Interests
第11回	Unit 5	Telling a story
第12回	Unit 5	Telling a story
第13回	Unit 6	Celebrations
第14回	Unit 6	Celebrations
第15回	Review	Looking ahead
		担当者から一言

講義名	英語 B	3(応用コース)(人文)					担当教員	Graham Jones		
講義コード	1110332	単位数 1	開講期	後期	授業種別	演習				
ナンバリング番号	101ENG10	4								
					授業概要	更				
language framewo as a lifelong ac	Students will use a range of communicative activities to gain confidence and improve their English skills. Students will use a language framework to (a) set goals for their English, (b) measure their progress, and (c) continue thinking about English learning as a lifelong activity. 到達目標									
them fairly cohed	Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	50	End-of-term	Speaking to	est. Each S	Speaking Ob	jective	is worth 25	% of the total grade for the Speaking test.		
レポート課題	50		iting test. he Writing		jectives 1	& 3 ar	e worth 25%	and Objective 2 is worth 50% of the total		
上記以外										

授業外学習

One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests.

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4							
2											
3											

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

前提学力等

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文)			担当教員	Graham Jones	
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	4							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Welcome back
第2回	Unit 7	Food & drink
第3回	Unit 7	Food & drink
第4回	Unit 8	Rules
第5回	Unit 8	Rules
第6回	Unit 9	Adventures
第7回	Unit 9	Adventures
第8回	Mid-Term Test	One-page essay
第9回	Unit 10	Health
第10回	Unit 10	Health
第11回	Unit 11	Comparisons
第12回	Unit 11	Comparisons
第13回	Unit 12	The modern world
第14回	Unit 12	The modern world
第15回	Review	Looking to the future
		担当者から一言

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	齊藤	倫子	
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	101ENG10	3								

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Homework: There will be speaking and writing homework in this class.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	25	Final Oral Presentation – Students will give a final presentation in class. Students will also submit a written speech.								
レポート課題		Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each								
73. 1 m/kg	25	Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each								
上記以外	50	Homework - There will be writing and speaking homework in this class.								

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

	教科書										
No	書籍名	ISBN/ISSN									
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5							
2											
3											

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	齊藤 倫子	
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	3							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students. Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class.
第2回	Week 2	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Week 3	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Week 4	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Week 5	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Week 6	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Week 7	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Week 8	Students read aloud their writing to the class. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第9回	Week 9	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Week 10	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	Week 11	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Week 12	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Week 13	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	Week 14	Final presentations.
第15回	Week 15	Final presentations.
		I 担当者から一言

It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	齊藤	倫子	
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	101ENG10	4								

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Homework: There will be speaking and writing homework in this class.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	25	Final Presentation: Students will give a presentation about their success from this year academic year and their goals for the next year.									
レポート課題	25	Homework: There will be writing and speaking homework on various topics.									
上記以外	50	Final Presentation: Students will give a presentation about their success from this year academic year and their goals for the next year.									

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

	教科書										
No	書籍名	ISBN/ISSN									
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5							
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	齊藤 倫子	
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	4				·	·		

授業計画									
回数	タイトル	概要							
第1回	Week 1	Homework: Begin writing midterm paper.							
第2回	Week 2	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第3回	Week 3	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第4回	Week 4	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第5回	Week 5	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第6回	Week 6	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第7回	Week 7	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第8回	Week 8	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第9回	Week 9	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第10回	Week 10	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第11回	Week 11	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第12回	Week 12	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.							
第13回	Week 13	Final presentation preparation. Homework: Work on final presentation.							
第14回	Week 14	Final presentation preparation and practice presentations. Homework: Continue working on final.							
第15回	Week 15	Final presentations.							
		担当者から一言							

It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

	講義名	英語 A	(応用コ・	-ス)	(人文)			担当教員	Ashley Stevens	
講	義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバ	バリング番号	101ENG10	03								
							授業概要	要			
to w Fina also	Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.										
							到達目				
hesi	king: Studen tation, reply ch). Their Ei lex sentence	y to ques nalish wi	stions pro II also b	omptly be (4)	and (3)) arammati	good deli callv corr	very (clear ect. Writin	voice a: Stud	and good vol ents will be	th, I and si sounds), (ume, produce the require able to write (1) gramm	2) fluency (without d quantity of atically correct (2)
	種別	割合///	一一一一一	± 44*			成績評値	西			
		割合(%)	評価基準 25% Mid-		Speaking	test.					
	定期試験	100	25% Mid-	-term	Writing t	est.					
レ	ポート課題										
	上記以外										
Refe Stude	r to the Rub ents who mis	ric for d s more th	details on nan 3 clas	n how g sses w	grades ar ill lose	e evaluate 3 points f	ed. or each cla	ss miss	ed over 3 cl	asses.	
Duran		0	(0.15	T			授業外学			(0 haves)	
РТера	aration for t	Quizzes (o nours).	тортс	-rerated	writing (c	nours).Pro	nunciai	ion practice	(3 hours).	
Na			· \$5 47			ı	教科書	Ė	1	111 HC 71	I LODAL/LOCAL
No	English for		籍名 d			Stevens	著者名		3C Engl	出版社 ish	ISBN/ISSN
2											
3											
						<u> </u>					<u> </u>
							参考書	<u>t</u>			
No		書	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN
1											
2											
3	3										
	前提学力等										
							履修資	谷			

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	Ashley Stevens	
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	3							

授業計画									
回数	タイトル	概要							
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page story or essay.							
第2回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing.							
第3回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing.							
第4回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing.							
第5回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing.							
第6回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher corrects pronunciation of students' writing.							
第7回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation.							
第8回	Shopp i ng	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation.							
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their stories/essays to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.							
第10回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.							
第11回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.							
第12回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.							
第13回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.							
第14回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test.							
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.							
		担当者から一言							

	講義名	英語 B	・ (応用コ・	-ス)	(人文)			担当教員	Ashley Stevens		
講	義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習				
ナンノ	(リング番号	101ENG1	04									
							授業概	要				
to wi Final	Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.											
	到達目標											
hesit	Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, I and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.											
	種別	割合(%)	評価基準	± °≠			成績評価	価				
		刮口(%)			Speaking	test.						
Ā	官期試験	100	25% Mid-	-term	Writing t	test.						
レホ	レポート課題											
-	上記以外											
Refer Stude	r to the Rub ents who mis	ric for d s more th	details on nan 3 clas	n how g sses w	grades ar ill lose	e evaluate 3 points f	ed. for each cla	ss miss	sed over 3 cl	asses.		
David		0	(O. h)	T			授業外学			(0 haves)		
Ртера	aration for t	Quizzes (o nours).	тортс	-rerated	writing (c	o nours).Pro	nuncial	ion practice	(3 nours).		
No		*	+ 年夕			ı	教科書	<u> </u>	ı	 出版社	LCDN/LCCN	
No	English for		籍名 d 2			Stevens	著者名 ————		3C Engl		ISBN/ISSN	
2												
3												
						<u> </u>						
							参考書	<u> </u>				
No		書	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1	1											
2	2											
3	3											
	元 kb ン欠+b											
	履修資格											

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	Ashley Stevens	
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG10	4							

授業計画									
回数	タイトル	概要							
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page story or essay.							
第2回	Where we live	Focusing on the functional language used in real life situations for discussing where we live. Teacher checks students have begun their writing.							
第3回	Where we live	Focusing on the functional language used in real life situations for discussing where we live. Teacher checks students have begun their writing.							
第4回	Friends and family	Focusing on the functional language used in real life situations regarding our lives. Teacher continues advising and correcting Students' writing.							
第5回	Friends and family	Focusing on the functional language used in real life situations regarding our lives. Teacher continues advising and correcting Students' writing.							
第6回	Sports and activities	Focusing on the functional language used in real life situations when discussing our hobbies. Teacher corrects pronunciation of students' writing.							
第7回	Sports and activities	Focusing on the functional language used in real life situations when discussing our hobbies. Teacher corrects pronunciation of students' writing.							
第8回	Life experiences	Focusing on the functional language used in real life situations when the things we have done. Teacher continues to correct pronunciation.							
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their stories/essays to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.							
第10回	Jobs and the wrokplace	Focusing on the functional language used in real life situations regarding the wrokplace.							
第11回	Jobs and the workplace	Focusing on the functional language used in real life situations regarding the wrokplace.							
第12回	The biggest and the best	Focusing on the functional language used in real life situations discussing opinions and facts with a focus on superlatives.							
第13回	The biggest and the best	Focusing on the functional language used in real life situations discussing opinions and facts with a focus on superlatives.							
第14回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test.							
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.							
		担当者から一言							
1									

講拿	義名	英語 A	(応用コ	-ス)	(人文)			担当教員	Gordon Maclaren	
講義二	コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバリ	ング番号	101ENG10	3		•						
							授業概	要			
This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3nd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times. In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the intructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.											
PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)											
							到達目	標			
(2) Stud	 (1) Students will be able to speak English with good pronunciation. (2) Students will be able to speak English with fluency. (3) Students will be able to speak English with good delivery. (4) Students will be able to speak grammatically correct English. 										
							成績評	価			
種.	別	割合(%)	評価基準	善等							
定期	試験										
レポー	・ト課題										
上記	以外	100%	25% mid- 25% mid- 50% week	-term		test test					
			<u>!</u>								
							±空光力 쓴	433			
Study 4 hours) S	scenes fo	or pair pe s combined	erformand d scene f	ce fro	m memory d-of-ter	(8 hours m performa	授業外学 total)Pairs nce from men	rewrite	75-90% of a	a 'new' scene based on S	Scenes VII & VIII (4
						_	教科書	=			
No	Ctoro[No	書籍 ew Version	籍名				著者名		Dromo W	出版社 orks, 2009	ISBN/ISSN
1 1) Stars[Ne	ew version	']						Diama w	UTKS, 2009	
2											
3											
·							参考書	<u></u>			
No	No 書籍名						著者名			出版社	ISBN/ISSN
1											
2											
3	3										
前提学力等											
	履修資格										

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	Gordon Maclaren
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別		
ナンバリング番号	101ENG10	3						

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	INTRODUCTION	Class &Pair reading of Luggage Mix-Up; Accusation and Apology
第2回	Patching Things Up	Offering Help and Getting to Know a Stranger [II] 第2回-13回 PAIR-ACT DRAMA SCENE
第3回	Realization Of & Panic Over a Mistake	Calming Someone Down [III]
第4回	Calling For Assistance	Giving Information over the Phone [IV]
第5回	Upholding Household Rules	Receiving and Confirming Good News [V]
第6回	Getting Over Jet Lag	Talking About Sleepiness and One's Job [VI]
第7回	A 'Thank You' Coffee	Expressing Gratitude and Setting Up a Date [VII+VIII]
第8回	Sharing and Eliciting Wonderful News	Warning Over High Expectations [IX]
第9回	Relating a Tough Situation	Asking About Job Qualifications [X]
第10回	Returning to the Beginning	The Luggage Mix-Up Conflict [I]
第11回	First Date	Banter, Sharing Likes, Dislikes and Goals in Common [XI]
第12回	Under the Table	Sharing Suspicions and Teasing About Anxieties [XII]
第13回	Stand-In	Subbing For Someone ill at Work [XIII]; NEW SCENE BRAINSTORMING
第14回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs)	THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together.
第15回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs)	THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together.
		担当者から一言

	講義名	英語 B	(応用コー	-ス)	(人文)		担当教員	Gordon Maclaren			
請	 購義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別 演習					
ナン	バリング番号	101ENG10	4									
	授業概要											
conv home clas w abou	This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class in student pairs will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.											
	到達目標 (1) Students will be able to speak English with good propunciation											
(2) (3)	(1) Students will be able to speak English with good pronunciation. (2) Students will be able to speak English with fluency. (3) Students will be able to speak English with good delivery. (4) Students will be able to speak grammatically correct English.											
	<		L+ /= ++ >#	- 4-4-			成績評価					
	種別	割合(%)	評価基準	等								
:	定期試験											
レ	レポート課題											
	上記以外 25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity											
							授業外学習					
Stud exte	ly 2 scenes fo ensive 350-55	or pair pe D word rep	erformanc oort on y	e (5 our l	hours to ife, an	tal) Study t autobiograph	two or three Screeny, in English (7	en Plays for hours)	movie quiz (3 hours tota	I) Write an		
							教科書					
No			籍名				著者名		出版社	ISBN/ISSN		
1	Pop Stars [N	New Versio	'n]					(Drama	Works, 2009)			
2												
3												
							参考書					
No		書	籍名				著者名		出版社	ISBN/ISSN		
1												
2	2											
3	3											
	前提学力等											
	履修資格											

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	Gordon Maclaren
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別		
ナンバリング番号	101ENG10	4						

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	INTRODUCTION	Review Scenes I-XIII; Class>> Pair reading of Doing Someone's Hair
第2回	Keeping Up With Friends' Lives	Shocking News Over the Phone [XV] 第2-8回PAIR-ACT DRAMA SCENE
第3回	Sharing Mixed Results	Celebrating, Evading and Consoling [XVI]
第4回	Adjusting to a Changed Situation	A Dream Future [XVII]
第5回	Breaking Some Bad NewsBut with a Silver Lining	Signing On [XVIII]
第6回	Working Out	Sharing Success; Asking a Big Favour [XIX]
第7回	The End'	The Drama's Resolution [XX]
第8回	Review Entire Story	Scene XIV Performance for any Excused Absence students
第9回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第10回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第11回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第12回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第13回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第14回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第15回	OFFICIAL EXAM DATE	Interviews for yet-to-be interviewed / late students & reports
		担当者から一言

	講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文)				担当教員	Karl Hedberg			
静	講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習					
ナン	バリング番号	101ENG10	3										
	授業概要												
Stud play to g teac	Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.												
							 到達目標	<u> </u>					
Stud	到達目標 Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.												
	成績評価												
	種別	割合(%)	評価基準	等									
	定期試験												
V	レポート課題												
	上記以外												
25%	Mid-term Spea Mid-term Wri Vocabulary Q	ting test.	t. Each S	peaki	ng								
							授業外学	習					
	I		*** A		Ī		教科書	:		11.115	1 1001/1001		
No	English for		籍名 			Stevens	著者名		3C Engl	出版社 ish Publications	ISBN/ISSN		
1													
2													
3													
	•								•		•		
							参考書						
No		書籍	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN		
1													
2	2												
3	3												
	前提学力等												
							履修資格	各					

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別		
ナンバリング番号	101ENG10	3						

		授業計画							
回数	タイトル	概要							
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.							
第2回	Getting to Know You	Making friends and exchanging (or not exchanging) personal information.							
第3回	Getting to Know You	Learning to learn 1, going beyond first introductions, Quiz 1.							
第4回	Airports and Hotels	Quiz 2, Talking about travel, memory game 1, song 1.							
第5回	Airports and Hotels	Talking about travel and learning to learn 2.							
第6回	Getting Around Town	Quiz 3, Describing your hometown and game 2.							
第7回	Getting Around Town	Getting to know Shiga, song 2.							
第8回	Food and Restaurants	Quiz 4, Food and Restaurants							
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.							
第10回	Food and Restaurants	Comparing Japanese / American food.							
第11回	Shopp i ng	Quiz 5, Talk about shopping							
第12回	Shopp i ng	Talk about shopping, song 3.							
第13回	At the doctor's	Quiz 6, Talk about illnesses and injuries							
第14回	Watching movies	Talk about films and TV shows							
第15回	Review, Review, Review	Review.							
第16回	Final Exam								
		担当者から一言							

	講義名	英語 B	(応用コ・	-ス)	(人文)			担当教員	Karl Hedberg		
講	義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習				
ナンノ	バリング番号	101ENG10	4									
	授業概要											
Stude plays indiv fron	Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.											
	到達目標											
Stude them	Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.											
	7.E.D.I	PH A (a)	L == /== += ×=	+ <i>^</i>			成績評価	5				
	種別	割合(%)	評価基準	等								
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	定期試験											
レ	ンポート課題											
-	上記以外											
25% N	Mid-term Spea Wid-term Wri Vocabulary Qu	ting test.	t. Each S	Speakir	ng							
2070	vocabarary w	312200					授業外学	習				
N. I		*	ET &7			ı	教科書		T	11,45 \$1	LODAL/LOOM	
No			籍名 ————————————————————————————————————				著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1												
2												
3												
							参考書					
No		書籍	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1												
2	2											
3	3											
	前提学力等											
	履修資格											

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文))		担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別		
ナンバリング番号	101ENG10	4						

		授業計画						
回数	タイトル	概要						
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.						
第2回	Memory and the Past	Talking about your weekend.						
第3回	Memory and the Past	Quiz 1, Asking about the past.						
第4回	The Real You	Quiz 2, Talking about your good and bad points, song 1.						
第5回	The Real You	Your horoscope and learning to learn 2.						
第6回	My Favorites	Quiz 3, Talking about books, movies, and music.						
第7回	My Favorites	Which do you prefer?, song 2.						
第8回	Let's Eat!	Quiz 4, Talking about food and cuisine.						
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.						
第10回	Let's Eat!	Tastes and textures.						
第11回	Experiences	Quiz 5, Talking about some of you good and bad experiences.						
第12回	Experiences	Have you?, song 3.						
第13回	Future Plans	Quiz 6, Can you see your future?						
第14回	Future Plans	Hopes and dreams for the future.						
第15回	Review, Review, Review	Review.						
第16回	Final Exam							
	L	担当者から一言						

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文))		担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別		
ナンバリング番号	201ENG20)1						

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらにそれらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

- 1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。 2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。 3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。 4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験 定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。 40%									
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)							
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。							

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。 通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133					
2	TOEICテスト英単語Core Core 1200	小川慶	テイエス企画	488784204x					
3									

	◆ ±≢									
	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

前	提学	<u>5</u> カ	等
. נים	ᄯᄀ	_/J	ਚ

特になし

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文))		担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	1							

	·····································								
回数	タイトル	概要							
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など							
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解							
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習							
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ							
	担当者から一言								

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。 忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文))		担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	2							

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、 映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上 を目標として授業を進めていきます。 また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

- 1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。 2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。 3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。 4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。							
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)							
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。							

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。 通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133					
2	TOEICテスト英単語Core Core 1200	小川慶	テイエス企画	488784204x					
3									

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

前提学力等	
けいたナノノマ	

特になし

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文))		担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	2							

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ
		担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。 忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

	講義名	英語 A	(充実コー)	ス)(/	(文)				担当教員	真田	満	
譜	<u></u> 講義コード	1110541	単位数	1 開	開講期	前期	授業種別	演習				
ナン	バリング番号	201ENG20	1				•					
							授業概	要		-		
 現代 高い 、発	社会の諸問題 コミュニケー 言することで	に関するエションに必 弱強や強弱	ッセイや科 要な教養を の英語独自	学に関 深める のリズ	する文章 。またウ ムに慣れ	 ҈を読み、 ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	英語の読解 教材を使い、	力を伸ば 英語を聞	すとともに、 き、理解する	批判的 能力も	ウにテキストを読 を養う。毎回の授	む力を養い、知的レベルの 業において、英語を音読し
	到達目標											
テータ	一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。 正しい発音を身につける。											
	成績評価											
	種別	割合(%)	評価基準等		コリアき	+E+ + /= :	<u> </u>					
	定期試験	40	到達目標	اد	JUI Cai	式験を行う	つ。					
L	ポート課題											
	上記以外	60	到達目標 到達目標	ات ک ات	関し、2 関しては	回小テス は、授業 [*]	トを行い、言 での発表をも	F価の40% とに、評	とする。 価の20%とす	る。こ	の20%には毎回の	宿題も含める。
30分	業回数の3分の 以上の遅刻は 3回で1回の欠	認めない。		評価の	対象とし	ない。						
							授業外等	習				
教科 TOEI	書のテキスト C対策も兼ねた	を批判的に :語彙と文》	読み、設問 法に関する問	に答え 問題プリ	てくるこ リントも	ことで予覧 毎回配付	習をしっかり するので、解	行うこと 答してく	、 ること。			
	T	=	* ~				教科書	탈			1,117.41	1000//100/
No	World Englis		籍名 —————		+	Kristin	著者名 L. Johannse	n他	Cengage		出版社	ISBN/ISSN
1												9781285848709
3					\dashv							
							参考	Ė				
No		書籍	 谱名				著者名			Ŀ	 出版社	ISBN/ISSN
1												
2												

前提学力等

履修資格

随時、授業中にプリントを配付する。

英語Iと英語IIで身につけた英語力

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文))		担当教員	真田 満	
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	1							

, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	フハリング留号 201EN0201											
 回数	タイトル											
	Introduction	投業の説明										
第1回		予習手順等の説明										
第2回	Unit 1, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第3回	Unit 1, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第4回	Unit 2, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第5回	Unit 2, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第6回	Unit 3, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第7回	Unit 3, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第8回	1st Quiz TED Talks	第1回小テスト TED教材を用いたリスニング練習										
第9回	Unit 4, part 1	小テストの講評 宿題の解答と解説										
第10回	Unit 4, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第11回	Unit 5, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第12回	Unit 5, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第13回	2nd Quiz TED Talks	第2回小テスト TED教材を用いたリスニング練習										
第14回	Unit 6, part 1	小テストの講評 宿題の解答と解説										
第15回	Unit 6, part 2 Recapitulation	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
		 担当者から一言										
		3-4H7 5-H										

英語辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。

講義名	英語 B	(充実コ・	-ス)	(人文))		担当教員	真田 満				
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習					
ナンバリング番号	201ENG20	2										
						授業概要	Ę					
現代社会の諸問題 高いコミュニケー の考えを口頭で発	授業概要 現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの 高いコミュニケーションに必要な教養を深める。また、正確な英文法に注意しながら、論理的な英語を書く力を養う。英語を書くだけでなく、自分 の考えを口頭で発表し、他学生と議論する能力も培う。											

到達目標

一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で書くことができる。 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。 正しい発音を身につける。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 に関し、2回小テストを行い、評価の40%とする。 到達目標 と に関しては、授業での発表をもとに、評価の20%とする。この20%には毎回の宿題も含める。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。 30分以上の遅刻は認めない。 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	World English 2	Kristin L. Johannsen他	Cengage	9781285848709								
2												
3												

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文))		担当教員	真田 満	
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	2							

,,,,,,	フハウフケ留号											
 回数	タイトル	概要										
第1回	Introduction Unit 7, part 1	英語IIIAで学んだことの復習 リーディング・パッセージの読解										
第2回	Unit 7, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第3回	Unit 8, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第4回	Unit 8, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第5回	Unit 9, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第6回	Unit 9, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第7回	1st quiz TED Talks	第1回小テスト TED教材を使ったリスニング練習										
第8回	Unit 10, part 1	小テストの講評 宿題の解答と解説										
第9回	Unit 10, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第10回	Unit 11, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第11回	Unit 11, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第12回	Unit 12, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解										
第13回	2nd Quiz TED Talks	第2回小テスト TED教材を使ったリスニング練習										
第14回	Unit 12, part 2	小テストの講評 宿題の解答と解説										
第15回	Recapitulation	英語IIIBで学んだことのまとめ										
		担当者から一言										

英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。

	講義名	英語 A	(充実コ・	-ス)	(人文)			担当教員	Armando Duarte		
請	義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習				
ナン	バリング番号	201ENG20	1	•		•	•					
This watc	This 4 skills class will introduce various topics about culture and communication every week. Students will listen to conversations, watch videos, and read and write about different topics. Students will be graded on their speaking and writing skills.											
		11 1 1 .		4 -1-		the teather	到達目村			a studente elevado com		
as h	y week we wi omework.	II try to	complete	1 Ch	apter in	the textboo	ok. If we d	on't fi	nish in clas	s, students should compl	ete those activities	
	成績評価											
	種別	割合(%)	評価基準									
5	定期試験	30% Attendance - Please come to class every week. 1 absence = -2% from the final score.										
レ	ポート課題	35%	Writing Homework - Students will respond to some question related to the class topic.									
	上記以外	35%	Speaking	g Home	work - St	tudents will	I record a	speech	related to t	he class topic.		
Plea	Please submit your homework on time. Any late homework will receive a penalty of 15 points.											
							授業外学	캠				
This	class does	not have a	a midterm	or a	final ex	camination.						
							教科書	<u>t</u>				
No	Finding Conr		籍名			Todd Rucyr	著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1	Finding Con	lect foris				Todd Rucyl	ISKI				978-476-474-0761	
2												
3						<u> </u>						
Plea	se buy the to	extbook as	s soon as	poss	ible.							
							参考書	t i				
No		書籍	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1												
2						<u> </u>						
3							_					
							前提学力]等				
							履修資	洛				

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文))		担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別			
ナンバリング番号	201ENG20	1	·				·		

7 2 11 9 2	フク留写 ZUILNOZUI								
	.	授業計画 T							
回数	タイトル Week 1	概要							
第1回		Introduce class topics – What made you who you are?							
第2回	Week 2	What is good about you?							
第3回	Week 3	Can you tell me about music?							
第4回	Week 4	hen and who did you ask for advice?							
第5回	Week 5	Are you easy to live with?							
第6回	Week 6	What is your type?							
第7回	Week 7	How do you give and receive compliments?							
第8回	Week 8	"Do you like me?!"							
第9回	Week 9	Can you guess?							
第10回	Week 10	Can we work it out?							
第11回	Week 11	How do you describe events in detail?							
第12回	Week 12	What are you into?							
第13回	Week 13	How do you help a friend find the way?							
第14回	Week 14	What are you talking about?							
第15回	Week 15	Can you tell me a story?							
		担当者から一言							

Please come to my office or email me any time to ask a question! My door is always open.

	講義名	英語 B	(充実コー	-ス)	(人文)		担当教員	坂本 輝世		
讃	義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別演	習			
ナン	バリング番号	201ENG20	2								
							授業概要	•	•		
こにイも	授業は、英語 って関心のあ ィング)、ロ! いますが、小	を使うこと る事柄につ 頭での英語 グループで	によって いてさら 発表のや 互いにア	英語を に詳し り取り ドバイ	E学ぶ、プ いく調べ、)を行う力 (スをし合	プロジェクトロ 必要な情報を ロ(スピーキン い学び合って	P心の演習クラブ を精確に読み取 ング + リスニング て、より良いもの	スです。これま る力 (リーディ ブ) を高めます Dをめざします	で学んできた英語のス ング)、理解し考えた 。また、ブロジェクト 。	キルと知識を活かして、自分 ことを英語で表現する力(ラ は各自で責任をもって行って	
(1	> 宀 / - 4/5回 - 5/	+ +	· l. 4 =-	TD 7	. – . – .	こ. ダカナ 白ぃ	到達目標				
(2) 自分が調べ) 口頭発表を) 自分にとっ	行い、Q&A7	などで英語	語でや	り取りをす	する力を身に		力を身につける			
							成績評価				
	種別	割合(%)	評価基準	等							
7	定期試験										
レ	ポート課題										
	上記以外	100%	到達目標	(2))について	.、中間および	び最終発表によ び最終発表によ て、毎週の課題	って評価(25%	o) o) dり組みによって評価(50%)	
正当。	な理由がなく	全クラスの								この遅刻は欠席として扱います	
							授業外学習				
この	クラスは、授	業外での学	習(課題	提出)	の積み重	ねが評価され	れます。毎週、 詩	果題に取り組む	時間を確保してくださ	· 61°	
							教科書	į.		_	
No			語名				著者名		出版社	ISBN/ISSN	
1	プロジェクト	·発信型英語	告 1			鈴木佑治 		南雲堂	<u> </u>	9784523177357	
2											
3											
辞書	と教科書は、	必ず初回授 ————	*業から持 	ってく	、ること。 	辞書は、原則	川、紙の辞書か	電子辞書を用意 	:してください。 		
NI -		±.4	TT 67				参考書		11.45.51	10001/1001	
No		書	籍名 ————			-	著者名 		出版社	ISBN/ISSN	
1											
2											
3											
							前提学力等				
							履修資格				

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文))			担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	2							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション / Unit 1	授業の進め方・評価方法の説明、English activities
第2回	Unit 2 Self-appeal	テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 3 What is research?	テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 4 Outline of research	テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 5 Organizing ideas and data	テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 6 Research methods	テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 7 Writing a script	テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 8 Mini-presentation (1)	プロジェクト中間発表
第9回	Unit 9 Mini-presentation (2)	プロジェクト中間発表
第10回	Unit 10 Responding to questions (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 11 Responding to questions (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 12 Written presentation	テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 13 Final mini-presentation (1)	プロジェクト最終発表
第14回	Unit 14 Final mini-presentation (2)	プロジェクト最終発表
第15回	Unit 15 Final mini- presentation (3)	プロジェクト最終発表
		担当者から一言

	講義名	英語 A	(充実コース)(人文))			担当教員	佐久間 思帆		
請	講義コード	1110561	単位数 1 開講期	前期	授業種別	演習				
ナン	バリング番号	201ENG20	1							
					授業概勢	<u> </u>				
TOEI	 C形式の教科書	 『を使い、i	 書いてある、もしくは音声	 での英語			てアウトプ	 ットできるようなることを	 目標として、演習形式で	
特訓	します。							ら、他の学生とペアになっ		
一とな	:ります。した	がって授業	への積極的な参加が出席 ト(筆記式)と授業の最	の必要条件	牛です。			5(180) 1 = 2 (7) 12 (8)		
崩末	テストの他に	14、15	回目の講義で英文の暗唱	テストを行	テいます。	K 起 I E 山 /J	J. 00 17 & 9 °			
						_				
(1) 語彙力の向	L			到達目村	票				
(2) リスニング	力の向上								
(4) 読解力の向) 英語での思	考力の向上	:							
(5)英語での発	信力の向上								
					成績評値	Ti di				
	種別	割合(%)	評価基準等							
5	定期試験	50	(1)語彙力10% (2)リスニング力10% (3)読解力10%							
	_10 +m==		, , , ,							
	ポート課題									
	L=⊐N <i>h</i> l		(1)語彙力10%							
	上記以外	50	│(2)リスニング力10% │(3)読解力10%							
14回	、15回目の講	 義で英文暗	<u></u> 唱テストが行われます(定期テスト	ト50点中10点分	たなりま				
5回0	の欠席で評価タ	対象から除め	外されます(出席回数はあ	知らせし	ません)。な	お学校が	認めた公欠り	以外は一切認めません。		
					授業外学	·習				
授業	で扱った英文	を、日本語	から英語に、英語から日	本語にクィ	イックレスポン	ノスできる	るまで復習し	ておくこと。		
No		→			数科書 著者名			 出版社	ISBN/ISSN	
No	SCORE BOOST		TOEIC L&R TEST	を 提首 ウ			金星堂	ШЛХ↑⊥	13DN/133N	
1	INTERMEDIATE		TOLIO LUN ILUI	田勿且人	、 1.4円が円		本主王		978-4-7647-4090-7	
2										
<u> </u>										
3										
必ず	L ['] 購入のこと。								1	
					4 +v =					
No		→	第夕		参考書			 出版社	I CDN / I CON	
No			籍名 		著者名			цих↑⊥	ISBN/ISSN	
1										
2										
3										

履修資格

前提学力等 3回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文))		担当教員	佐久間	思帆	
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	201ENG20	1								

	7 12 3	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	英語の基礎事項の確認	基礎事項の確認
第2回	Unit1	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit1	Part2, 3, 6
第4回	Unit2	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit2	Part2, 3, 6
第6回	Unit3	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit3	Part2, 3, 6
第8回	Unit4	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit4	Part2, 3, 6
第10回	Unit5	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit5	Part2, 3, 6
第12回	Unit6	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit6	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit1~6の復習
第15回	暗唱テスト	Unit1~6の復習
		担当者から一言

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。

		1							_		
	講義名	英語 B	(充実コース)	(人文)				担当教員	佐久間	思帆	
請	義コード	1110562	単位数 1	開講期	後期	授業種別	演習				
ナン	バリング番号	201ENG20	2								
						授業概	要				
TOEI 特訓	C形式の教科書 します。	書を使い、	書いてある、も	しくは音声	での英語で	を素早く理解	し、そし	レてアウトプ [・]	ットでき	るようなることを	目標として、演習形式で
英語 とな 毎回	を読み・聞き ります。した の授業の初め	がって授業 に復習テス	は実力はつきま への積極的な (ト(筆記式) 回目の講義で	参加が出席の と授業の最後	D必要条件 後にグルー	です。 プ単位での説			ら、他の)学生とペアにな	っての演習や音読が大事
L											
(1) 語彙力の向	<u> </u>				到達目	漂				
(2))) 説り に い に い に の に の に の の の の の の の の の の の の の	力の向上 上 考力の向上	<u>:</u>								
						成績評値	価				
	種別	割合(%)	評価基準等	400/							
:	定期試験	50	(1)語彙力 (2)リスニ (3)読解力	10% ング力10% 10%							
レ	ポート課題										
	上記以外	50	(1)語彙力 (2)リスニ (3)読解力	ングカ10%							
14回 5回0	、15回目の講 D欠席で評価対	義で英文暗 対象から除名	唱テストが行: 外されます(出	われます (テピ は席回数はお	E期テスト 知らせしā	50点中10点分 ません)。な	うになり お学校 <i>た</i>	ます) が認めた公欠し	以外は一	切認めません。	
1= 11/4	IP / \		- 1. S	++- /· > =	1	授業外学					
授業	で扱った英文	を、日本語	から英語に、	英語から日本	下語にクイ	ックレスボン	ノスでき	るまで復習し	ておくこ	٤.	
						教科書	<u>t</u>				_
No	978-4-7647-4		籍名 ————————————————————————————————————		来担古う	著者名 小山克明		金星堂	出月	<u>饭社</u>	ISBN/ISSN
1	976-4-7647-4	4090-7			田场且人、	. 小山兄明		- 本生圣			978-4-7647-4090-7
2											
3											
前期	と教科書は同	じです。必	がず購入のこと。	I							
						参考書	ţ				
No		書籍	籍名			著者名			出	饭社	ISBN/ISSN
1											
2											
3											
どの	L ような物でも	構わないの	で辞書を持参	<u> </u>							<u> </u>
						前提学力]等				
3 は認	回生以上の特 めない。	 例処置での)再履修を希望	する学生は、	本シラバ	 スを確認した	- <u></u> :上で必	ず 1 回目の授	業に出席	ますること。出席	しなかった学生の再履修

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文)	١			担当教員	佐久間	思帆
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	201ENG20	2								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	基礎事項の確認
第2回	Unit7	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit7	Part2, 3, 6
第4回	Unit8	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit8	Part2, 3, 6
第6回	Unit9	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit9	Part2, 3, 6
第8回	Unit10	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit10	Part2, 3, 6
第10回	Unit11	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit11	Part2, 3, 6
第12回	Unit12	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit12	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit7~12の復習
第15回	暗唱テスト	Unit7~12の復習
	•	担当者から一言

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。

講	義名	英語 A	 (充実コ・	-ス)	(人文)			担当教員	Graham Jones		
講義二	コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習				
ナンバリ	ノング番号	201ENG20	1									
							授業概象	要				
This soo their vo techniqu	This social studies themed course will build on the speaking, listening, writing and reading skills of students, and further develop their vocabulary. In class, the students will work in pairs and small groups. Students will also practise a number of self-study techniques.											
							到達目	漂				
Reading:	: Students	s will be	able to	read	and compi	rehend longe	er articles	writte	n using comp	lex English sentences and	I topic-specific	
Writing: correct	: Śtudents ly.				_	•				graphs that are spelled a		
Speaking	g: Studen	ts will be	e able to	arti	culate si	ımple opinio	ons and exp	ress ag	reement/disa	greement in class discuss	sions.	
							_+ /±+= /	.				
	別	割合(%)	評価基準	基等			成績評値	曲				
					istening	/speaking t	est					
正期	定期試験 50 End-of-term listening/speaking test											
レポー	ペート課題 50 Mid-term reading/writing test											
上記	己以外											
							授業外学	'뽭				
							教科書	Ė		11.00		
No	t Topics .		籍名			Stophonio	著者名 Alexander		Compage	出版社 Publishing	ISBN/ISSN	
1	T TOPTES C	јаран н				Stephanie	ATEXAME		Compass	rubitisiting	978-1-61352-519-7	
2												
3												
						ı			ı			
							参考書					
No		書籍					著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1												
2	2											
3												
						ı			I			
							前提学力	等				
							履修資	各				

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文))		担当教員	Graham Jones	
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	1							

		授業計画									
回数	タイトル	概要									
第1回	Unit 1	Personal space									
第2回	Unit 1	Personal space									
第3回	Unit 2	Japanese restaurant culture									
第4回	Unit 2	Japanese restaurant culture									
第5回	Unit 3	Collectivism									
第6回	Unit 3	ollectivism									
第7回	Unit 4	atural vs. artificial ingredients in snacks									
第8回	Unit 4	Natural vs. artificial ingredients in snacks									
第9回	Unit 5	Medical masks in Japan									
第10回	Unit 5	Medical masks in Japan									
第11回	Unit 6	Japanese tea									
第12回	Unit 6	Japanese tea									
第13回	Unit 7	Youth subcultures in Japan									
第14回	Unit 7	Youth subcultures in Japan									
第15回	Unit 8	Juku culture									
		担当者から一言									

	講義名	英語 B	3(充実コ	-ス)	(人文)			担当教員	Graham Jones			
講	義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習					
ナンバ	バリング番号	201ENG2	02				•						
							授業概象	要					
This their techn	social stud r vocabulary niques.	ies theme . In clas	ed course ss, the st	will udent	build on s will wo	the speaki			ting and rea s. Students w	nding skills of students vill also practise a numb	, and further develop per of self-study		
							到達目村						
vocab Writi corre	bulary. ing: Student: ectly.	s will be	able to	write	grammat	ically corr	ect complex	senten	ices and para	olex English sentences and agraphs that are spelled agreement in class discus	and punctuated		
							成績評(西					
	種別	割合(%)	評価基準										
7	定期試験	Fnd-of-term Listening/speaking test											
レ7	レポート課題 50 Mid-term reading/writing test												
-	上記以外												
			•										
							授業外学	-習					
							教科書	ţ					
No			籍名				著者名		_	出版社	ISBN/ISSN		
1	Hot Topics	Japan 1				Stephanie	Alexander		Compass	Publishing	978-1-61352-519-7		
2													
3													
							参考書	<u>t</u>					
No		書	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN		
1													
2													
3													
							前提学力	等					
							履修資	各					

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文)			担当教員	Graham Jones	
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	2							

	授業計画											
回数	タイトル	概要										
第1回	Unit 8	Juku culture										
第2回	Unit 9	Studying abroad										
第3回	Unit 9	Studying abroad										
第4回	Unit 10	Cell phone etiquette in public places										
第5回	Unit 10	Cell phone etiquette in public places										
第6回	Unit 11	ending machines										
第7回	Unit 11	Vending machines										
第8回	Unit 12	Robotics research										
第9回	Unit 12	Robotics research										
第10回	Unit 13	Manga										
第11回	Unit 13	Manga										
第12回	Unit 14	Karaoke										
第13回	Unit 14	Karaoke										
第14回	Unit 15	Japanese gardens										
第15回	Unit 15	Japanese gardens										
		担当者から一言										

	講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文)		担当教員	神田	眞喜子		
静	講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別 演習					
ナン	バリング番号	201ENG20	3									
							授業概要		•			
本授標す。	本授業では、4技能を統合的に活用し、特にライティング能力の向上に重点を置きます。パラグラフライティングから論理的な文章が書けることを 目標とします。パラグラフライティングに必要な文法や表現を学習します。また、リスニングと音読を通してパラグラフの構成についても学習しま す。ペアワークやグループワークを通してインブットからアウトブットにつなげる活動もします。											
							 到達目標					
(2	(1)論理的なパラグラグを書くことができる。 (2)語彙力や文法力を向上させる。 (3)リスニング力を向上させる。 (4)積極的に英語でコミュニケーションすることができる。											
	成績評価											
	種別	割合(%)	評価基準		. (2)	(2)	T #11-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	v. l				
,	定期試験	40%	到達日標	(1,) (2) ((3) [2](1	て、期末試験で40	%として評価。				
レ	レポート課題											
	上記以外	60%	到達目標 到達目標	(1)) (2) lā) (3) (こついて、エ (4)につい	ッセーテストを 2 て、指示した活動	回行い、40%と や課題で20%と	して評値 して評価	Б .		
							授業外学習					
学習	内容を効果的	に定着させ	るため、	授業0	D復習・予	⁶ 習などの授業	業外学習は欠かさ	ず行うこと。				
							 教科書					
No			籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1	Smart Writin	ng				Miyako Nak	kaya他	SEIBIDO			978-4-7919-6032-3	
2												
3			_		_							
初回	授業でテキス 	トの説明・ <u>—</u> —	導入を予	定して 	こいるため)、各自必ず! 	購入を済ませて持	参すること。 辞 —————	書を必	ず持参すること。 		
,.		+ -	** ~				参考書			. IIC ÷ I	10001110	
No		書	籍名				著者名 ————————————————————————————————————			出版社	ISBN/ISSN	
1												
2												
3												
							前提学力等					
							133451 /375					
	履修資格											
							ng I/2 및 10					

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文))			担当教員	神田 眞喜子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	3							

	5 7 1 11	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。 受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Chapter 1 What is a Paragraph	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第3回	Chapter 1 What is a Paragraph	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第4回	Chapter 2 Narration	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第5回	Chapter 2 Narration	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第6回	Chapter 3 Process	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第7回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第8回	エッセーを書く(1)	与えれたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。
第9回	Chapter 4 Description of Feelings	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第10回	Chapter 4 Description of Feelings	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第11回	Chapter 5 Description of People	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第12回	Chapter 6 Description of Places & Locations	 リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第13回	Chapter 7 Definition	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第14回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第15回	エッセーを書く(2)	与えれたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。

	講義名	英語 B	(展開コ・	-ス)	(人文)		担当教員	神田	眞喜子			
諺	構義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別 演習						
ナン	バリング番号	201ENG20	4										
							授業概要						
本授 目標 す。	業では、4技 とします。パ ペアワークや	能を統合的 ラグラフラ グループワ	に活用し イティン ークを通	、特に グに必 してィ	ニライティ が要な文法 インプット	ング能力の[で表現を学習 からアウト]	句上に重点を置き 習します。また、 プットにつなげる	ます。パラグラ リスニングと音 活動もします。	フライ 読を通	ティングから論理 してパラグラフの	里的な文章が書けることを D構成についても学習しま		
							到 湊 日 堙						
(1	(1) 論理的なパラグラグを書くことができる。 (2) 結婚者 かみさけれる ローナルス												
(2)	(I) im理的はパラグラグを書くことができる。 (2) 語彙力や文法力を向上させる。 (3) リスニング力を向上させる。 (4) 積極的に英語でコミュニケーションすることができる。												
(4	(4)積極的に英語でコミュニケーションすることができる。												
	T, T≓ ±√, 4−												
	成績評価 種別 割合(%) 評価基準等												
7	定期試験		到達目標	(1)) (2) ((3)につい	て、期末試験で30	%として評価。					
Lz:	レポート課題												
	上記以外	70%	到達目標 到達目標 到達目標	(1)) (2) (3) (3) (3) (3) (5	こういて、エ· (4)につい こついてTOEI(ッセーテストを 2 て、指示した活動 Cのスコアで10%と	回行い、40%と や課題で20%と して評価。	して評値して評価	血。 西。			
							授業外学習						
学習	内容を効果的	に定着させ	るため、	授業σ)復習・予	8習などの授業	業外学習は欠かさ	ず行うこと。					
							教科書						
No	Connut Worldin		籍名			Missala Nal	著者名	CEIRIDO		出版社	ISBN/ISSN		
1	Smart Writir	ig				Miyako Nak	Kaya世	SEIBIDO			978-4-7919-6032-3		
2													
3													
辞書	を必ず持参す	ること。											
						1	参考書						
No		書第	籍名				著者名		1	出版社	ISBN/ISSN		
1													
2													
3													
							24,10 24 JL 77						
	前提学力等												
							履修資格						

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文))		担当教員	神田 眞喜子	
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	4							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要、方針、課題についての説明。
第2回	Chapter 8 Comparison & Contrast	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第3回	Chapter 8 Comparison & Contrast	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第4回	Chapter 9 Cause & Effect	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第5回	Chapter 9 Cause & Effect	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第6回	Chapter 10 Problems & Solutions	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第7回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第8回	エッセーを書く(1)	与えれたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。
第9回	Chapter 11 Your Opinion - Agree	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第10回	Chapter 12 Your Opinion - Disagree	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第11回	Chapter 13 Data Analysis	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第12回	Chapter 13 Data Analysis	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第13回	Chapter 14 Email Writing	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第14回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第15回	エッセーを書く(2)	与えれたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。
		担当者から一言
		1元コロル・ウ 日

講義名	英語 A	(展開コース)(人文)				担当教員	渡 寛法				
講義コード	1110751	単位数 1	開講期	前期	授業種別	演習						
ナンバリング番号	201ENG20	3										
	授業概要											
本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。												
					到達目	票						
(2) TOEICレベル	(1)TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。											
_					成績評値	西						
種別	割合(%)	評価基準等	> に明し テロ	. #0-+	FA - 本	-	10/ >					
定期試験	60	到達目標(1)に関しては	、期末試	辆 ぐ評1曲 しま	£∮(60	l%)。					
レポート課題												

到達目標(2)に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し(20%)、到達目標(3)に関しては、各回の小テストで評価します(20%)。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

上記以外

40

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション 協会	978-4-906033-53-9								
2												
3												

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

刖	捉	字	刀	寺	

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文))			担当教員	渡 寛法
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	3							

	<u> </u>	授業計画
	タイトル	概要
	オリエンテーション	自己紹介、授業の概要説明。
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第9回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。
		担当者から一言

When life gives you lemons, make lemonade! ピンチをチャンスにできるかは自分次第です。置かれた状況でベストを尽くしてください。

講義名	英語 B ((展開コー	-ス)	(人文)				担当教員	渡 寛法
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204	1							
授業概要									
授業概要 本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解きる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。									

77.1	1 > ±	1 #
	達	

- (1)TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験	60	到達目標(1)に関しては、期末試験で評価します(60%)。							
レポート課題									
上記以外	40	到達目標(2)に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し (20%)、到達目標(3)に関しては、各回の小テストで評価します(20%)。							

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション 協会	978-4-906033-53-9						
2										
3										

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

前提学力等

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文))			担当教員	渡寬法
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	4							

		授業計画
	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	夏休みの振り返り、今学期の目標設定。
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第9回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。
		+ロソネル? - 古
		担当者から一言

前期に引き続き、TOEIC公式問題集で12月の試験にむけて腕を磨いていきましょう!千里の道も一歩から!A journey of a thousand miles begins with a single step!!

	講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文)			担当教員	 菰田 真由美	
講	義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習			
ナン	バリング番号	201ENG20)3								
							授業概要	要			
を見	授業では、外 て、世界各国	国人が実際の多様な3	景に体験す さ化背景を	る日 ² 持つ	本文化の 現 スピーカー	地レポート の考えに触	と、様々な頃れ、日本文化	国の出身 化を再認	者が自国文化 識し、世界へ	と日本文化の違いを 向けて英語で発信する	語るディスカッションの映像 る力を養う。
							到達目	標			
(2)英 (3)E	語彙力を増強す き語母語話者は 日本文化を紹介 日本事象につい	うよび非母 ♪する映像	を視聴し、	その	内容を理解	取り、ペアa 解する。	またはグルー	プ・ワ-	ークによってE	自分の考えを述べる。	
							成績評値	'西			
	種別	割合(%)	評価基準	等							
5	定期試験										
レ	ポート課題	40%	到達目標	₹(4)IC	ついては、	、レポート記	課題によって	評価する	ర		
	上記以外	60%	到達目標によって	(1)に 評価 ⁻	:ついては、 する。	、授業内の仏	小テスト(30%	。)、到達	目標(2)(3)に	こついては、授業中の	活動への積極的な参加(30%)
授業	を3分の 1 以上	_ _欠席した	場合は、討	平価の	対象とした	ない。また、	3 0 分以上	の遅刻に	は欠席扱いとな	なる。授業中の携帯電	電話の使用は認めない。
							授業外学	習			
毎週	の授業につい	て、web動	画による初	見聴お	よび音読を	を行い、復習	望をすること.	0			
						-	教科書	ţ			
No	D: :		籍名				著者名		-1: 34: 316	出版社	ISBN/ISSN
1	Discovering	Cool Japa	an 			Akiko Tus	suda他		成美堂		978-4-7919-7187-9
2											
3	 辞書を持参す	ステレ									
大仙	HTE CIVE 9	J C C 0					4 +v=	+			
No		*	 籍名				参考書 	Ī		 出版社	ISBN/ISSN
1			<u>梅口</u>				有日口			ЩЛХТ	13BN/133N
2											
3											
						1					
							前提学力]等			
							履修資	答			
I											

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文)	١		担当教員	菰田 真由美	
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	3							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/授業の進め方等の説明
第2回	Unit1: Long-Established Businesses	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第3回	Unit2: Uniforms	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第4回	Unit3: Volunteer Work	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第5回	Unit4: High-Tech Living (Automobiles)	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第6回	Unit5: Japanese Tableware	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第7回	Unit6: Homemakers of Japan	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第8回	Unit7: Seafood	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第9回	Unit8: Voice Actors	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第10回	Unit9: Japanized Foreign Dishes	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第11回	Unit10: Bags	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第12回	Unit11: Senior Citizens (Medical Checkups)	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第13回	Unit12: Money	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第14回	Unit13: Monkeys	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第15回	復習	前期学習内容の確認と復習
		 担当者から一言

授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教 材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

	講義名	英語 B	(展開コ・	-ス)	(人文)				担当教員	菰田 真由美	
<u></u>	単美コード	1110762	単位数	1	開講期		授業種別	演習			
	議コード ボルング来日			<u> </u>	州明初	12 #7	以来作为				
	バリング番号	201LNG20	<u> </u>				I-T NIV INT				
- m	授業概要 この授業では、NHK World Japanの海外向けニューフ来纽NEWSI INFを視聴し、国内のニューフを英語で理解し、含らに発信する力を養成する										
200	この授業では、NHK World Japanの海外向けニュース番組NEWSLINEを視聴し、国内のニュースを英語で理解し、さらに発信する力を養成する。										
=							到達目	標			
(1)問	詩事問題に関す ニュースを聞い	「る語彙お。)て正しく -	よび身近 <i>/</i> その内容?	は日本を理解	語に対する することが 	英語表現を できる。	を習得する。				
(3) <u> </u> (4) <u>=</u>	ニュースを聞い Eしい発音とイ ニュースの内容	イントネー: FについてI	ションを見自分の意見	身に付 見を英	け、ニュ <mark>ー</mark> 語で述べる	スを音読す ことができ	することがで きる。	きる。			
								/ 			
	種別	割合(%)	評価基準	 E等			成績評	1曲			
9		13 14 (11)									
レ	ポート課題	40%	(4)につ(ハては	、発表及び	「ワークシー	- トの提出で	評価する	5.		
			T-1) + C +	E / 4 \ I —		- エルナー	. = = 1 (00)		D+= (a) (a) I=		エト
	上記以外	60%	 によって 	(1)に	ついては、 する。さらI	授業内の/こ後期に受	♪テスト(30% st験するTOEI(6)、到達 スコア(目標(2)(3)に 10%)を組み込	こついては、授業中の活 込む。	動への積極的な参加(20%)
授業	を3分の1以上	 -欠席した [;]	<u> </u> 場合は、記	平価の	対象としな	い。また、	3 0 分以上	の遅刻に	は欠席扱いとな	なりる。授業中は携帯電	電話等の通信機器の使用は認
めな	い。また、居	眠りや私語	、内職等	は減点	対象となる	3.	77 /1	~,		0.0 00 72310 10.03310 1	
							授業外学				
毎週 語彙	の授業後、各を覚えること	ユニットの 。)映像をオ	ンライ	′ンで視聴し	ノ、リスニ	ング及びシャ	ャドウイ	ング練習を行	うこと。さらに、毎週	実施する小テストに備えて
							教科書	<u> </u>			
No			籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN
1	NHK Newsline	e2				Tatshuro	Yamazaki		金星堂		978-4-7647-4072-3
2											
3											
英和	辞書を持参す	ること。									
							参考書	<u></u>			
No		書	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN
1											
2											
\vdash											
3											
							前提学力]等			
	履修資格										

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文))		担当教員	菰田 真由美	
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	4							

J ンハリ.	フク留写 ZUTENGZO4	
		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	授業の進め方等の説明/ウォームアップ
第2回	Unit: Sprouting New Sushi Ideas	語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第3回	Unit2: In the Pole Position	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第4回	Unit3: Easing Off	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第5回	Unit4: In Memory of Monty	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第6回	Unit5: Dating the AI Way	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第7回	Unit6: Floating on a Dream	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第8回	Unit7: Japan Adventurer Completes Grand Slam	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第9回	Unit8: Sorting It Out	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第10回	Unit9: Haircuts for Charity	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第11回	Unit10: Peer Group Consumption	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第12回	Unit11: Taste of Temple Life	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第13回	Unit12: New Take on Tatami	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第14回	Unit13: Traveling with Confidence	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第15回	Unit14: Tanzanian Students Discover Japan	小テスト 、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
		担当者から一言

担当者から一言

授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教 材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語 A	英語 A(展開コース)(人文)								寛法
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	201ENG20)3								
						授業概要	要			
要な語彙や文法を際に英語を使う訓	授業概要 本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。									

到達目標

- (1)TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	60	到達目標(1)に関しては、期末試験で評価します(60%)。								
レポート課題										
上記以外	40	到達目標(2)に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し (20%)、到達目標(3)に関しては、各回の小テストで評価します(20%)。								

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション 協会	978-4-906033-53-9						
2										
3										

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

前提学力等

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文))		担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	3							

	授業計画									
 回数	タイトル	概要								
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の概要説明。								
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第8回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第9回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第10回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第11回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第12回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第13回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第14回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
第15回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。								
		担当者から一言								

When life gives you lemons, make lemonade! ピンチをチャンスにできるかは自分次第です。置かれた状況でベストを尽くしてください。

講義名	英語 B(展開コース)(人文)									寛法
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	201ENG20)4								
						授業概要	要			
要な語彙や文法を 際に英語を使う訓	授業概要 本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解ききる時報力も変められます。本授業ではころした実践れた例ばままたよう語において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。									

到達目標

- (1)TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

	成績評価											
種別	割合(%)	評価基準等										
定期試験	60	到達目標(1)に関しては、期末試験で評価します(60%)。										
レポート課題												
上記以外	40	到達目標(2)に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し (20%)、到達目標(3)に関しては、各回の小テストで評価します(20%)。										

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

	教科書													
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN										
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション 協会	978-4-906033-53-9										
2														
3														

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1													
2													
3													

前提学力等

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文))			担当教員	渡寬法
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	4							

	7 3	授業計画
	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	夏休みの振り返り、今学期の目標設定。
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第9回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。
		セルネから デ
		担当者から一言

前期に引き続き、TOEIC公式問題集で12月の試験にむけて腕を磨いていきましょう!千里の道も一歩から!A journey of a thousand miles begins with a single step !!

	講義名	英語 A	(展開コー	-ス)	(人文)		担	当教員	坂本	輝世			
講	義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別	習						
ナン	バリング番号	201ENG20	3											
							授業概要							
こにイも	この授業は、英語を使うことによって英語を学ぶ、プロジェクト中心の演習クラスです。これまで学んできた英語のスキルと知識を活かして、自分にとって関心のある事柄についてさらに詳しく調べ、必要な情報を精確に読み取る力(リーディング)、理解し考えたことを英語で表現する力(ライティング)、口頭での英語発表のやり取りを行う力(スピーキング + リスニング)を高めます。また、プロジェクトは各自で責任をもって行ってもらいますが、小グループで互いにアドバイスをし合い学び合って、より良いものをめざします。													
	到達目標													
							こつける							
(2)	(1)自分が調べた内容をまとめて表現するライティング力を身につける (2)口頭発表を行い、Q&Aなどで英語でやり取りをする力を身につける (3)自分にとって関心のある事柄について調べ、必要な情報を精確に読み取る力を身につける													
	成績評価													
	種別	割合(%)	評価基準	等			, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,							
7	定期試験													
レ	ンポート課題													
	上記以外	100%	到達目標	(2)	について	.、中間および	び最終発表によ び最終発表によ て、毎週の課題	って評価	(25%)	組みに	よって評価	i (50%)		
正当。	な理由がなく												欠席として扱います	
							授業外学習							
この	クラスは、授	業外での学	習(課題	提出)	の積み重	ねが評価され	1ます。毎週、	課題に取	り組む時	間を確	保してくだ	さい。		
							教科書	-				_		
No	70% 61		籍名			M + # //	著者名			<u> </u>	出版社		ISBN/ISSN	
1	プロジェクト	· 我信型央記	一——			鈴木佑治 			南雲堂				9784523177357	
2												\longrightarrow		
3 辞書	と教科書は、	必ず初回授	 業から持	ってく	ること。	 辞書は、原則	川、紙の辞書か	電子辞書	 を用意し	てくだ	さい。			
							参考書							
No		書籍	籍名				著者名			Н	出版社		ISBN/ISSN	
1														
2														
3														
	前提学力等													
	HUJAE オップゼ													
	履修資格													
							アタコス アラコロ							

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文)	1		担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	3							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション / Unit 1	授業の進め方・評価方法の説明、English activities
第2回	Unit 2 Self-appeal	テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 3 What is research?	テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 4 Outline of research	テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 5 Organizing ideas and data	テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 6 Research methods	テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 7 Writing a script	テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 8 Mini-presentation (1)	プロジェクト中間発表
第9回	Unit 9 Mini-presentation (2)	プロジェクト中間発表
第10回	Unit 10 Responding to questions (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 11 Responding to questions (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 12 Written presentation	テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 13 Final mini-presentation (1)	プロジェクト最終発表
第14回	Unit 14 Final mini-presentation (2)	プロジェクト最終発表
第15回	Unit 15 Final mini- presentation (3)	プロジェクト最終発表
		担当者から一言

	講義名	英語 B	(展開コー	-ス)	(人文)				担当教員	坂本	輝世			
講	義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習						
ナンル	バリング番号	201ENG20	4											
							授業概要	Ę						
を活で表	この授業は、前期に引き続き、英語を使うことによって英語を学ぶ、プロジェクト中心の演習クラスです。これまで学んできた英語のスキルと知識を活かして、自分にとって関心のある事柄についてさらに詳しく調べ、必要な情報を精確に読み取る力(リーディング)、理解し考えたことを英語で表現する力(ライティング)、口頭での英語発表のやり取りを行う力(スピーキング + リスニング)を高めます。また、プロジェクトは各自で責任をもって行ってもらいますが、小グループで互いにアドバイスをし合い学び合って、より良いものをめざします。													
	到達目標													
(1	(1) 自分が調べた内容をまとめて表現するライティング力を身につける													
(3	(1) 自分が調べた内容をよどめく表現するライテイング力を身につける (2) 口頭発表を行い、Q&Aなどで英語でやり取りをする力を身につける (3) 自分にとって関心のある事柄について調べ、必要な情報を精確に読み取る力を身につける													
	成績評価													
	種別	割合(%)	評価基準	等										
7	定期試験													
レ	ポート課題													
	上記以外	100%	到達目標	(1)	(2)(3	3)につい	1て、毎週の記	#題とク		組みに	こよって評価 (50%	·		
正当:	な理由がなく	全クラスの	01/3以.	上欠席	もした場合、	評価の対	象としません)。なお 	、遅刻3回で	欠席 1	回、30分以上の過	屋刻は欠席として扱います		
	4 II	* 1 - 0 *	. TT		O.往っ.モル	10±11/11 ->-	授業外学		I— BB 12 48 ±\ 8±		1/01 - 7 / 4 * - 1			
	クラスは、按:	美外での子	首(秣起)	走山 <i>)</i>	の傾め里ん	ひい計画で	れまり。 毋返	1、	に拟り組む時	间を帷	保してください。 			
No		a	 籍名		Т		教科書 著者名		1		 出版社	ISBN/ISSN		
1	プロジェクト					鈴木佑治	有日口		南雲堂		LI NX T.L	9784523177357		
2												3104323111331		
3 拉聿	レ数科書け	₩₹₩₽₩	迷からせ		スーレ ギ	建十 店	田川 紅のむき	₹か⊕ァ	位書を出会!	ナノギ	: 			
一件音	と教科書は、	から が 門技	未かり持	<i>-</i>	っここ。群	+音は、原			井育を用息し	C \ 10	. C V I ₀			
No		書館	 籍名				参考書 著者名			Н	 出版社	ISBN/ISSN		
1					+		111					152		
2														
3														
							前提学力	·						
	から初めてこ から初めてこ		履修する	場合は	は、前期の内	容につい			テキストのUn	it 1~	15をよく読んだ」	上で、最初の授業前に面談		

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文))		担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG20	4							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 16 Starting a project	授業の進め方・評価方法の説明、English activities
第2回	Unit 17 Gathering data from interviews	テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 18 Gathering data from questionnaire	テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 19 Multimeidia resources (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 20 Multimedia resources (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 21 Mid-term presentation (1)	プロジェクト中間発表
第7回	Unit 22 Mid-term presentation (2)	プロジェクト中間発表
第8回	Unit 23 Paragraph reading (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 24 Paragraph reading (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 25 Summarizing paragraphs (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 26 Summarizing paragraphs (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 27 Writing an outline	テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 28 Final presentation (1)	プロジェクト最終発表
第14回	Unit 29 Final presentation (2)	プロジェクト最終発表
第15回	Unit 30 Final presentation (3)	プロジェクト最終発表
		担当者から一言

	講義名	情報リテ	ラシー (†	青報倫	理を含む) (人文a)		担当教員	山本	洋紀			
講	義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別 演習						
ナンノ	(リング番号	101 INF10	2										
	授業概要												
ってい とし、	情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。												
	到達目標												
(2 (3 (4	(1)本学演習室が利用できるように環境を整えること。 (2)情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。 (3)情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。 (4)ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。 (5)表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。												
	成績評価												
	種別	割合(%)	評価基準	等									
苋	官期試験												
レガ	パート課題												
-	上記以外	100	各回の出	席およ	び演習課	!題の提出(8	0%)と最終課題の過	述成度(20%)。					
							授業外学習						
谷回(の演習課題が	授 業時間内	に提出で	きなか	った場合	は、必ず、	次回までに提出す	ること。また、	進度に	心して宿題を	産課す。		
							教科書						
No		書籍	籍名 ————				著者名		i	出版社		ISBN/ISSN	
1											\longrightarrow		
2											\longrightarrow		
3													
初回記	講義時に指示	する。 											
Na		→	± 47				参考書 			11 HC ->1		LCDN/LCCN	
No			籍名 ————				著者名		i	出版社	-+	ISBN/ISSN	
1													
2													
3													
前提学力等													
	HUME 4-V) 43												
	Telescope Teles												
							据 沙貝恰						

講義名	情報リテ	ラシー (†	青報倫	理を含む)) (人文a)		担当教員	山本 洋紀	
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101 INF10	2							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定
第2回	図書検索	文献検索の方法
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー
第5回	情報倫理(1)	インターネットの利用と安全性
第6回	情報倫理(2)	著作権、研究倫理
第7回	WORDによる文書作成(1)	基本操作
第8回	WORDによる文書作成(2)	書式
第9回	WORDによる文書作成(3)	表
第10回	WORDによる文書作成(4)	図
第11回	Excelによる表計算(1)	基本操作
第12回	Excelによる表計算(2)	書式
第13回	Excelによる表計算(3)	関数
第14回	Excelによる表計算(4)	グラフ
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成
		担当者から一言

講義名	情報リテ	ラシー (忄	青報倫	理を含む)) (人文b)		担当教員	亀田	彰喜	
講義コード	1130100	2	開講期	前期	授業種別	講義				
ナンバリング番号	101 INF10	2								

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webプラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

到達目標

- (1)情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。 (2)学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。

授業外学習

	教科書											
No	書籍名	出版社	ISBN/ISSN									
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版									
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店									
3												

	参考書												
No	書籍名 著者名 出版社												
1													
2													
3													

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

講義名	情報リテ	ラシー (†	青報倫	理を含む)) (人文b)		担当教員	亀田 彰喜	
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101 I NF10	2							

	授業計画												
回数	タイトル	概要											
第1回	基本構成と操作	コンピュータの基本構成と操作											
第2回	アカウントの設定	情報ネットワークの理論とアカウントの設定											
第3回	システムの操作	情報システムとOSおよびファイル操作											
第4回	情報検索	Webブラウザの操作と情報検索とネットワーク上でのセキュリティ											
第5回	情報収集	インターネットによる情報収集とウィルスおよびスパイウエア											
第6回	文献情報検索	図書情報検索と論文および著作等の情報検索											
第7回	情報倫理	電子メールの利用と情報倫理としてのメールでのマナー											
第8回	文書作成	文書作成ソフトによるレポート作成の基本の習得											
第9回	レポートの基本	レポートと学術論文の概念と論文作成の基本											
第10回	情報収集と加工	レポートと学術論文の書式と情報収集と加工の基本											
第11回	画像等の処理	レポートと学術論文の書式と画像等の処理の基本											
第12回	統計データ処理	レポートと学術論文の書式と統計データ処理の基本											
第13回	論文の作成のまとめ	レポートと学術論文の作成のまとめ											
第14回	課題の作成	レポート課題の作成											
第15回	課題のまとめ	レポート課題と学術論文発表のまとめ											
		担当者から一言											

į	講義名	情報リテ	ラシー (ヤ	情報倫	理を含む) (人文c)			担当教員	山本	洋紀			
講	義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習						
ナンハ	「リング番号	101 INF102	2											
	授業概要													
情報が っと 指す。	情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。													
	到達目標													
(1)														
(2)	 (1)本学演習室が利用できるように環境を整えること。 (2)情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。 (3)情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。 (4)ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。 (5)表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。 													
	成績評価													
	種別	割合(%)	評価基準	等										
定	期試験													
レオ	ポート課題													
	上記以外	100	各回の出	席およ	び演習調	果題の提出(8	0%)と最終課題	原の達成	成度(20%)。					
							授業外学習	3						
各回の	D演習課題が	授業時間内	に提出で	きなが	った場合	は、必ず、	次回までに提出	出する	こと。また、	進度に	応じて宿息	題を課す	•	
							教科書							
No		書籍	籍名				著者名			<u>H</u>	出版社			ISBN/ISSN
1														
2														
3														
初回誰	構義時に指示	する。 												
,, T		= *	·			Τ	参考書			.,	111541			1001/1001
No 1			籍名 								出版社			ISBN/ISSN
2														
3														
	前提学力等													
	1326-3-2-3													
							- ALIVACIA							

講義名	情報リテ	ラシー (情	青報倫	理を含む)) (人文c)		担当教員	山本 洋紀	
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101 INF10	2							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定
第2回	図書検索	文献検索の方法
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー
第5回	情報倫理(1)	インターネットの利用と安全性
第6回	情報倫理(2)	著作権、研究倫理
第7回	WORDによる文書作成(1)	基本操作
第8回	WORDによる文書作成(2)	書式
第9回	WORDによる文書作成(3)	表
第10回	WORDによる文書作成(4)	図
第11回	Excelによる表計算(1)	基本操作
第12回	Excelによる表計算(2)	書式
第13回	Excelによる表計算(3)	関数
第14回	Excelによる表計算(4)	グラフ
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成
		担当者から一言

į	講義名	情報リテ	ラシー (ヤ	情報倫	理を含む) (人文d)			担当教員	山本	洋紀			
講	義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習						
ナンハ	バリング番号	101 I NF102	2											
	授業概要													
情報機 っと 指す。	情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。													
	到達目標													
(1)														
(2) (3) (4)	 (1)本学演習室が利用できるように環境を整えること。 (2)情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。 (3)情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。 (4)ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。 (5)表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。 													
	成績評価													
	種別	割合(%)	評価基準	等										
定	到試験													
レホ	ポート課題													
L	上記以外	100	各回の出	席およ	び演習調	課題の提出(8	0%)と最終課題	夏の達成	成度(20%)。					
							授業外学習	3						
各回の	D演習課題が	授業時間内	に提出で	きなか	った場合	は、必ず、	次回までに提出	出する	こと。また、	進度に	応じて宿題	夏を課す		
							教科書							
No		書籍	籍名				著者名			<u>H</u>	出版社			ISBN/ISSN
1														
2														
3														
初回誰	構義時に指示	する。												
T						1	参考書				. 11			
No			籍名 ————				著者名			<u> </u>	出版社		+	ISBN/ISSN
1													+	
2														
3														
	前提学力等													
	nuk-1/14													
	履修資格													
							据 形具怕							

講義名	情報リテ	ラシー (†	青報倫	理を含む)) (人文d)		担当教員	山本 洋紀	
講義コード	1130120	1130120 単位数 2 開講期 前期 授業種別 演習							
ナンバリング番号	101 INF10	2							

	授業計画										
 回数	タイトル	概要									
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定									
第2回	図書検索	文献検索の方法									
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力									
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー									
第5回	情報倫理(1)	インターネットの利用と安全性									
第6回	情報倫理(2)	著作権、研究倫理									
第7回	WORDによる文書作成(1)	基本操作									
第8回	WORDによる文書作成 (2)	書式									
第9回	WORDによる文書作成 (3)	表									
第10回	WORDによる文書作成 (4)	図									
第11回	Excelによる表計算(1)	基本操作									
第12回	Excelによる表計算(2)	書式									
第13回	Excelによる表計算(3)	関数									
第14回	Excelによる表計算(4)	グラフ									
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成									
		担当者から一言									

講義名	情報科学	概論(人)	文b)					担当教員	亀田 彰喜	
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	101 INF10	1								
授業概要										
インターネットや	電子メール	などの情	報技術	の基本的	な技術の習得	骨の下に、さ	らに高	年次での講義	や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法に	

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の首句の下に、さらに高年がその講義や演首及び美育と必要となるテーラ処理の子法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

	<u> </u>										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験											
レポート課題		Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。									
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。									

授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店								
2											
3											

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

講義名	情報科学	概論(人)	文b)				担当教員	亀田 彰喜	
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号	101 INF10	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ
		担当者から一言

									ı												
講義名	情報科学	概論(人)	₹a)					担当教員	山本	羊紀											
<u> </u>	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習														
ナンバリング番号	101 INF10)1																			
授業概要																					
ンピュータによる	文章作成や	インター	ネット	 〜操作などの	 D基礎的な			に、さらに高	年次での	演習及び	 学術論文(作成で必要となるデー 関数による計算処理									
」夕処理の基本的手 や基礎的な統計手	法について 法などを用	「学ぶ。特 ヨハて解析	に、イ	「ンターネッ ままについて	ノトなどか 「学ぶ」さ	ら得られるき らに これら	5種統計 5データ	データを表計 を活用した学	算ソフト 術論文作	を利用し	、て加工し、 の基本的	. 関数による計算処理 な手法などについても									
学ぶ。	72.6 C C/1.	JV . C /0+1/1	, 6,	X/4/C 2 V . (. , .s., c	5100 0100	, ,	С/Д/I) О/С]	rijano 🔨 i i	13,0071200	, 02 	&] /Z-& C C > V · C O									
				+ 1 + 77 (7)		到達目標		77 (0 + -													
(1)表計算ソフ (2)データや紹	7トの利用と 注計処理によ	:データ処 :って情報	理の基を加る	基本を習得し 「し 学術記	ノ、さらに ≙文作成に	データの統言 活用できる。	†処理を ⁻ と	習得する。													
	un reverce	CINTR	C //H_	_O(□	./[]/1] CC &C	- C ₀														
 種別		□無甘油				成績評価	価														
作生力!	割合(%)	評価基準	寸																		
定期試験																					
レポート課題																					
上記以外	400	各回の出	席及7	グ演習課題の	の提出(8	0%)と最終	終課題の	達成度(20	%)												
	100																				
	1	ļ																			
							<u></u> 習														
 毎回行う演習課題	が授業時間	 間内に終了	しない	1場合、必ず	 げ、次回ま		• •	 また、適宜、	 宿題を課	す。											
	_					教科書	Ì														
No		籍名				著者名			出版	5社		ISBN/ISSN									
1 Excelで学ぶ	統計・デーク	タ解析入門]		中村永友	・山田智哉・	金明哲	丸善出版	Z.			978-4-621-08297-3									
2																					
3																					
•																					
						参考書	t														
No	建 :	 籍名		I					出版	6 2+		ISBN/ISSN									
110	<u> </u>	≁¤ ⊢I				987			щи	^ 1-		TODIY TOOK									
1																					
2																					
2																					
3																					
						 前提学力)等														
Excelを用いた初:	歩的な表計	算とグラフ	7作成	 能力。		י ע בי אונינו	, .,														
2,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	CO EXHIT		1-20																		
						履修資料	格				履修資格										

講義名	情報科学	概論(人)	文a)					担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号	101 INF10	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計
第4回	データの抽出・集計2	自動集計クロス表
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ 2 乗値 統計検定
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習
		担当者から一言
L		

講義名	情報科学	概論(人文	(c)				担当教員	山本 洋紀		
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別演習				
ンバリング番号	101 INF10	1								
						授業概要	·			
/ピュータによる 7処理の基本的手 2基礎的な統計手 全ぶ。	文章作成や 法について 法などを用	マインター: 「学ぶ。特 引いて解析:	ネット こ、 する 材	·操作などの インターネッ を法について	○基礎的な ルトなどか □ 下ぶ。さ	情報技術の習得の ら得られる各種統 らに、これらデー	下に、さらに高 計データを表言 タを活用した等	§年次での演習及び学術 †算ソフトを利用して加 ዸ術論文作成のための基	論文作成で必要となるデ- 工し、関数による計算処理 本的な手法などについても	
四 次 口 1世										
 〔1)表計算ソフ	トの利用と	 :データ処 [‡]	里の基	本を習得し	、 さらに	<u>到達目標</u> データの統計処理 活用できること。	———— を習得する。			
	1					成績評価				
種別	割合(%)	評価基準	等							
定期試験										
レポート課題										
上記以外	100	各回の出	常及び	が演習課題 <i>0</i>	D提出(8	0%)と最終課題	の達成度(20)%)		
						授業外学習				
 手回行う演習課題	が授業時間	内に終了し	しない	1場合、必ず	で、次回ま	でに提出すること	また、適宜、	宿題を課す。		
						#\1\ =				
o I		 籍名		Т		数科書 著者名	T	 出版社	ISBN/ISSN	
Excelで学ぶ					中村永友	・山田智哉・金明幇	丸善出)		978-4-621-08297-3	
2										
3										
	= 2	許夕		Т		参考書 著者名	I	 出版社	ISBN/ISSN	
0	書籍名 著者名 出版社 ISBN/ISSN									
2										
3										
						 前提学力等				

履修資格

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

講義名	情報科学	概論(人)	文c)				担当教員	山本 洋紀	
講義コード	1130220	1130220 単位数 2 開講期 後期 授業種別 演習							
ナンバリング番号	101 INF10	1							

	授業計画											
回数	タイトル	概要										
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式										
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ										
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計										
第4回	データの抽出・集計2	自動集計クロス表										
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率										
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード										
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差										
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数										
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度										
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習										
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数										
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ 2 乗値 統計検定										
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数										
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算										
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習										
		担当者から一言										
L												

講義名	情報科学	概論(人)	文d)				担当教員	亀田 彰喜				
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義					
ナンバリング番号	101 INF10	1										
	授業概要											

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。 (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を 提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版									
2												
3												

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

講義名	情報科学	概論(人)	文d)				担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別		
ナンバリング番号	101 INF10	1						

回数 タイトル 概要 第1回 情報社会と倫理 情報化社会の問題点と情報倫理 第2回 フォルダー作成 データ処理とファイル処理 第3回 データ処理の基本 研究の基本とデータ処理の基本 第4回 レポート作成の基本 プレゼンテーションソフトの基本と作成 第5回 レポート作成の応用 プレゼンテーションソフトの活用 第6回 Webの基本 Webデザインの基本と理論 第7回 Webの応用 Webデザインの応用と活用 第8回 Webと画像 Webデザインの画像の応用と活用 第9回 統計処理の基本 学術論文の概念と統計処理の基本
第1回 第2回 フォルダー作成 データ処理とファイル処理 第3回 データ処理の基本 研究の基本とデータ処理の基本 第4回 レポート作成の基本 ブレゼンテーションソフトの基本と作成 第5回 レポート作成の応用 ブレゼンテーションソフトの活用 第6回 Webの基本 Webデザインの基本と理論 第7回 Webの応用 Webデザインの応用と活用 第8回 Webと画像 Webデザインの画像の応用と活用 統計処理の基本 学統論文の概念と統計処理の基本
第3回 データ処理の基本 研究の基本とデータ処理の基本 第4回 レポート作成の基本 プレゼンテーションソフトの基本と作成 第5回 レポート作成の応用 プレゼンテーションソフトの活用 第6回 Webの基本 Webデザインの基本と理論 第7回 Webの応用 Webデザインの応用と活用 第8回 Webと画像 Webデザインの画像の応用と活用 検針処理の基本 学統論文の概念と統針処理の基本
第4回 レポート作成の基本 ブレゼンテーションソフトの基本と作成 第5回 レポート作成の応用 ブレゼンテーションソフトの活用 第6回 Webの基本 Webデザインの基本と理論 第7回 Webの応用 Webデザインの応用と活用 第8回 Webと画像 Webデザインの画像の応用と活用 統計処理の基本 学術論文の概念と統計処理の基本
#4回
#5回 Webの基本 Webデザインの基本と理論 #7回 Webの応用 Webデザインの応用と活用 #8回 Webと画像 Webデザインの画像の応用と活用 #8回 が #2の基本 学術論文の概念と統計処理の基本
#8回 Webの応用 Webデザインの応用と活用 Webデザインの画像の応用と活用 #8回 Webと画像 Webデザインの画像の応用と活用 #8回 が計が、 グロボットを対が、 である アング
第7回 Webと画像 Webデザインの画像の応用と活用 Sap
第8四
第9回 統計処理の基本 学術論文の概念と統計処理の基本
第10回 統計データ処理 学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回 グラフの処理 学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回 回帰分析 学術論文の書式と回帰分析
第13回 データの検定 学術論文の作成とデータの検定
第14回 小論文の作成 課題レポートおよび小論文の作成
第15回 論文作成のまとめ 課題レポートと論文作成のまとめ
担当者から一言

	講義名	人間探求	学(生活 :	デザイ	ン)				担当教員	学科教員/面 宮本 雅子/	「矢」慎介』 「森下」ある ミノ藤木	/印南 比呂記 おい/南 政況 <u> </u>	志 / 宏 / 5 羊 /
講	義コード	1150360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		工 4 八 事	C / Bac / A	<u> </u>	- 1
ナンノ	「リング番号	101HUM10	1										
	授業概要												
こ(学生(前半。	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。学科の1年生を少人数グループ(3~4名)に分け、担当教員を割り当てる。学期を前半と後半に分け、各グループは前半と後半とでそれぞれ別の教員から指導を受ける。												
	□(
(1)自		*************************************) やすく言	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	 る能力や、	他者の考え	<u>到達目標</u> をじっく!)3		 6能力を養う。				
(2)多	(1)自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養う。 (2)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。												
							D (+++						
	成績評価 種別 割合(%) 評価基準等												
ភ	定期試験	(···)											
レ7	ポート課題												
_	上記以外	100	出席を重 レポート	視する 、プレ	。3回以」 ジゼンテー	上の欠席者は ション等に ^対	接業期間終 対する各担当	了後に『 当教員の	乎び出し、面詞 評価を加味す	炎して個別に扌 る。	指導する。.	成績には授業	での発言、
							授業外学	習					
,,		*				ı	教科書					1	
No			籍名 ————				著者名			出版社		ISBI	N/ISSN
1													
2													
3													
												•	
						1	参考書						
No		書籍	籍名				著者名			出版社		ISBI	N/ISSN
1													
2													
3													
参考	書:担当教員:	が指示する	0		_								
							前提学力	等					
							履修資格	各					

講義名	人間探求	学 (生活 :	デザイ	ン)			担当教員	学科教員/面矢 慎介/印南 比呂志/ 宮本 雅子/森下 あおい/南 政宏/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/横田 尚美/	
講義コード	1150360	1150360 単位数 2 開講期 前期 授業種別 講義							
ナンバリング番号	101HUM10	1					_		

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンレーション	履修計画も含め大学で学ぶべき内容について理解を深める。
第2回	レポートの書き方	講義等の課題として出されるレポートの書き方について解説する。
第3回	図書館の利用方法	図書館の利用の仕方、図書の検索方法についての説明を受ける。
第4回	消費者問題について	消費者問題に関する講義を受ける。
第5回	防犯について	防犯に関する講義を受ける。
第6回	人権学習	人権に関する講義を受ける。
第7回	グループワークA1	教員一人当たり3~4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第8回	グループワークA2	教員一人当たり3~4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第9回	グループワークA3	教員一人当たり3~4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第10回	グループワークA4	教員一人当たり3~4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第11回	グループワークB1	教員一人当たり3~4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第12回	グループワークB2	教員一人当たり3~4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第13回	グループワークB3	教員一人当たり3~4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第14回	グループワークB4	教員一人当たり3~4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第15回	環境整備活動	学部内の環境整備活動を行う。
		担当者から一言

	講義名	川の未来:	学					担当教員 村上 修一				
i	構義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別 講義					
ナン	バリング番号											
	授業概要											
本科で現	本科目は,専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる,川の問題をとりあげる。まず,国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に,川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で,川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。											
52	こつになる。											
							到達日煙					
(1)	到達目標 (1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。 (2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。											
(3)	川の未来像の	決め方に対	ける問題して改善	点を特 策を案	足できる出できる	ようになる。 ようになる。						
	種別	割合(%)	評価基準	等			成績評価					
	定期試験	0										
レ	ポート課題	0										
	上記以外	100	到達目標 到達目標	(1) : (2) :	ワーク	シート1 (30% シート2 (30%)					
ワー	・クシート1 , 2	, 3は , それ				シート3 (40% 業時間内に履		収される。第	6 , 11 , 15回に解説が行わ	 れ,履修生は理解を深め		
る。												
	時間内に紹介	される参え	·	も 会老	サイトを	問覧すること	授業外学習					
12.74					7116	成長 / ひ C C						
No		書	 籍名				教科書 著者名	1	 出版社	ISBN/ISSN		
1												
2										+		
										-		
3												
No		書館	 籍名				参考書 		 出版社	ISBN/ISSN		
1	第十堰日誌	<u> </u>				姫野雅義	<u> </u>	七つ森書		978-4822811426		
	吉野川住民投	票 市民参	参加のレシ	<u></u> ′ピ		武田真一郎		東信堂				
2					= = = ·					978-4798911922		
3	再帰的近代の 民主主義の実) 政治社会 : : ! 	字 吉野川 	可動地	と問題と 	久保田滋	他	ミネルウ	ブァ書房	978-4623050826		
授業	授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。											
	前提学力等											
							履修資格					
I												

講義名	川の未来	学					担当教員	村上 修一	
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	あなたにとって川とは?	川との関わりを再認識し,川の未来を考えることの重要性を意識するようになる。
第2回	川の未来像を決める5W1H	国内における川の未来像の決め方について基本を理解する。
第3回	川の未来像を決める最初の一歩	河川整備基本方針の内容を理解する。
第4回	川の未来像を決める具体的な内容とは?	河川整備計画の内容を理解する。
第5回	ワークシート1	国内における川の未来像の決め方について理解したことを書いてみる。
第6回	ワークシート1の解説	国内における川の未来像の決め方について理解を深める。
第7回	これだけは変えられない?	川の未来像を決める二重構造 - 河川整備基本方針と河川整備計画との間に存在する問題点を理解する。
第8回	川は「溝」なのか?	河道主義にもとづく川の未来像の決め方について現状と問題点を理解する。
第9回	川の未来像を決める「みんな」と は?	流域委員会の現状と問題点を理解する。
第10回	ワークシート2	川の未来像の決め方における問題点を特定し書いてみる。
第11回	ワークシート2の解説	川の未来像の決め方における問題点について理解を深める。
第12回	国内の事例にはどのようなヒント がある?	川の未来像の決め方はどうあるべきか,新たな方向を示す国内の事例について理解しヒントを得る。
第13回	海外の事例にはどのようなヒント がある?	川の未来像の決め方はどうあるべきか,新たな方向を示す海外の事例について理解しヒントを得る。
第14回	ワークシート3	川の未来像の決め方に対して改善策を案出し書いてみる。
第15回	ワークシート3の解説	川の未来像の決め方に対する改善策について理解を深める。
		担当者から一言

	講義名	比較住居	論					担当教員	藤木	庸介			
講	義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義					
ナンバ	バリング番号	101HUM17	61,33RED	121,13	5LAH206								
							授業概	要		•			
世 つい て解	世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な(ヴァナキュラーな)さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、主に中国、東南アジアから西アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。												
	万小车 口 揺												
(1)	世界の多様な	住居のあ	リカを理解	 解し、i	事例を挙げ	ずて説明がて	<u>到達目</u> できる。						
(2)	人々の生活と 様々な居住文	:住居構成	に関するホ	泪関性:	を理解し、	説明ができ	きる。	れる。					
							成績評値	価					
	種別	割合(%)	評価基準	等									
7	定期試験												
レ	ポート課題												
	上記以外	100	到達目標成績への	に挙げ)寄与薬	げた(1)(2) ⊠は小テス	(3)の内容を トの合計を	を包含した小 100%とし、	テストを 60%以	を2回行い評 上を合格とす	価する。 る。	•		
また、													
上記	以外により小	アストをソ	いいい	は、年	型以以待で	心のみい。	授業外学	- 깔					
教科	書、並びに授	業で配布さ	なれるプリ	ントを	復読する	ことが望ま	UII.						
N. I		+	άτι <i>Ε</i> -7				教科書	<u>t</u>			II NC 51	1000/1000	
No	住まいがつた		籍名 のくらし			藤木庸介	著者名		世界思想		出版社	ISBN/ISSN	
2												ISBN978-4-7907-1689-1	
3													
	<u></u> 書は第4回目の)授業から(使用する										
+X11	ᆸᅝᅒᄀᄞᆸᅜ	/ix 坐 11. ロ	ス/13 プ る。				参考書	<u>+</u>					
No		書	 籍名				著者名			Ŀ	 出版社	ISBN/ISSN	
1													
2													
3	3												
教科	教科書に記載の無い講義内容については、プリントを配布する。												
	前提学力等												
							履修資	格					

講義名	比較住居	論					担当教員	藤木 庸介	
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM17	61,33RED	121,13	5LAH206					

		授業計画
 回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	本講義の内容と目的、講義の進め方、評価の方法等を解説する。
第2回	住居構成の基礎	建築物の構造や素材といった、住居構成の基礎的な仕組みについて解説する。
第3回	中国の住居(1)	中国中原、並びに南方の四合院における居住文化と住居構成について解説する。
第4回	中国の住居(2)	中国中原における窒洞の居住文化と住居構成について解説する。
第5回	中国の住居(3)	中国内モンゴル自治区におけるゲルの居住文化と住居構成について解説する。
第6回	東アジアの住居	台湾北部の山岳少数民族地域・他における居住文化と住居構成について解説する。
第7回	世界のトイレ事情・世界のスラム 事情	世界におけるトイレ文化、スラム街とそこでの暮らしについて解説する。 第1回目の小テストを行う。
第8回	東南アジアの住居(1)	フィリピン北部の山岳少数民族地域における居住文化と住居構成について解説する。
第9回	東南アジアの住居(2)	インドネシア北部の山岳少数民族地域における居住文化と住居構成について解説する。
第10回	南アメリカの住居	ペルー・ティティカカ湖の浮島における居住文化と住居構成について解説する。
第11回	インドの住居	インド北部・ヴァーラーナシーにおける居住文化と住居構成について解説する。
第12回	西アジアの住居	かつてイラクにあった家族島における居住文化と住居構成について解説する。
第13回	アフリカの住居	アフリカ北部の居住文化と住居構成について解説する。
第14回	イギリスの住居	イギリス・コッツウォルズの居住文化と住居構成について解説する。
第15回	まとめ	本講義の総括を行い、居住文化と住居構成の多様性について考察を行う。 第2回目の小テストを行う。
		I 担当者から一言

本講義の定員は、原則130名とする。 定員を超える受講希望者があった場合には、レポート課題により受講者の選考を行う。

講義名	Model Un	ited State	es of America			担当教員	Benjamin John McCracken				
講義コード	1150560	単位数	2 開講期	前期	授業種別 講義						
ナンバリング番号											
					授業概要						
Model USA is an educational simulation in which students will learn about the United States of America ("USA") and its unique form of government. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a senator from one of the 50 states that make up the USA. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from the USA.											
dovernmental sys	stem and th	ne role po	litical parti	es plav in	it. (3) Students	will learn a	nment. (2) Students will bout current events and d in order to reach a solu	lebate potential			
-b / t + 57 / T											
 種別	割合(%)	評価基準	 等		成績評価						
定期試験											
レポート課題	20	Students	will write a	three page	paper on their ex	xpereince.					
上記以外	80	Presentat	ion 30 points	s x2 and 20	points for partic	cpation in cl	ass and group activities.				
Students are exp	pected to a	actively p	articipate in	n class. Fa	ilure to actively	/ participate	will cause grades to be	reduced.			
					授業外学習						
Students will ne newspapers or do				s in the US.	Students will r	need to spend	some time outside of cla	ss reading online			
				1	教科書						
No	書	籍名			著者名		出版社	ISBN/ISSN			
1											
3											
					参考書						
No	書	 籍名					出版社	ISBN/ISSN			
1								2 123			
2											
3											
前提学力等											
	履修資格										

講義名	Model Un	ited Stat	es of	America			担当教員	Benjamin John McCracken	
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

<i>」</i> ンハリ.	クグ留ち	
	T	
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Course overview
第2回	Basic USA History	Lecture on US history
第3回	US Government I	Lecture on the US governmental system
第4回	US Government II	Lecture on the US governmental system
第5回	Seminar I	Group work - Students will be divided into states and assigned political parties and committees
第6回	Political Parties	Lecture on US political parties
第7回	Seminar II	Group work - Students prepare for presentations on US states and issue presentations
第8回	State Presentations I	Students present on their respective states
第9回	State Presentations II	Students present on their respective states
第10回	Seminar III	Group work - Students prepare for issue presentations
第11回	Issue and disucssion I	Students present and discuss issue in mock debate
第12回	Issue and discussion II	Students present and discuss issue in mock debate
第13回	Issue and discussion III	Students present and discuss issue in mock debate
第14回	Issue and discussion IV	Students present and discuss issue in mock debate
第15回	Review	Course review and essay preparation workshop
		 担当者から一言

Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study.

講義名	Model Un	ited Nati	ons				担当教員	Benjamin John McCracken			
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別 講	ŧ				
ナンバリング番号						•					
						授業概要	•	•			
Model United Nations is an educational simulation in which students will learn about the United Nations (UN) and its role in the world. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a representative of from one of the many nations that make up the UN. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from around the world.											
到達目標 (1) Students will learn about the history of the United Nations and how it impacts our world. (2) Students will learn about parlimentary procedure and how issues are debated at the UN. (3) Students will learn current events and debate potentail solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate inorder to reach a solution to a problem.											
		I				成績評価					
種別	割合(%)	評価基準	等								
定期試験											
レポート課題	20	Students	s will	write a	three page	paper on their	experience.				
上記以外	80	Presenta	ation 3	0 points	x2 and 20	points for par	icipation in	class and group activities			
Students are exp	ected to a	actively	partic	ipate in	class. Fa	ilure to activ	ly participat	e will cause grades to be	reduced.		
						授業外学習					
Students will ne online newspaper	eed to be a s or doing	aware of online	curren resear	t events ch.	in the wor	ld. Students	ill need to s	pend some time outside of	class reading		
						教科書					
No	書	籍名				著者名 ————————————————————————————————————		出版社	ISBN/ISSN		
1											
2											
3											
	_				_						
						参考書	ı	,			
No	書籍	籍名				著者名		出版社	ISBN/ISSN		
1											
2											
3	3										
前提学力等											
	履修資格										

講義名	Model Un	ited Nati	ons				担当教員	Benjamin John McCracken	
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

	ファ <u>田</u> ラ	117 AIK + 1					
同粉	タイトル	授業計画					
回数	Introduction	概要 Course overview					
第1回							
第2回	History of the UN	Introduction to the UN and its history					
第3回	Parlimentary Procedure	Introduction to parliamentary procedure and Robert's Rules of Order					
第4回	Simulation	Practice simulation					
第5回	Seminar I	Group work - Students will be divided into countries and assigned committees					
第6回	Seminar II	Lecture on committees. Group work - Students prepare for country presentations					
第7回	Seminar III	Group work - Students prepare for country presentations					
第8回	Country Presentations I	Students present on their respective countries					
第9回	Country Presentations II	Students present on their respective countries					
第10回	Seminar IV	Group work – Students prepare for issue presentations and discussion					
第11回	Issue I	Students present and discuss issue in mock debate					
第12回	Issue II	Students present and discuss issue in mock debate					
第13回	Issue III	Students present and discuss issue in mock debate					
第14回	Issue IV	Students present and discuss issue in mock debate					
第15回	Review	Course review and essay workshop					
		中水本から 一⇒					
	担当者から一言						

Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study.

講義名	建築法規						担当教員	戸川 勝紀	
講義コード	1201270	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC22	5,333RED2	224						

授業概要

法治国家の目的は、正義及び公平の原則に従って、社会を規律し、かつ法的安定性をもたらすことであり、社会秩序を維持し、国民間の利害を調整して国民に経済的・文化的に人間に値する生活を営ませることである。そして、建築基準法の目的は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することである。 これらを踏まえて、都市デザイン、建築デザイン及び生活デザインを行うために、建築関係法令の役割及び規制の概説だけでなく、誘導及び取組み方も解説する。また、具体的な事例をもとに制限や可能性を解説し、都市、建築及び生活に取り巻く今日的課題と法整備の状況を解説する。

到達目標

(1) 法律制度を説明できる。(2) 建築法規の目的を説明できる。(3) 都市デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。(4) 建築デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。(5) 生活デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	授業開始時に試験を行う。 授業終了後に試験を行う。 合計100点満点のうち、60点以上を合格とする。
レポート課題		
上記以外	加点	講義中に質問を行うので正解した学生または授業内容の習得に関する質問を行った学生について、一回につき 5 点を成績に加点する。

毎回講義開始及び講義終了時に試験を行う。試験は、教科書1(平成31年版建築基準法〔法令編〕)、教科書2(建築法規用教材2019)及び講義ノート(自身で記載したもの)を閲覧可能とするので、教科書への書き込み、講義ノートへの記帳をすると圧倒的に試験に有利である。 故に初日から必ず教科書1及び教科書2を用意しておくこと。 故に初日から

授業外学習

(成績評価備考2) 講義中に質問を行うので正解した学生または授業内容の習得に関する質問を行った学生について、一回につき5点を成績に加点する。発言に対して

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	平成31年度版建築基準法令集[法令編]	国土交通省住宅局・一般社団法人 日本建築学会	技法堂出版株式会社									
2	建築法規用教材2019	一般社団法人日本建築学会	丸善出版株式会社									
3												

教科書1及び教科書2は講義に必要となるので、 必ず初日から持参すること。毎回の試験中の閲覧が可能であることから、持参しない場合は単位

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	建築法規 第2版増補 (建築学の基礎)	矢吹茂郎・加藤健三	共立出版株式会社									
2	行政不服審査の実務	行政不服審査実務研究会	第一法規株式会社									
3	公務員のための住民も納得の窓口対応	山口道昭ほか	第一法規株式会社									

前提学力等

履修資格

講義名	建築法規						担当教員	戸川 勝紀	
講義コード	1201270	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC22	5,333RED2	224						

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	建築法規の概要	建築法規の構成及び法令用語の読み方を学ぶ。								
第2回	建築基準法の目的	建築基準法の目的、法令構成・内容、基本用語の定義及び面積・高さ・階数の算定方法を学ぶ。								
第3回	建築基準法の制度規定1	手続の種類、開発許可と建築の手続及び建築物の確認等について学ぶ。								
第4回	建築基準法の制度規定2	許可を要する建築物、認定を要する建築物、違反建築物に対する措置及び建築審査会等について学ぶ。								
第5回	建築基準法の単体規定1	単体規定のあらまし及び構造強度について学ぶ。								
第6回	建築基準法の単体規定2	防火・避難関係規定1(耐火建築物、防火区画及び避難施設)について学ぶ。								
第7回	建築基準法の単体規定3	防火・避難関係規定2(排煙設備、非常用の照明装置及び内装制限)について学ぶ。								
第8回	建築基準法の単体規定4	一般構造・設備1(居室の採光及び換気)について学ぶ。								
第9回	建築基準法の単体規定5	一般構造・設備2(便所及び昇降機)について学ぶ。								
第10回	建築基準法の集団規定1	集団規定のあらまし及び道路と敷地・建築物等について学ぶ。								
第11回	建築基準法の集団規定2	建築物の用途の制限、建蔽率及び容積率について学ぶ。								
第12回	建築基準法の集団規定3	前面道路による斜線制限、隣地境界からの斜線制限、天空率による斜線制限の特例及び日影による中 高層建築物の高さの制限について学ぶ。								
第13回	建築基準法の集団規定4	地区計画、防火上の地域内の建築物の制限、建築基準法のその他の規定及び工事現場の安全について 学ぶ。								
第14回	建築関連規定1	消防法、都市計画法及び建築士法について学ぶ。								
第15回	建築関連規定2	建設業法、労働安全衛生法及び建築法規の歴史について学ぶ。								
		担当者から一言								

担当者から一言

建築法規を学ぶことは社会に出てから生きる武器を得る絶好の機会となる。それは、建築法規が建築士受検のための必須科目となっているからである。国家資格である建築士は当然のことながら全国で通用する資格であり、配偶者の転勤、親の介護、子供の世話等があって、遠方に行くことに

講義名	一般構造							担当教員	佐々木 一泰		
講義コード	1400070	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義				
ナンバリング番号	233RED22	2									
	授業概要										
建築やインテリア おきたい基礎的な	建築やインテリアに関する技術論。建築物を成立させている部位の構成や仕組みがどのようなものかを理解し、建築やインテリアを学ぶ上で知って おきたい基礎的な建築技術の概要や構造、架構の知識を身につける。										

到達目標

- (1)建築技術、構造の全体像を把握する。 (2)各種構造を把握する。 (3)建築やインテリアに携わる人が必要とする建築技術専門用語を修得する。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	80										
レポート課題	20										
上記以外											

授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	図説やさしい建築一般構造	今村仁美・田中美都著	学芸出版社	978-4761524777							
2											
3											

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	必携建築資料	柳原正人 他	実況出版株式会社	978-4-407-30782-5								
2												
3												

前提学力等

建築やインテリアに関する技術論。技術に興味がある学生なら、分野を問わない。 2年次以降の履修が望ましい。

履修資格

講義名	一般構造						担当教員	佐々木 一泰	
講義コード	1400070	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233RED22	2							

			授業計画
回数	タイトル		概要
第1回	講義概要、建築一般構造全体につ いて	講義概要、	、建築一般構造全体について
第2回	各種構造概要		
第3回	木構造-1		
第4回	木構造-2		
第5回	木構造-3		
第6回	木構造-4		
第7回	木構造-5		
第8回	鉄筋コンクリート造-1		
第9回	鉄筋コンクリート造-2		
第10回	鉄筋コンクリート造-3		
第11回	鋼構造-1		
第12回	鋼構造-2		
第13回	鋼構造-3		
第14回	その他・各種構造		
第15回	まとめ		
			担当者から一言

	講義名	インテリ	ア計画論					担当	教員	宮本	雅子		
請	構義コード	1400080	単位数	2	開講期	前期	授業種別 講	義					
ナン	バリング番号	233RED22	1										
							授業概要						
ここおお	では主に住居なりません。	の内部空間 ンテリア構	の設計に娘 成要素に	必要な ついて	知識を習 解説する	得することで 。その上で、	を目的とする。ま 各室における機	₹ず、イン 幾能とイン	テリア テリア	計画の 計画上)プロセスを説明 この要点について]した上で、(] グループワ-	主宅の構造、構 −クを交えなが
り誦	義する。												
(1){:	1)住居のインテリアを構成している要素を理解し、説明できる。												
$(2)^{\frac{1}{2}}$	(2)平面計画から住生活を読み解く力をつける。 (3)実際のインテリア空間を観察、評価できる。												
	成績評価 種別 割合(%) 計評価基準等												
	種別 	割合(%)	評価基準	寺									
	定期試験 50												
レ	レポート課題 25												
	上記以外	25	到達目標(ペーパー1 、(3)実際	の(1)(15%、 §のイン	住居のイ (2)平面 ンテリア	ンテリアを構 計画から住生 空間を観察、	就している要素 注活を読み解く力 評価できる。に	を理解し、 をつける、 ついては、	説明で につい レポー	できる。 1ては、 - ト25	、については、 、期末試験15% %で評価する。	期末試験35% 、レスポンス	。、レスポンス くペーパー10%
							授業外学習						
							 教科書						
No		書籍	籍名				著者名			Ł	出版社		ISBN/ISSN
1													
2													
3													
							参考書						
No		書籍	 籍名							Ŀ	 出版社	<u> </u>	ISBN/ISSN
1	インテリアの	計画と設語	i †					章	/国社				
2	2												
3	3												
	前提学力等												
	履修資格												

講義名	インテリ	ア計画論					担当教員	宮本 雅子	
講義コード	1400080	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233RED22	1							

	授業計画												
回数	タイトル	概要											
第1回	インテリアとは	インテリア計画のプロセス											
第2回	住宅の構造	住宅の構造と構法											
第3回	内装材について	内装材の種類と性質											
第4回	床と壁	床、壁の性能と構法											
第5回	天井と開口部	天井、開口部の性能と構法											
第6回	照明方式	照明方式、光源の種類と特徴											
第7回	照明計画	行為と照明との関係について											
第8回	室内配色	配色パターンについて											
第9回	人と空間	人と空間のもつ意味、視線と空間の関わり											
第10回	リビングルーム	団らん空間の計画											
第11回	ダイニングルーム	食事空間の計画											
第12回	キッチン	調理空間の計画											
第13回	ベッドルーム	作業空間・就寝空間の計画											
第14回	バリアフリー	バリアフリーとユニバーサルデザイン 高齢者の住宅改修事例											
第15回	まとめ	全体まとめ											
		担当者から一言											

講義名		インテリ	アコーディ	ィネー	ト概説				担当教員	 藤木 庸介			
講義コー	۴	1400088	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習					
ナンバリング	`番号	333RED22	2										
							授業概要	要					
生活に関れ けるインテリ 尚、本演習 る。	生活に関わるデザイン現場において、インテリアコーディネートに対する基礎知識は今や必須の要件と言えよう。ここでは特に、店舗や住宅におけるインテリアコーディネートの実践について、実社会やデザイン現場で必要不可欠、且つ、有用な知識を習得する。 尚、本演習で習得する知識は、公益社団法人インテリア産業協会が主催する「インテリアコーディネーター資格試験」に応用可能な知識と成り得る。 到達目標												
							到達目	票					
(1) インテリアコーディネートの基礎知識を習得し、実社会において応用する事ができる。 (2) 公益社団法人インテリア産業協会が主催する「インテリアコーディネーター資格試験」の合格に必要な知識を習得する。													
67.5 1	成績評価 種別 割合(%) 評価基準等												
種別		割合(%)	評価基準	等									
定期試験	定期試験												
レポート課	題												
上記以外	,	100	到達目標成績への	に記載 寄与3	載した(1)(図は小テス	2)の内容を トの合計を	包含した小う 100%とし、	Fスト3 60%以_	回により評価上を合格とす	િ ઢ.			
授業時間数の	3分の) 1 以上欠	席した者	は評価	対象にし	ない。							
						de la constanta	授業外学	_					
インテリア_ 	リー ティ	イネーター	資格 試驗	の合格	を日指9	者は、継続は	的な目土勉強	東か必安	でめり、予省	復習が必須である。			
N I		=	·			ı	教科書	i	1	delle Al	1000//1000		
No インテリ	リアコ-	— -ディネ-	籍名 ター1次 - ター1次	試験合	格数本		著者名		ハウジン	出版社 /グエージェンシー	ISBN/ISSN		
1 上巻	・下巻												
2 過去問題 	ッァコ ⁻ 題集	ーディネ-	フー貝付	ゴ 市 工	平 反则				1/1/92	,グエージェンシー 			
3													
初回は合格教	本と問	題集を持	参しなく	てよい	١.								
							参考書	ţ .					
No		書 	籍名 ————				著者名 ————			出版社	ISBN/ISSN		
1	1												
3	3												
							3	**					
							前提学力	等					
							层收次 +	· 夕					
	履修資格												

講義名	インテリ	アコーディ	ィネー	ト概説			担当教員	藤木 庸介	
講義コード	1400088	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	333RED22	2							

J フハリ.	フク笛号 333NLD222	
		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	本演習の内容と目的、演習の進め方、評価方法について解説する。
第2回	インテリアに関する基礎知識	インテリアに関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第3回	インテリアに関する販売知識	インテリアに関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第4回	インテリア情報	インテリア情報について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第5回	販売に関する法規の基礎知識 1	販売に関する法規の基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第6回	インテイリアコンサルティングに 関する基礎知識	インテイリアコンサルティングに関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を 目指す。
第7回	インテリア構成材の基礎知識	インテリア構成材の基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第8回	住宅の構造に関する基礎知識	住宅の構造に関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第9回	室内環境に関する基礎知識	室内環境に関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第10回	販売に関する法規の基礎知識	販売に関する法規の基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第11回	インテリア計画に関する基礎知識	インテリア計画に関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第12回	表現技法に関する基礎知識	表現技法に関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第13回	インテリア基礎に関する法規	インテリア基礎に関する法規について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第14回	インテリアの歴史	インテリアの歴史について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。
第15回	まとめ	インテリアコーディネートの基礎を総括し、総合的な設問解答によって知識を確かなものへ導くこと を目指す。
		担当者から一言

担当者から一言

インテリアコーディネーター資格試験の合格を目指す者は、相応の学習が必要であることから、本気で勉強する覚悟を以て演習を行うことを求める

	講義名	環琵琶湖	文化論実	習(生	舌デザイン	/)		担当教員	学科教員/面矢 慎约 宮本 雅子/森下 8 佐久木 一泰/藤木	介/印南 比呂志/ あおい/南 政宏/ <u>庸介/横田 尚美/</u>			
講	義コード	1400340	単位数	2	開講期	通年	授業種別 実習		工				
ナン	バリング番号	133LVD10	1										
							授業概要						
滋賀後の	県の歴史、文 報告書の作成	化、生活を をおこなう	·その対象 ·。	として	実習をお	こなう。各質	学科ごとに地域、テ	ーマ別に班編	成をし、事前学習、実	民地調査の実習、さらに実習			
			v										
(4) =	到達目標												
(1)) (2)部	(1)フィールドワークをおこなうことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識を高める。 (2)調査の手法、報告書のまとめかた等の技術を習得する。												
	成績評価												
	種別 割合(%) 評価基準等												
7	定期試験												
レ	レポート課題												
	上記以外 到達目標の(1)フィールドワークをおこなうことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識を高める、については、実習への参加・貢献40%、(2)調査の手法、報告書のまとめかた等の技術を習得する、については、事前学習への												
	上記以外	100	到達日標 は、実習 貢献40%	の(1) への参 、事後	ノイールト 加・貢献 後学習への	ベリークをお 40%、(2)調 貢献20%で記	になつことによって 査の手法、報告書の 評価する。	C、地域の歴5 のまとめかた€	と、又化、生活に対す 等の技術を習得する、	る意識を高のる、について については、事前学習への			
							授業外学習						
							教科書						
No		書籍	籍名				著者名		出版社	ISBN/ISSN			
1													
2													
3													
No		 書籍	———— 籍名						 出版社	ISBN/ISSN			
1													
3 = +	3												
ナギ													
							前提学力等						
							层 收次 妆						
	履修資格												

講義名	環琵琶湖	文化論実習	習(生	活デザイン	v)			担当教員	学科教員/面矢 慎介/印南 比呂志/ 宮本 雅子/森下 あおい/南 政宏/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/横田 尚美/
講義コード	1400340 単位数 2 開講期 通年 授業種別 3								
ナンバリング番号	133LVD10	1							

	授業計画											
回数	タイトル	概要										
第1回	オリエンテーション	調査地について										
第2回	事前学習	調査対象について事前調査を行い、各自が調べた内容について発表を毎週行う										
第3回	実習調査	実地調査等を行う										
第4回	後期 報告書の作成	事前学習、実地調査によって得られた内容について報告書にまとめる										
	担当者から一言											

	講義名	基礎設計	製図					- 1	担当教員	藤木	庸介/酉	有 政	宏	
静	 義コード	1400430	単位数	2	開講期	後期	授業種別 演	習						-
ナン	バリング番号	133RED22	1					\neg						
							授業概要							
建を図図	建築設計製図に必要である基本的な製図技術と技法を習得する。建築家による設計図面のトレースや、模型の制作によって、製図や模型制作の基礎を学ぶ。アクソノメトリックやインテリアパースの作成によって空間の視覚的な表現力を身に付ける。建築の基礎的な表現技法を学ぶとともに、図面を通して空間を想像し把握する力を養う。小規模な空間を自身で設計することで、空間的思考力と計画力、製図能力を習得する。													
	到達目標													
(2	(1)建築製図の基本的なルールを理解し、製図技法を習得する。 (2)建築模型の製作技法を習得する。 (3)小規模空間を計画し、破綻のない設計が出来るようになる。 (4)自身の制作物や設計のプレゼンテーションが出来るようになる。													
		-14					成績評価							
	種別	割合(%)	評価基準	等										
7	定期試験													
レ	ポート課題													
	上記以外	100	課題の提 講評会で	出物 (のプレ	80%) ゼンテー	ション(2(0%)							
全課 成績	題の提出が単 は全ての課題	位認定の最 作品評価の	低条件と合計点に	する (、講評	ーつでも 会でのプ	課題未提出が レゼンテーシ	がある場合は単 ノョン評価を加	位不記 えて算	認定) 算出する。					
							授業外学習							
						,	教科書							
No	初歩からの建		籍名 —————			藤木庸介・	著者名		学芸出版		出版社		\rightarrow	ISBN/ISSN
1	nyn owe	. 木ゼロ				Dak / IV/HI / I	17## (7 b		子公山加	\ i				ISBN978-4-7615-25587-3
2														
3														
第3	回目授業まで	に指定した	:教科書を	用意す	ること。	<u>I</u>			<u> </u>					
							参考書							
No		書籍	籍名				著者名			Н	出版社		\Box	ISBN/ISSN
1														
2	2													
3	3													
							前提学力等							
							履修資格							

講義名	基礎設計	製図						担当教員	藤木 庸介/南	政宏
講義コード	1400430	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	133RED22	:1								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方、諸注意などを説明。第1課題出題。
第2回	第1課題の講評	第1課題の講評
第3回	第2課題「線の練習」	製図用具の使い方の講義と実習
第4回	第3課題「RC住宅」の図面トレース	「RC住宅」の図面トレース
第5回	第3課題「RC住宅」の図面トレース	「RC住宅」の図面トレース
第6回	第4課題「アクソメの作成」	「アクソメ」に関する講義と実習
第7回	第5課題「インテリアパースの作成」	「インテリアパース」に関する講義と実習
第8回	第6課題「模型の作成」	「模型作成」に関する講義と実習
第9回	図面基礎の復習テスト	図面基礎の復習テスト
第10回	第7課題「6メートル立方の空間」	第7課題についての説明と実習
第11回	第7課題「6メートル立方の空間 」	コンセプトのチェック
第12回	第7課題「6メートル立方の空間」	スケッチのチェック
第13回	第7課題「6メートル立方の空間」	プレゼンテーション作成
第14回	第7課題「6メートル立方の空間」	プレゼンテーション作成
第15回	第 7 課題「 6 メートル立方の空間 」	「 6 メートル立方の空間」の作品講評会
		担当者から一言

本演習では、基本的な製図用具を各自で用意する必要があります。 用意すべき製図用具は授業内で説明します。

	講義名	基礎服飾	デザイン					担当教員	横田	尚美 / 森下	あおい	
講	義コード	1400440	単位数	1	開講期	後期	授業種別 演習					
ナンノ	(リング番号	133FSD26	1									
							授業概要	•				
服飾さい	最齢デザインの基礎知識として、デザイン画の基本的な技法を修得し、人体のプロポーションと着装の関係を把握する。 たた、服飾デザインに必要な服づくりの基本的な知識を得るための実習を行う。また次年度で服を製作する準備として、アイロン掛けや、手縫とミ √ン縫いの基本を学ぶ。それとともに、これまで意識して来なかった各自の衣生活について見直す。											
	到達目標											
(2)	(1) 基本的なデザイン画の技法を理解する。 (2) 服づくりについての最低限の専門用語を知り、最低限の商品知識を持つ。 (3) 基本的なアイテムの構造について理解できる。											
							成績評価					
	種別	割合(%)	評価基準	等								
ī	它期試験											
レス	レポート課題											
-	上記以外	100%	到達目標	(1)	~ (3)につ	いて、毎回の	ひ提出物とレポー	トによって評価	する			
							授業外学習					
授業	でまとめきれ	なかった分	を宿題と	するこ	とがある	。また、事育	前に課題を与えるる	ことがある。				
						•	教科書				ļ	
No		書籍	籍名				著者名		<u>H</u>	出版社		ISBN/ISSN
1												
2												
3												
中高	の家庭科の教	科書を持っ 	ていれば	、それ 	,を参考に	してほしい。	持参してもらうり	易合があるかも 	しれな	: l 1。		
, 1			·				参考書		, .	LUC 41	T	LORYLLOGY
No		書籍	籍名				著者名		<u>H</u>	出版社		ISBN/ISSN
1												
2												
3												
授業	内で適宜紹介	する。										
							前提学力等					
							履修資格					

講義名	基礎服飾	デザイン					担当教員	横田	尚美 / 森下	あおい		
講義コード	1400440	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習					
ナンバリング番号	133FSD26	1										

		授業計画
 回数	タイトル	概要
第1回	デザイン画の基本のプロポーション	デザイン画の目的と種類を知る。 基本プロポーションと着装ポーズの描き方を学ぶ。
第2回	着装ポーズの展開方法	着装のためのポーズの描き方を学ぶ。
第3回	着装画の書き方(1)	衣服の種類と形状の描き方を学ぶ。
第4回	着装画の描き方(2)	素材の表現方法を学ぶ。
第5回	平面画の描き方	構造を理解させる平面画の描き方を学ぶ
第6回	デザイン画の表現まとめ	テーマ応じたデザインを着装画と平面画で表現する。
第7回	服づくりの基礎	アイロンの使い方、縫い方の基礎を学ぶ。(実習) ハンカチから布の特性を知る。
第8回	服の構造 (シャツ、ブラウス) 1 手縫の基本1	シャツやブラウスの構造を学ぶ。(実習) シャツやブラウスの商品知識を身に着ける。
第9回	服の構造 (シャツ、ブラウス) 2 手縫の基本2	引き続き、シャツやブラウスの構造を学ぶ。(実習) シャツやブラウスの商品知識を身に着ける。
第10回	服の構造(シャツ、ブラウス)3 手縫の基本3	引き続き、シャツやブラウスの構造を学ぶ。(実習) シャツやブラウスの商品知識を身に着ける。
第11回	服づくりの面白さ(特講)	外部講師を招いて、服づくりの面白さについて学ぶ。
第12回	ピンクッション製作	服づくりに欠かせないピンクッションの製作を通して、手縫の復習をする。
第13回	服の構造(スカート、パンツ)1ミ シンの基本1	_ スカートやパンツの商品知識を身に着ける。 ────────────────────────────────────
第14回	服の構造(スカート、パンツ)2ミ シンの基本2	
第15回	服の構造(スカート、パンツ)3ミシンの基本3	引き続き、スカートやパンツの構造を学ぶ。(実習) スカートやパンツの商品知識を身に着ける。
		担当者から一言

デザイン画の課題時には、ファッション雑誌を持参することを課す場合がある。 後半については、裁縫道具のセットを持参してもらう。

講義名	近代デザ	イン史					担当教員	面矢 慎介		
講義コード	1400570	単位数 2	開講期	前期	授業種別	講義				
ナンバリング番号	233LVD20)2								
					授業概要					
近代になって、 われの生活空間は 意識(価値観、美 ンテリア、印刷物	産業革命、 は、徐々にも 意識、家が などのデサ	市民社会の成 三ダニズムのデー 実観)も変りつ ずインにおいて、	立、科学技 ザインにお つある。こ どのよう	術の発展な おわれてき のようなな な変革の試	どによって、た た。そして現 かで、近代は みがなされて	社会は大 代、豊か じめより きたのか	きく変化し さ、情報化 現代にいた を、具体例	た。なかです 、都市化、か るまでの間で を通して概能	も、合理主義・ ^は グローバル化に。 の生活デザイン、 観する。	機能主義により、われ よって、我々の生活や 主として、道具、イ
					到達目標					
(1)モダンデサ	インの流れ	この全体像をつ	かむ。	± 40 3						
(2)種々のデザ (3)有名デザイ (4)デザイナー	「イン連動り」 「ナーの名と - の作品の特	/ルーノの位直1 とその作品に親 持徴や他との影響	可けど特徴 しむ。 響関係を調	を知る。 べ、文章に	まとめること;	ができる	0			
						i				
種別	割合(%)	評価基準等			7-X/30041 11-1					
定期試験	30	期末筆記試験								
レポート課題	レポート課題 55 宿題 信 題									
上記以外	上記以外 15 レスポンスペーパー									
	<u>I</u> ↑の 1 以上欠	<u> </u> R席した者は評(西対象とし	ない。						
					授業外学習	<u></u> 멸				
	:して、モタ	ブンデザインで	舌躍したデ	ザイナーで			物の評伝と	作品につい	て、手描きスケ [、]	ッチ入りでレポートす
					教科書					
No	書	籍名			著者名			出版社		ISBN/ISSN
1										
2										
3										
				1			<u> </u>			<u> </u>
					参考書					
No		籍名			著者名			出版社		ISBN/ISSN
カラー版・t	カラー版・世界デザイン史 1 阿部公正(監) 美術出版社 978-4-568-40084-7									
2	2									
3										
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·										
					前提学力等	·····································				
履修資格										

講義名	近代デザ	イン史						担当教員	面矢 慎介
講義コード	1400570	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233LVD20	2							

	, E	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	はじめに	近代の始まり、産業革命
第2回	プレモダンデザイン	モリスとアーツアンドクラフツ運動
第3回	プレモダンデザイン	アールヌーボーとグラスゴー派
第4回	プレモダンデザイン	ウィーン工房
第5回	プレモダンデザイン	ドイツ工作連盟
第6回	モダンデザイン	マシーンエイジ、フォーディズム、未来派
第7回	モダンデザイン	ロシア構成主義
第8回	モダンデザイン	デ・スティル
第9回	モダンデザイン	バウハウス
第10回	モダンデザイン	インダストリアルデザイン
第11回	モダンデザイン	アールデコ
第12回	モダンデザイン	MOMAとミッドセンチュリー、ウルム造形大学
第13回	モダンデザイン	スカンジナビア・モダン
第14回	モダンデザイン	イタリアン・モダン
第15回	ポストモダンデザイン	ポストモダンデザイン
		担当者から一言

講義名	空間デザ	イン論				担当教員	佐々木 一泰				
講義コード	1400580	単位数	2 開講期	後期	授業種別 講義						
ナンバリング番号	333RED22	23									
					授業概要						
この授業では空間動などの心理的影インについて学ぶ	引に関するデ シック で で で 後半 は 社	゙ザインに 〕立つ。前 仕会や風土	ついて学ぶ。空 半は近現代の西 の文化的背景を	間のデザイン 洋の空間デザ 踏まえた上、	ンは建築やグラフィ ザインについて学び 視覚伝達の仕組み	ックなどの視 、次にその日 や、人間の行	覚伝達手法や、社会や風 本への影響を踏まえて、 動とデザインの関係につけ	土の文化的背景、人の行 近現代の日本の空間デザ いて学ぶ。			
					到達目標						
(1)空間に対す (2)デザインに「	る理解や設 関しての論	計、デザィ 理的フレ -	インを行う際の、 - ムを、 構成理	思考の助け	となる様な基礎知 基づいて理解する。	哉を習得する 。					
					成績評価						
種別	割合(%)	評価基準	等								
定期試験	0										
レポート課題	レポート課題 100 全15回の授業内全てに小レポートを課し、その内容で評価する。										
上記以外											
3分の1以上欠席し	た場合は、	評価の対	象としない。								
+>4\\\	-to + -711.	. I + tak	+	北見大四知	授業外学習	:+> - 1.					
のらかしの胎布さ	:れにノリン	/ トを授業	まじに祝胜し、	月京を理解し	したうえで授業に臨	افا د ک					
Ma.	=	άτι Α 7		T	教科書		11145 71	1000//1000			
No .		籍名			著者名		出版社	ISBN/ISSN			
1											
2											
3											
				ı		<u> </u>		1			
					参考書						
No		籍名			著者名		出版社	ISBN/ISSN			
作家たちの ³ 1	Eダニズム			黒田智子	他	学芸出版	反社	4-7615-2307-7			
2 近代日本の作	近代日本の作家たち 建築をめぐる空間表現 黒田智子 他 学芸出版社 4761523794										
3	3										
授業中プリント配	 已布										
					前提学力等						
					F 16.70.15						
	履修資格										

講義名	空間デザ	イン論						担当教員	佐々木 一泰
講義コード	1400580	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333RED22	3							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション:デザインは 何からつくられているか	本講義の内容と目的、講義の進め方、評価の方法等の解説を行う。風土・感性・社会の文化的背景を踏まえた空間デザインの理解を目的とする。
第2回	西洋の空間デザインの理解 1	西洋の風土特性とデザインとの関係について解説を行う。ロシア・ドイツ・フランスとの相互影響や 、多様性・社会変革・造形の仕組みについて学ぶ。
第3回	西洋の空間デザインの理解 2	西洋の風土の特性とデザインとの関係について解説を行う。イメージと理論、技術の関係について理解する。
第4回	西洋の空間デザインの理解 3	西洋の風土の特性とデザインとの関係について解説を行う。イメージと技術、理論と情報の関係について理解する。
第5回	西洋の空間デザインの理解 4	西洋の風土特性とデザインとの関係について解説を行う。日本への影響と応用について理解する。
第6回	日本の空間デザインの理解 1	第二次世界大戦までの日本における西洋からの文化輸入と、日本の空間デザインのアイデンティティの確立について理解する。
第7回	日本の空間デザインの理解 2	戦前から戦後における、日本の空間デザインのアイデンティティの確立について理解する。
第8回	日本の空間デザインの理解3	戦後における、日本の空間デザインのアイデンティティの確立と、日本にあった技術革新と造形について理解する。
第9回	日本の空間デザインの理解 4	戦後から現代の、日本の空間デザインのアイデンティティの確立について理解する。
第10回	視覚伝達の仕組み 1	絵画や写真などの事例を基に、構図や視線誘導の仕組みを理解する。
第11回	視覚伝達の仕組み 2	タイポグラフィやグラフィックの手法を理解する。
第12回	視覚伝達の仕組み3	平面で展開された視覚伝達の仕組みを、空間に応用する手法を理解する。
第13回	人間の行動とデザインの関係 1	商業空間の事例を基に、購買行動に繋げる空間の仕組みを理解する。
第14回	人間の行動とデザインの関係 2	空間の事例を基に、行動を誘発する空間の仕組みを理解する。
第15回	まとめ	本講義を総括し、空間デザインの意義について考察を行う。
		担当者から一言

講義名	建築計画	論						担当教員	藤木 庸介			
講義コード	1400705	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義					
ナンバリング番号	233RED22	23										
						授業概要						
世界には建築に本講義では建築に	世界には建築に対する多用な考え方や表現があり、これらを概観する事は、建築を理論的、且つ、感覚的に理解する上での必須要件と言えよう。 本講義では建築に対する議論や設計を巡る思考の助けとなる様な基礎知識、あるいは最低限知っておくべき論理的フレームを"Architectural Design"という言葉の上に広く捉えつつ、これらの知見をわかりやすく解説する。											
Design ZNOE	朱の工に ル	3、灰ん ノ	ار د	.11600和)	兄をわかり	199 人用年記 9	ິຈ.					
						 到達目村						
(1)建築に対する	 5議論や設 まする 是	計を巡る原	思考の	 助けとなる べき論理的	様な基礎知	口識を習得す	<u>る。</u>	الم " الم	う言葉の上において理			
(2) 建采可凹区	引する、取		- 00 人,	、C 咄/庄□;	J / / - ムで	e Arciirtec	luiai D	esign CVI.	フロ来の工にのいて達	:州千 9 る。		
						成績評値	#F					
種別	割合(%)	評価基準	等			7.人類計1	Щ					
定期試験												
レポート課題	レポート課題											
上記以外	100	到達目標 成績への	に記載 寄与率	覚した(1)(2 図は小テス	2)の内容を トの合計を	包含した小ラ 100%とし、	Fスト3 60%以 ₋	回により評価 上を合格とする	ີ່. ວິ.			
授業時間数の3分	<u> </u> の 1 以上欠	<u> </u> Z席した者	は評価	対象にし	ない。							
教科書の講義対象	部分を事前	前・事後に	おいて	通読する	ことが望ま	授業外学 しい。	習					
No	書	 籍名				数科書 著者名			出版社	ISBN/ISSN		
テキスト建築	意匠				平尾和洋	・末包伸吾		学芸出版	 	ISBN4-7615-3146-0		
2												
3												
第2回目授業までは	二教科書を	用意するこ	١٤.					•				
	_					参考書						
No	書	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN		
1												
2												
3												
						前提学力	等					
							h					
	履修資格											

講義名	建築計画	論					担当教員	藤木 庸介	
講義コード	1400705	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233RED22	3							

	<u> </u>	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	本講義の内容と目的、講義の進め方、評価の方法等を解説する。
第2回	力の流れと表現(1)	基礎的な建築構造の考え方について解説する。
第3回	力の流れと表現(2)	基礎的な建築構造の考え方について解説する。
第4回	近代の建築(1)	基礎的な近代建築理論について解説する。
第5回	近代の建築(2)	基礎的な近代建築理論について解説する。
第6回	現代の建築(1)	基礎的な現代建築理論について解説する。
第7回	現代の建築(2)	基礎的な現代建築理論について解説する。
第8回	建築表記の射程(1)	建築表記の実践とその意義について解説する。
第9回	建築表記の射程(2)	建築表記の実践とその意義について解説する。
第10回	建築の原点(1)	建築の原点とその意義について解説する。
第11回	建築の原点(2)	建築の原点とその意義について解説する。
第12回	建築の要素(1)	建築を構成する様々な要素について解説する。
第13回	建築の要素(2)	建築を構成する様々な要素について解説する。
第14回	光について	建築と光の関係について解説する。
第15回	まとめ	本講義を総括し、建築計画の意義について考察を行う。
		担当者から一言

									Г	7			
講義名	考現学概	論						担当教員	面矢 慎介				
講義コード	1400730	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義						
ナンバリング番号	133LVD10	9-C											
						授業概勢	更						
Ⅰ 掘した遺ದ・遺物	生活を捉える基本的方法論としての考現学について解説する。日本において創始された考現学は、生活のありようをとらえる有効な方法であるばかりか、生活実態に即したデザインの発想をうながし、現在まで多くの生活研究者・デザイン実務家によって発展・継承されている。考古学者が発掘した遺構・遺物から過去の生活相を復元し想定するように、考現学では、現在の生活を観測、観察、記録して、その生活相の変化を明らかにし、新しい生活をデザインするための立脚点とする。本講義では、考現学の創始者・今和次郎(1888~1973)から現在にいたる考現学的生活研究の系譜を論じ、さまざまの考現学的調査手法を事例を交えて解説する。グループワークによる調査体験、授業期間終了後の個人調査・レポート制作を含む。												
到達目標 実際の調査体験を通して、生活文化をとらえるための考現学的観察・記録の方法と視点を修得する。(1)過去の考現学調査の方法と視点を理解し、自分なりの感想や意見を述べることができる。(2)グループワークに参加し協調して調査を計画・実行できる。(3)個人で調査を計画・実													
し、自分なりの感想や意見を述べることができる。(2)グループワークに参加し協調して調査を計画・実行できる。(3)個人で調査を計画・実行し、その結果を文章や図解にまとめることができる。													
						成績評値	T						
種別	割合(%)	評価基準	等										
定期試験	0												
レポート課題	70	個人調査	レポ-	-ト(期末	/ポート)								
上記以外	30	コメント	カート	・(寄与率1	0%)、グリ	レープワーク	での貢献	献度(寄与率2	20%)				
個人調査レポート	は授業期間	終了後、	夏期休	は暇中に作ん	対する。 グ	ループワーク	7への参	加はそれまで	の講義時間数の半	分以上を出席した者に限る。			
						授業外学	習						
夏期休暇中の個人	調査レポー	・ト(必須)										
						教科書							
No	書籍	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN			
1 考現学入門					今和次郎			ちくま文	(庫	4-480-02115-9 C0136			
2													
3													
No	a	許夕		I		参考書			ф Г	LCDM/LCOM			
No	一	籍名 ————				著者名			出版社	ISBN/ISSN			
1													
3	3 授業中にプリント配布する												
技業甲にノリント	出作りる												
	前提学力等												
							夕						

講義名	考現学概	論					担当教員	面矢 慎介	
講義コード	1400730	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD10	9-C							

		授業計画								
回数	タイトル	概要								
第1回	考現学とはなにか	基本的定義・方法的特性								
第2回	今和次郎とその考現学	今和次郎の考現学とその時代背景								
第3回	今和次郎グループの考現学手法	観察、スケッチ、計測、集計、図化								
第4回	考現学の現代的継承1	生活財生態学、民具悉皆調査								
第5回	考現学の現代的継承 2	とげぬき地蔵の考現学								
第6回	考現学の現代的継承3	街歩き、路上観察								
第7回	現学の現代的継承 4	自動販売機の生態、自転車駐車の生態								
第8回	グループワーク 1	調査テーマの探索								
第9回	グループワーク 2	調査テーマ決定、仮調査								
第10回	グループワーク 3	調査方法詳細の決定								
第11回	グループワーク 4	調査経過会議								
第12回	グループワーク 5	調査経過会議								
第13回	グループワーク 6	調査結果の集計・分析								
第14回	グループワーク 7	成果報告準備								
第15回	グループワーク 8	成果報告会、個人調査課題の出題								
	担当者から一言									

	講義名	構造計画	(生活デザ	ナイン)				担当教員	渡邉	頁美樹		
講	義コード	1400820	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義					
ナンノ	「リング番号	233RED22	4										
							授業概要	<u> </u>					
建物	<u></u> を計画すると	いうことは	、機能性	 、安全	 性を把握	しさらに芸術			 な作業である	 。建物を	 成立させ	 るために	 は、建物に作用する力
の種類	類と流れを掌 し効率の良い	握し、構造 構造計画を	材料の特 習得する	性を注 ことと	かして架 :、小規模	!構すること <i>!</i> !木造建物の言	が必要である 汁画について	。本講 講義す	義では建物に る。	作用する	外力に対	して使用	は、建物に作用する力 する構造材料の特性を
					,				•				
							 到達目標	i					
建物Ⅰ	 に作用する力	 の種類と流	 れをに対	 し、建	 関物の安全	 性を確保する			———— 構計画を習得	し、小規		 物を設計	 する能力を身に着ける
こと。													
							计 /主证/3	=					
	 種別	割合(%)	評価基準	等			成績評価						
=	 E期試験		記述試験	を行な	こ う。								
	上央方山山河大	70											
レ 7	レポート課題 ₀												
-	上記以外	30	毎回復習	小テク	ストを行な	う。							
0// 0		4 II A IA	±=====================================	4 1 1	4513								
3分())1以上欠席し	に場合は、	評価の対	家とし	ない								
							授業外学	 習					
建築記えま	計画は普段街	を歩いてい	る時に工	事現場	まに興味を	もち、今はる			ているかを自	分で学び	「取ること	が一番の	復習・予習になると考
<i>λ</i> . Δ.	9 .						教科書						
No		書	 籍名				著者名			出片	 仮社		ISBN/ISSN
1	やさしい建築					今村仁美・			学芸出版				070 4 7045 0477 7
_'													978-4-7615-2477-7
2													
3													
_													
							参考書						
No		書籍	籍名				著者名			出席	仮社		ISBN/ISSN
1													
2													
3	3												
	前提学力等												
物理(の基礎知識を	有している	こと										
							復修資格	ì					

講義名	構造計画	(生活デヤ	ブイン)			担当教員	渡邉	須美樹	
講義コード	1400820	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	233RED22	4								

		授業計画								
回数	タイトル	概要								
第1回	構造計画とは 	建築物の構造計画概要、必要性を講義 								
第2回	建築物に作用する力と荷重条件	建築物に作用する力、荷重条件を講義 								
第3回	建築構造の材料概要	建築物を構成する材料の特性概要について講義								
第4回	各構造の基礎知識	木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造についての基礎知識を講義								
第5回	各構造の基礎知識	木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造についての基礎知識を講義								
第6回	木造軸組工法 基礎	木造軸組工法の基礎・地業部分について講義								
第7回	木造軸組工法 軸組	木造軸組工法の軸組部分について講義								
第8回	木造軸組工法 壁量計算	木造軸組工法の壁量計算について講義								
第9回	木造軸組工法 小屋組	木造軸組工法の小屋組部分について講義								
第10回	木造軸組工法 床組	木造軸組工法の床組部分について講義								
第11回	木造軸組工法 接合部その他	木造軸組工法の接合部分その他について講義								
第12回	木造枠組壁工法・丸太組工法	木造枠組壁工法、丸太組工法について講義								
第13回	鉄筋コンクリート造構造計画	鉄筋コンクリート造の構造計画について講義								
第14回	鉄骨造構造計画	鉄骨造の構造計画について講義								
第15回	まとめ	全体の復習、おさらい								
	担当者から一言									

	講義名	構造力学	(生活	デザイ	ン)			担当教員	渡邉	須美樹			
請	<u></u> 講義コード	1400830	単位数	2	開講期	後期	授業種別 講郭	:					
ナン	バリング番号	213ARC20	2,214BRM2	289,33	3RED321	•	•						
	授業概要												
建構で	建築空間を構成するためには、建物に作用する力の種類と流れ、および建物を 構成する部材に作用する力とそれに対する架構の挙動を理解することが不可欠 である。本講義では、基礎的な構造力学を学習する。												
							到達目標						
静定 対象	静定構造物を対象とした建築構造力学の基礎知識を習得し、簡単な骨組構造を 対象として力学の基礎原理を習得する。												
							成績評価						
	種別	割合(%)	評価基準記述試験		```								
:	定期試験	70	心处叫	(21)	↓ J。								
レ	ポート課題												
	上記以外	30	毎回復習	小テス	ストを行な	こう。							
3分0	の1以上欠席し	 た場合は、	評価の対	象とし	ない								
構造 こと	カ学は自然の ができます。	 摂理を数字	で表現す	ること	です。普	段の生活の中		作用する力」を	<u></u> き意識す	ることで授業の内	容が身近なものに感じる		
							教科書						
No	サチトリ律法		籍名			(半)刀(丰)刀	著者名	兴 士山		出版社	ISBN/ISSN		
1	やさしい構造	1.7子				浅沼清昭		学芸出	IX		978-4-7615-2349-7		
2													
3													
						•	参考書						
No		書籍	籍名				著者名		Ł	出版社	ISBN/ISSN		
1													
2	2												
3	3												
	前提学力等												
数学	数学の基礎知識を有していること												
	履修資格												

講義名	構造力学	(生活	デザイ	ン)			担当教員	渡邉	須美樹	
講義コード	1400830	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	213ARC20	2,214BRM2	289,33	3RED321						

		授業計画								
	タイトル	概要								
 第1回	構造力学概論	構造力学についての概論説明								
第2回	力の流れの理解	構造物の力の流れと力のつり合いを講義								
第3回	支点反力の計算	構造物の支点に生じる力を講義								
第4回	単純梁の部材に生じる力(1)	単純梁に生じる力の計算方法を講義								
第5回	単純梁の部材に生じる力(2)	単純梁に生じる力の計算方法を講義								
第6回	単純梁の部材に生じる力(3)	単純梁に生じる力の計算方法を講義								
第7回	片持ち梁の部材に生じる力	片持ち梁に生じる力の計算方法を講義								
第8回	跳ね出し梁の部材に生じる力	跳ね出し梁に生じる力の計算方法を講義								
第9回	ラーメン部材に生じる力	ラーメン部材に生じる力の計算方法を講義								
第10回	トラス部材に生じる力	トラス部材に生じる力の計算方法を講義								
第11回	部材断面の考え方	部材断面特有の係数についての講義								
第12回	断面に生じる力(1)	断面に生じる応力度の計算方法を講義								
第13回	断面に生じる力(2)	断面に生じる応力度の計算方法を講義								
第14回	座屈とたわみ	座屈、たわみの特性について講義								
第15回	まとめ	全体の復習、おさらい								
	担当者から一言									
	出当日から一日									

			/ \ ±^										
講義名	サステナ	ブルデザ〜	イン論 					担当教員	南政宏				
講義コード	1400910	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義						
ナンバリング番号	133LVD10	8											
						授業概	要						
大量消費、大量生 を見直す時がきて 変わりつつあるデ	大量消費、大量生産によって経済発展を遂げ、支えられてきた二十世紀。現在、その豊かさの代償に様々な弊害や歪みが起きている。様々な仕組み を見直す時がきている。デザインの力がどのように社会に貢献できるのか考察する。デザインとは何か。デザインの基礎的な話から,現在世の中で 変わりつつあるデザインの役割,持続可能な社会にサステナブルなものづくり、社会システムのあり方を先端事例を交えて考える。												
到達目標													
<u>到達目標</u> デザイナーの職能と、デザインの果たす役割、デザインの可能性について様々な見地からの知識を深める。													
アサイナーの職能と、アサイフの来たす役割、アサイフの可能性にプロで様々な見地からの知識を深める。 成績評価													
 種別	割合(%)	評価基準	 等			刀以為具計1	Щ						
定期試験													
レポート課題	30	テーマに	沿って	, オリジ [・]	ナリティの	ある視点で記	善けてい	るか。					
上記以外	70	毎回のレ	スポン	スペーパ	_								
3分の1以上欠席し	た場合は、	評価の対	象とした	3 11									
						授業外学	習						
必要に応じて小レ	ポート課題	を課する	0										
						教科書	Ė						
No	書	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN			
1													
2													
3													
 教科書はなし。										L			
						参考書	<u> </u>						
No	書	——— 籍名				著者名			 出版社	ISBN/ISSN			
世界を変えるデザイン シンシア・スミス 英治出版										4-86276-058-9			
Balance in d ② 原則	design 🗐	美しくみも ———	!るデザ 	インの	Kimberly	Elam		ビー・コ	ロヌ・エヌ新社;	4861007933			
3													
	A 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1												
生活デザイン学科	生活デザイン学科1年次での履修が望ましい。												
工/ロテッコノ子作	主沽テザイン字科1年次での履修が望ましい。 												

講義名	サステナ	ブルデザイ	イン論				担当教員	南 政宏	
講義コード	1400910	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD10	8							

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	ガイダンス	デザインに込められた意味や形の考え方。シンボルマークを事例に解説。									
第2回	自然が生み出したデザイン	バイオミミクリーを事例に,自然から応用されたデザインについて。									
第3回	広告やグラフィックにおけるデザ イン	広告やグラフィックにおけるデザインについて,事例を通して学ぶ。									
第4回	電気やエネルギーとデザイン	日本と世界を比較し電気やエネルギーとデザインについて。									
第5回	ブランディングデザイン	ブランドとは何か事例を通して,様々なブランディングについて。									
第6回	クラフトとデザイン	クラフトと手工業とデザインについて。									
第7回	リサイクルとデザイン	ゴミとリサイクルとデザインの関係について。									
第8回	アフォーダンスとデザイン	行為を誘発するデザインについて。									
第9回	地域デザイン	地域を舞台に活躍するデザイナーについて。									
第10回	ロングライフデザイン	何年も前からずっと変わらないロングライフなデザインについて。									
第11回	建築におけるサステナブルデザイ ン	持続可能な建築とは何か?現代の住宅などについて。									
第12回	乗物におけるサステナブルデザイ ン	持続可能な乗り物や自転車などのデザインについて。									
第13回	世界を変えるデザイン	今,世界でデザインの果たす役割について。									
第14回	途上国とデザインについて	フェアトレード、マイクロクレジットなど途上国とデザインについて。									
第15回	まとめ	サステナブルデザインまとめ 大学時代に何をすべきか									
		担当者から一言									

建築学科のサスティナブルデザイン論と間違わないように。

	講義名	色彩学							+0.1/25.55	宮本	- 単フ	
							1-314		担当教員	百华	<u>1件 】</u>	
	義コード	1400930	1 1220	2	開講期	前期	授業種別	講義				
ナン	バリング番号	233LVD20	14 							<u> </u>		
	授業概要											
世界 色彩 色彩	現代は生活の質が求められる時代となり、生活のさまざまな場面で色彩の果たす役割は大きくなっている。しかし、騒色という言葉があるように色彩が人に悪影響を及ぼすこともある。そこで、生活デザインにおける快適な色彩計画のための基礎知識を得ることをねらいとし、色の表示方法や色彩調和論等について講義する。											
(1) 🛱	(1)色彩の表示方法について習得する。											
(2)面	記念の表示力が 記色技法につい E活の中の色彩	1て理解し、	生活の中	っでの	配色事例に習得する。	ついて分析	折できる					
(0)	-/日07-1-07 凸水)	±.411,65	ниф С	= N3 7 0 0							
	成績評価											
	種別	割合(%)	評価基準	等								
7	定期試験	40										
レi	ポート課題	15										
	上記以外	45	到達目標	(1 <u>)</u>	色知覚につ	いて理解	し、色彩の表 (2)色彩調系	示方法に	こついて習得 ^っ おきについて	する、に	こついては、課題5%	、小テスト15%、期末 事例について分析でき
		40	る、につ	いてに	は、課題	10%、小デ	スト15% 其	末試験	10% レスホ	ピンスペ	、 生活の中 この配色	の中の色彩についての
								習				
							教科書					
No			籍名				著者名			Н	出版社	ISBN/ISSN
1	色彩:カラー	-コーディス	ネーター <i>)</i>	門					日本色研	事業		978-4-901355-27-8
2												
3												
副教	材として「新	配色カード	*199a」を 	使用								
ļ.,			** A		1		参考書				ulc +1	100011000
No			籍名				著者名			<u>H</u>	出版社	ISBN/ISSN
1												
2	2											
3												
												1
							34 Jm 114	Arte				
							前提学力	寺				
	To the control of th											

講義名	色彩学						担当教員	宮本 雅子	
講義コード	1400930	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233LVD20	4							

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	生活と色彩	身近な色について考える									
第2回	色知覚について	眼の構造と色知覚									
第3回	色の表示方法 1	色名による表示方法およびマンセル表色系について									
第4回	色の表示方法 2	オストワルト表色系、NCS表色系、PCCS等について									
第5回	色の測定方法	色と光の三原色と混色、色の測定法(視感測色法、分光測色方法、刺激値直読方法)									
第6回	照明と色彩	小テスト、照明と色彩									
第7回	色のイメージ	色の単色イメージと連想									
第8回	色の好み	年齢や国による嗜好色の違いについて									
第9回	色の視覚効果	様々な色の視覚効果について									
第10回	色彩調和論 1	小テスト オストワルト、ムーン&スペンサーの色彩調和論									
第11回	色彩調和論 2	シュブルール、ルード、ジャッドの色彩調和論、PCCSによる配色									
第12回	配色技法	様々な配色技法									
第13回	色彩と文化	各時代の日本の色彩について									
第14回	色彩計画の実際	Webに使用される色彩について 実際の空間やモノに色彩計画する際のプロセスについて									
第15回	まとめ	全体まとめ									
		担当者から一言									

講義名	色彩学演	習			担当教員	宮本雅子				
講義コード	1400940	単位数 1 開設	養期 後期	授業種別 演習						
ナンバリング番号	233LVD20)5								
	授業概要									
べての色はシステ	色彩感情や調和理論についての認識を深めるためにポスターカラーやパーソナルコンピュータによる画像処理を利用した色彩表現を行う。また、すべての色はシステム化された記号や数字で示し、各種色度図上に表現できることを理解するため機器類を使用して測色を行う。さらに、生活の中に 日におる後記について関連的な技术と、変視なるとなった。									
見られる巴彩に >	見られる色彩について興味関心を持ち、評価できる力をつける。									
	到達目標									
(1)色料の3原色	の混色によ	 る色彩表現ができる。		五年 日 1年						
(2)色彩の測定方法(3)実際のモノ、	法を理解する問の配色	る について調査し、評値 、コンセプトに基づい	いたなましい配	もの坦安ができる						
(4)同題のある配((5)感覚だけでは)	さく理論に	、コンピノドに奉うが 基づいた色彩計画がで	できる。	当の症条がてさる。						
種別	割合((())	評価基準等		成績評価						
上	割占(%)	計測基準等								
上 期武鞅										
レポート課題	レポート課題									
上記以外	100	る、については、課	題作品10%、(3	3)実際のモノ、空間の	D配色につい′	ては、課題作品15%、(2)色 て調査し、評価できる、に プトに基づいた好ましい配	ついては、プレゼンテ			
 課題の提出期限は 授業時間数の3分	<u>I</u> は厳守 ↑の1以上欠			3,2 10 05 0 ,00 2.12 2 1		, , ,				
				授業外学習						
				323671371						
				教科書						
No	書	籍名		著者名		出版社	ISBN/ISSN			
1										
2										
3							+			
[°]	a」									
HOC. 1 1996	^ 」 C G かノ III	3 <u>—</u> (X/II) 7 0								
No	書:	 籍名				 出版社	ISBN/ISSN			
1										
2										
3							1			
 「 デジタル色彩マ	/ ニュアル」	「建築の色彩設計法	L 」等、演習の中	で適宜紹介	<u> </u>		_1			
				前提学力等						
色彩の表示方法や 	色彩の表示方法や配色技法について理解していること									
				履修資格						

講義名	色彩学演	習					担当教員	宮本 雅子	
講義コード	1400940	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233LVD20	5							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	色料の3原色による混色	色料の3原色(C.M.Y)、白および黒相互間の混色により色票を作成する
第2回	グラデーションを利用したデザイ ン	コンセプトを設定し、作成した色票のグラデーションを使用してデザイン化する
第3回	測色1	3種類の測色方法をローテンションで行う 測色1 標準色票による測色(Hv/c)
第4回	測色2	測色2 色彩色差計による物体色の測定 (X Y Z 値、 Y x y 値、 L * a * b *値、 H v / c 値) 、色差の 算出
第5回	色彩調査の説明	街並み、道具、服飾の色彩の調査(好ましい配色と好ましくない配色)について説明する
第6回	中間発表	どのような調査の視点で調査をしているのかについて説明
第7回	プレゼンテーション	調査結果のプレゼンテーションと講評を行う
第8回	学外実習	伝統的町並の屋外広告物の色彩調査を行う
第9回	カラーシミュレーションの手順に ついて	フォトショップを利用したカラーシミュレーションの手順について説明する
第10回	カラーシミュレーション	好ましくないと評価した配色に対しての改善案をフォトショップを利用して作成する
第11回	プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評を行う
第12回	キャッスルロードの暖簾デザイン	「古い街並みにあった暖簾デザイン」課題の説明
第13回	デザイン案のチェック	デザイン案について説明する
第14回	プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評を行う
第15回	卒業研究発表会への参加	卒業研究発表会に参加し、様々なデザインに触れる機会とする
		担当者から一言

講義名	社会調査					担当教員	大野	光明		
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	230S0C20	4,233MKD2	281,23	5S0C203						

授業概要

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を身につけることを目的とする。
社会調査は大きくわければ、量的調査と質的調査にわけることができる。本講義では、(1)量的調査については、調査票を用いた調査の方法を修得することに重点を置く。具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、調査方法の選定(全数調査と標本調査)、標本抽出(無作為抽出、標本数・標本誤差の理解)、調査票と質問文の作成、調査の実施(調査票の配布・回収の方法)、収集されたデータの整理(エディティング、コーディング、データクリーニング)について学ぶ。また、(2)質的調査については、インタビュー調査およびフィールドワークの方法の具体を学び、フィールドノートの作成方法なども修得する。
講義では、グループワークやグループディスカッションを積極的に取り入れる。

到達目標

- (1)調査目的・方法・手順および調査問題の選択と仮説の設定について理解することができる。(2)社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。(3)質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)、(2)、(3)について、最終試験を実施して評価する。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)と(2)について、授業中に数回の小課題を出して評価する。

小課題(複数回)と最終試験を実施する。

授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

教科書は使用しない。

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	社会調査の基礎	篠原清夫ほか	弘文堂	978-4335551338							
2	入門・社会調査法	轟亮・杉野勇	法律文化社	978-4589038173							
3	質的社会調査の方法ーー他者の合理性の理解社 会学	岸政彦ほか	有斐閣	978-4641150379							

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

前提学力等

グループワークやグループディスカッションに積極的に参加できる人、あるいは、苦手かもしれないけれどチャレンジしてみようという人の参加をお待ちしています。

履修資格

講義名	社会調査	方法論					担当教員	大野 光明	
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C204, 233MKD281, 235S0C203								

		14 M.F.I.—
#F	l	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	なぜ社会調査を学ぶのか、そして、現代社会においてなぜ社会調査が必要なのかについて考える。
第2回	調査の目的と方法	社会調査、なかでも量的調査をおこなう場合の目的と調査方法の決め方について概説する。
第3回	調査の企画	調査の企画に際して考えるべきことを概説する。
第4回	調査の設計と仮説の構成(1)	調査テーマの決定と仮説の構成について概説する。
第5回	調査の設計と仮説の構成(2)	調査テーマの決定と仮説の構成について、グループワークにより実際に実施する。
第6回	全数調査と標本調査	対象者全体に実施する調査と一部を対象に実施する調査の違いと方法について概説する。
第7回	サンプリングの方法	無作為抽出の原理と代表的な方法、注意点について概説する
第8回	標本数と標本誤差	調査に必要な標本数と誤差について概説する。
第9回	調査票の作成	調査票の構成、作成方法、質問文および回答欄の作成のポイントを概説する。
第10回	質問文の作成	質問項目の整理の方法、質問文の作成方法について、実際にグループおよび個人で実際に実施する。
第11回	調査票を用いた調査の実施方法	調査票を用いた調査の具体的な方法と流れについて概説する。
第12回	調査データの整理	データの整理方法 (エディティング、コーディング、データクリーニング等)について概説する。
第13回	質的調査の方法(1)	インタビュー調査の方法について概説する。
第14回	質的調査の方法(2)	フィールドワークの方法とフィールドノーツの作成法について概説する。
第15回	まとめ	授業全体のまとめをおこなう。
		<u>l</u>

140

社会調査士資格認定科目(B科目)。

講義	名	社会調査論							担当教員	中井 治郎			
講義コ	- ド	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義					
ナンバリン	ノグ番号	130S0C10	3,133LVD	107,13	35S0C202								
授業概要													
社会調査で な手段でで	社会調査とは、社会事象を人間の社会的生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力 な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。												
(1)社会調	査の分類	質や倫理に	関する基準	本的事	項が理解で	<u></u> ごきる。	到達目村	宗					
(2)社会調(3)国勢調	査の歴史 査の特徴	2や手法に1 数と課題に	関する知詞 ついて自	識と理 らの考	解力を身に えを述べる	こつけること	こができる。 きる。						
1#.0	成績評価 種別 割合(%) ┃評価基準等												
種別		割合(%)			について	は、論述式	試験を行う。						
定期記	山場英	70%											
レポート	レポート課題												
上記以外 到達目標(1)(2)については、2回程度授業中に小レポートを実施する。								,					
	授業外学習												
		—	~~ -				教科書	ŧ			1, 11=1	T	
No		書籍名					著者名			<u> </u>	出版社	ISBN/ISSN	
1													
2													
3													
教科書は位	吏用しな	l I。										1	
							参考書	<u>t</u>					
No	書籍名								<u>H</u>	出版社	ISBN/ISSN		
1	1												
2													
3	3												
参考書は	その都度	紹介する。	必要に応	じて接	受業中にプ	リント等の	資料を配布す	ける。					
前提学力等													
							履修資	各					

講義名	社会調査	論						担当教員	中井 治郎
講義コード	1401140	1401140 単位数 2 開講期 前期 授業種別 講義							
ナンバリング番号	130S0C10	3,133LVD1	107,13	5S0C202					

- W-	5 4 1 11	
回数	タイトル	概要
第1回	社会調査とは何か	社会調査士資格、原語、主要な要素と性格、目的、意義などについて述べる。
第2回	社会調査の分類	実践的調査と科学的調査について述べる。
第3回	社会調査の類型	統計調査(センサス)、学術調査、世論調査、市場調査について述べる。
第4回	社会調査の歴史(1)	ヨーロッパの社会調査の歴史について概観する。
第5回	社会調査の歴史(2)	アメリカの社会調査の歴史について概観する。
第6回	社会調査の歴史(3)	日本の社会調査の歴史について概観する。
第7回	国勢調査	日本の国勢調査の歴史、時期、地域、対象、事項、方法、問題点などについて述べる。
第8回	国際比較調査	国際比較調査の実際と課題について概説する。
第9回	調査研究の方法(1)	量的調査と質的調査について概説する。
第10回	調査研究の方法(2)	統計的方法と事例研究法について概説する。
第11回	調査票調査	調査の種類、手順、過程などについて述べる。
第12回	フィールドワーク	調査の種類、手順、過程などについて述べる。
第13回	様々なデータの活用	ドキュメント分析や映像分析などについて、その手法と課題を述べる。
第14回	社会調査と倫理	調査の規範、倫理、調査とプライバシーなどについて述べる。
第15回	まとめ	この授業全体について、総括を行う。
		担当者から一言

この科目は社会調査士資格科目でもあるので、社会調査士の資格を取得しようと思っている人は必ず受講してください。

講義名	住環境設	計演習					担当教員	佐々木 一泰 / 藤木 庸介	
講義コード	1401210	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233RED22	5							
授業概要									
初歩的な設計演	初歩的な設計演習の第一歩として、構造を意識した木造住宅の設計を学ぶ。								

第1課題では日本の戦後住宅の作品分析と、それをもとにした住宅の設計を行う。特に日本において中心的な構法である木造建築の知識と理解を深め、木造住宅の設計手法を高める。課題である住宅作品を理解したうえで、家族構成やテーマを新たに与え、条件にあった住空間を設計し、新たに増築する。 第2課題は、ショート課題として小規模な住宅の設計と、そのプレゼンテーションの作成を行う。

죄	達	н	妆画

- (1)それぞれの構造の特徴を理解した住空間の設計が出来る。 (2)平面図,断面図,立面図を作成することができる。 (3)模型による素材や形,空間の表現ができる。 (4)構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につける。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	0									
レポート課題	0									
上記以外	100	出題課題による評価								

授業外学習

課題にあたっての事前調査、エスキースチェック前に各自予め事前作業を行う。

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	実務初心者からの木造住宅矩計図・詳細図の描き方	是永 美樹 他	彰国社	978-4395320059						
2	コンパクト建築設計資料集成「住居」	日本建築学会	丸善	978-4621076880						
3										

前提学力等

基礎設計製図を履修していること

講義名	住環境設	計演習					担当教員	佐々木 一泰 / 藤木 庸介	
講義コード	1401210	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233RED22	5							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	第 1 課題:木造住宅・住空間の基 礎-1	木造建築・住空間の設計: 課題説明
第2回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-2	フィールドサーベイ,見学(計測 + 調査) + 事例調査
第3回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-3	調査課題 ・エスキースチェック・ワークショップ ・トレース
第4回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-4	調査課題 ・エスキースチェック・ワークショップ ・トレース
第5回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-5	調査課題 ・エスキースチェック・ワークショップ ・トレース
第6回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-6	調査課題提出・中間講評
第7回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-7	フィールドサーベイ,見学(計測 + 調査) + 事例調査
第8回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-8	エスキースチェック・ワークショップ
第9回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-9	エスキースチェック・ワークショップ ・最終図面制作
第10回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-10	エスキースチェック・ワークショップ ・最終図面制作・最終模型制作
第11回	第1課題:木造住宅・住空間の基 礎-12、講評会	第1課題:木造住宅・住空間の基礎の作品講評会 第2課題:小規模な住宅課題の出題
第12回	第2課題:小規模な住宅課題-2	小規模な住宅課題:アイディアチェックとディスカッション
第13回	第2課題:小規模な住宅課題-3	小規模な住宅課題:アイディアチェックとディスカッション
第14回	第2課題:小規模な住宅課題-4	小規模な住宅課題:プレゼンテーション作成
第15回	第2課題:小規模な住宅課題-5、講 評会	第2課題:小規模な住宅課題の作品講評会
		担当者から一言

	講義名	住環境設	計演習						担当教員	宮本雅	註子/藤木	庸介	
i	構義コード	1401220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習					
ナン	バリング番号	233RED32	1										
	授業概要												
イ必随	インテリア空間、並びに、地域や環境を考慮した住空間の設計課題を行う。 必要に応じて、設計の方法、製図の方法、模型制作の方法などを学習する。 随時、具体的な実例を参照し、設計に資する。												
							到達目標						
(1) 1 (2) 1 (3) 1 (4) 1	(1)各自で設定したコンセプトに基づいた住空間の設計ができる。 (2)空間の各寸法に対する意味を理解する。 (3)平面図、展開図、透視図を作成することができる。 (4)模型による素材や形の表現ができる。												
							成績評価						
	種別	割合(%)	評価基準	等									
	定期試験												
レ	ポート課題												
	上記以外	100	: 50%	課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する(課題 :50%,課題 :50%)。 到達目標の(1)については20%、(2)については20%、(3)については30%、(4)については20%で評価する。									
単位授業	取得には,す 時間数の3分	べての課題 の1以上欠	を提出すな席した者	ることは評価	が前提条 対象にし	件となる。 ない。							
							授業外学習						
	ı		** **				教科書			, I , III	- 41		1000/100/
No			籍名				著者名			出版	双杠		ISBN/ISSN
1													
2													
3													
	l					<u> </u>							<u> </u>
							参考書						
No		書籍	———— 籍名				<u> </u>		T	出版	 		ISBN/ISSN
1	初歩からの建					藤木庸介・	柳沢究(編著)	学芸出版				ISBN978-4-7615-2587-3
2													
3													
参考	 書は授業内に	適宜紹介す	る他、必	要に応	いてプリ	<u> </u> ントを配布す	する						
							前提学力等						
基礎	設計製図、住	環境設計演	習を履	修して	いること								
							履修資格						

講義名	住環境設	計演習					担当教員	宮本 雅子/藤木 庸介	
講義コード	1401220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233RED32	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	課題 :集合住宅のリフォーム	課題説明、ベース図面の作図
第2回	課題 :集合住宅のリフォーム	展開図のトレース、エスキースチェック・ワークショップ
第3回	課題 :集合住宅のリフォーム	コンセプトの提出、エスキースチェック・ワークショップ
第4回	課題 :集合住宅のリフォーム	透視図のトレース、図面制作
第5回	課題 :集合住宅のリフォーム	模型制作説明、図面・模型制作
第6回	課題 :集合住宅のリフォーム	図面の提出・模型制作
第7回	課題 :集合住宅のリフォーム	模型制作
第8回	課題 :集合住宅のリフォーム	課題 講評会・課題 出題
第9回	課題 : 地域や環境を考慮した住 空間	地域の調査・ワークショップ
第10回	課題 : 地域や環境を考慮した住 空間	エスキースチェック・ワークショップ
第11回	課題 : 地域や環境を考慮した住 空間	エスキースチェック・ワークショップ
第12回	課題 :地域や環境を考慮した住 空間	プレゼンテーション制作 ・チェック
第13回	課題 : 地域や環境を考慮した住 空間	プレゼンテーション制作 ・チェック
第14回	課題 : 地域や環境を考慮した住 空間	プレゼンテーション制作 ・チェック
第15回	課題 : 地域や環境を考慮した住 空間	課題 講評会
		担当者から一言

講義名	住環境設	計演習					担当教員	佐々木	一泰 / 藤木	庸介 / 山下	麻子	
講義コード	1401230	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習					
ナンバリング番号	333RED32	2										

授業概要

住空間においてより広い視野を養う。第1課題では居住空間と公共性をもつ非居住空間を併用した建築物を計画する。それぞれの空間の特性を理解し、それぞれの設計条件を考慮した空間を考える。第2課題では、より社会性をもつ住空間として、社会性を反映した空間の設計を行う。地域や様々な家族構成、利用者のスケールを観察・理解し、周囲の外構空間や共用空間、個別空間に反映させる第1課題では、フィールドサーベイ・住宅設計・店舗設計・ビジュアルコミュニケーションデザインを、第2課題では、上記に加え社会性のある課題をテーマに据え、さらに実務的な設計手法を学ぶ。それぞれの課題では、構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につけることを

「近年[°],資格関連の受験科目も住宅のみの出題に留まらず,店舗や施設の併用住宅の出題が多い。また,住宅メーカーも住宅から非住宅の建設や設計に幅を拡げつつある。この演習では,より社会的な視点で住空間を中心としながら,それぞれの空間を構想し,より広い視点で地域や社会の中の住環境を構想する。

到達目標

- (1)それぞれの構造の特徴を理解した住空間の設計が出来る。

- (1) にないの何はの行はでは解したに生まりのだけが出来る。 (2) 周辺環境を理解した住空間の提案が出来る。 (3) 平面図,断面図,立面図を作成することができる。 (4) 模型による素材や形,空間の表現ができる。 (5) 構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につける。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	提出課題による評価

授業外学習

課題にあたっての事前調査,エスキースチェック前に各自予め事前作業を行う。また適宜,小課題を出題し,授業時間内に完成させる。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	初めての建築設計ステップ・パイ・ステップ	川北 健雄 他	彰国社	978-4395241217							
2	コンパクト建築設計資料集成「住居」	日本建築学会	丸善	978-4621076880							
3											

前提学力等

基礎設計製図、住環境設計演習を履修していること。

講義名	住環境設	計演習					担当教員	佐々木 -	一泰 / 藤木	庸介/山下	麻子	
講義コード	1401230	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習					
ナンバリング番号	333RED32	2										

, , , N.Y.	フク留号 333KLD322	
	6 41 11	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	課題1-1:公共性をもつ住空間	課題出題,敷地調査
第2回	課題1-2:公共性をもつ住空間	グループディスカッション: 敷地カルテの提出,事例調査,ボリュームスタディ
第3回	課題1-3:公共性をもつ住空間	エスキスチェック : ボリュームスタディ, 敷地模型制作
第4回	課題1-4:公共性をもつ住空間	エスキスチェック : ボリュームスタディ, 個室のデザイン
第5回	課題1-5:公共性をもつ住空間	エスキスチェック : 図面・模型制作
第6回	課題1-6:公共性をもつ住空間	クリティック : 図面・模型制作
第7回	課題1-7:公共性をもつ住空間	クリティック : 図面・模型制作
第8回	課題1-8:公共性をもつ住空間 : 講評	公共性をもつ住空間 : 講評会 公共性をもつ住空間 : 課題出題、説明
第9回	課題2-2:公共性をもつ住空間	グループディスカッション:フィールドサーベイ , 見学 (計測 + 調査)
第10回	課題2-3:公共性をもつ住空間	エスキスチェック、ワークショップ + 事例調査
第11回	課題2-4:公共性をもつ住空間	エスキスチェック、ワークショップ
第12回	課題2-5:公共性をもつ住空間	エスキスチェック、ワークショップ
第13回	課題2-6:公共性をもつ住空間	クリティック ・図面、模型制作
第14回	課題2-7:公共性をもつ住空間	クリティック ・図面、模型制作
第15回	課題2-8:公共性をもつ住空間	公共性をもつ住空間 : 講評会
		担当者から一言

関西で活躍する女性建築家が非常勤講師で参加する演習です。

講義名	住環境論					担当教員	宮本 雅子				
講義コード	1401250	単位数 2	開講期	後期	授業種別 講義						
ナンバリング番号	333RED22	1									
					授業概要						
超高齢社会に突入した今日、建築の分野では高齢者・障害者にとって好ましい住環境について理解することは避けて通れない。そこで、まず高齢社会における住宅の考え方を理解し、高齢者・障害者に対応した住まいの条件について知る。また、住環境の中でも室内の物理的環境である熱、空気、光を取り上げ、人間と物理量との関係から快適な居住環境をつくりだすための条件を導き出すとともに、自然環境を積極的に利用した室内の環境づくりについて講義する。											
(1)空間デザインの	 D中に活か1	 ける知識を得っ	 გ.		到達目標						
(1)空間デザインの中に活かせる知識を得る。 (2)環境条件の評価ができる。											
 種別	割合(%)	評価基準等			成績評価						
定期試験		叶顺圣子子									
AL MAIL REVENA	40										
レポート課題	レポート課題 10										
上記以外	50	到達目標の(境条件の評価	1)空間デザ <i>^</i> 「ができるに	インの中に活 ついては、/	かせる知識を得る 小テスト30%、レ	。、については、 ポート10%で評	. 期末試験40%、レスポ ₽価する。	ンスペーパー20%、(2)環			
レポート1回、小	テスト2回	 、宿題を課す	ことがある	0							
					授業外学習						
					教科書						
No	書第	籍名			著者名		出版社	ISBN/ISSN			
1											
2											
3											
<u> </u>				<u> </u>		l		1			
					参考書						
No	書籍	籍名			著者名		出版社	ISBN/ISSN			
1											
2											
3											
_ 「コンパクト建築	設計資料集	成バリアフリ	ー」「シッ	I クハウスをN	方ぐ最新知識」等	講義の中で適	 i宜紹介。				
	前提学力等										
	履修資格										

講義名	住環境論						担当教員	宮本 雅子	
講義コード	1401250	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333RED22	1							

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	高齢社会における住宅1	高齢者・障害者と住環境									
第2回	高齢社会における住宅2	高齢社会における住宅の考え方									
第3回	高齢社会における住宅3	高齢者・障害者に対応した住まい									
第4回	温熱環境 1	温熱要素と快適条件									
第5回	温熱環境 2	建築材料と熱の伝わり方									
第6回	温熱環境 3	湿気と結露									
第7回	空気環境	小テスト、シックハウス症候群とその対策									
第8回	光環境 1	測光量とその単位、人間の視覚特性									
第9回	光環境 2	快適な光環境のための要件									
第10回	光環境 3	人工照明を利用した照明計画									
第11回	光環境 4	昼光を利用した照明計画									
第12回	環境共生住宅 1	小テスト、環境共生住宅の計画手法									
第13回	環境共生住宅 2	建物への日照利用とその効果									
第14回	環境共生住宅 3	パッシブクーリングの手法とその効果									
第15回	まとめ	全体まとめ									
		担当者から一言									

講義名	消費科学					担当教員	松永藤本	伸洋 昌則	/ 小林 / 安部	重信 正毅	/ 永野	暁	/		
講義コード	1401350	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義								
ナンバリング番号	233FSD26	2													

塪	7111	TOT	-

繊維に関する基礎知識(繊維、	糸.	布地.	染色加丁))および衣料品の企画。	· 設計・	製诰・	・苦情事例と	解析に関す	る基本事項を習得	鼻する.
	/J\\	11375	ᄍᄃ깨ㅗ			ᅑᅜ		カナイノー レー・ナーフ	0 坐中事場に日に	.T > O

到達目標

- (1)繊維製品の企画および使用に係る問題を考察するための基礎的能力を養う。 (2)望ましくは、繊維製品品質管理士 (TES)の資格試験における当該科目の問題に対応できる程度の能力を身につけること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	定期試験と小テスト(「上記以外」参照)の得点を6:4の割合で総合評価し、満点の60%以上の得点を合格点とする。
レポート課題		事例解析レポート課題の得点を定期試験の一部に組み込むこともある。
上記以外	40%	各講義の後で時間内小テストを行う。(1 ~ 2 時限に1回程度)

授業外学習

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

テキストは各講師が作成し、講義前に配布する。

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1	繊維製品の基礎知識シリーズ 第1,2,3部	日本衣料管理協会刊行委員会編	日本衣料管理協会										
2	繊維製品の品質苦情が介	日本衣料管理協会刊行委員会編	日本衣料管理協会										
3	繊維製品の苦情処理技術が介	日本衣料管理協会刊行委員会編	日本衣料管理協会										

繊維製品品質管理士試験問題集(平成26-30年度)

前提学力等

講義名	消費科学	肖費科学								伸洋 昌則	/ 小林 / 安部	重信 正毅	/ 永野	暁	/
講義コード	1401350	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義								
ナンバリング番号	233FSD26	2													

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	繊維・糸・布地に関する基礎知識	繊維に関する基礎知識 天然繊維について
第2回	繊維・糸・布地に関する基礎知識	繊維に関する基礎知識 化学繊維について
第3回	繊維・糸・布地に関する基礎知識	繊維に関する基礎知識 繊維の一般的性質
第4回	繊維・糸・布地に関する基礎知識	糸に関する基礎知識 紡績糸の作り方
第5回	繊維・糸・布地に関する基礎知識	糸に関する基礎知識 加工糸の概要
第6回	繊維・糸・布地に関する基礎知識	布地に関する基礎知識 織物組織と特徴
第7回	繊維・糸・布地に関する基礎知識	布地に関する基礎知識 ニット、不織布について作り方と特徴
第8回	染色加工	染色加工 準備・染色について
第9回	染色加工	染色加工 色合わせ・仕上げ加工について
第10回	色に関する苦情事例解析	色に関する苦情事例解析 事例紹介と解説
第11回	色に関する苦情事例解析	色に関する苦情事例解析 実物を用いた解析
第12回	衣料品の企画・設計	衣料品の企画・設計 アパレルの商品企画
第13回	衣料品の製造	衣料品の製造 縫製工程について
第14回	縫製・安全性・表示等に関する事 例解析	縫製・安全性・表示等に関する事例解析 事例紹介と解説
第15回	経製・安全性・表示等に関する事 例解析	縫製・安全性・表示等に関する事例解析 繊維製品の表示に関する解説
		担当者から一言

講義名	消費科学					担当教員	松永金田	伸洋 哲郎	/ 永野	暁	/ 藤本	昌則	/		
講義コード	1401360	単位数	2	開講期	前期前半	授業種別	講義								
ナンバリング番号	ンバリング番号 333FSD361														
						1- 111 1			_						

授業概要

消費科学 に引き続き、繊維製品の品質管理、要求品質とその評価方法ならびに消費者行動、消費者問題、家庭用繊維製品の流通・消費過程、消費者苦情・環境問題について学習する。さらに消費者苦情事例から苦情原因の究明、改善・再発防止対策を考え、また繊維産業・繊維製品に関する時宜を得た話題について、論文の実践的な書き方を学習する。

到達目標

- (1) 繊維製品、主として衣料品の品質管理の実施、要求品質・性能の内容ならびに流通・消費者問題について理解できるようにする。(2) 繊維製品品質管理士(TES)の資格試験を受験できるレベルに到達するように学習する。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	定期試験と小テスト(「上記以外」参照)の得点を6:4の割合で総合評価し、60点以上を合格とする。
レポート課題		事例問題、論文については小テストに代えてレポート提出で評価するが、得点は小テストに繰り入れる。
上記以外	40%	原則として、各講義の後に時間内小テストを行う。事例問題や論文については、小テストに代えてレポート提出で評価する。

授業外学習

	教科書												
No	No 書籍名 著者名 出版社												
1													
2													
3													

講師が作成したテキストを使用する。テキストは初回の授業で配布する。その他必要に応じてプリントを配布する。

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1	繊維製品の基礎知識	日本衣料管理協会	日本衣料管理協会										
2	繊維製品の品質苦情ガイド	日本衣料管理協会	日本衣料管理協会										
3	繊維製品の苦情処理技術ガイド	日本衣料管理協会	日本衣料管理協会										

必要に応じてプリントを配布する。

前提学力等

講義名	消費科学	消費科学								伸洋 哲郎	/ 永野	暁	/ 藤本	昌則	/
講義コード	1401360	単位数	2	開講期	前期前半	授業種別	講義								
ナンバリング番号	333FSD36	1													

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	品質管理と品質保証	品質管理とは。
第2回	品質管理と品質保証	品質管理の手法
第3回	衣料品などの消費性能と試験方法	耐久性(初期性能の持続性) 丈夫さ、寸法安定性(収縮、伸び、変形)、変退
第4回	衣料品などの消費性能と試験方法	取扱い利便性 洗濯、アイロンがけ、保管
第5回	衣料品などの消費性能と試験方法	快適性(着心地のよさ) 肌触り・風合い、被服圧
第6回	衣料品などの消費性能と試験方法	特殊性能 難燃性、撥水撥油性、紫外線カット性、耐薬品性、制 電性、抗菌・防臭性など
第7回	消費者行動とその調査方法	消費者はどのような動機で買い物をするか 商品の分類
第8回	消費者問題と消費者行政	不当景品類および不当表示防止法 家庭用品品質表示法
第9回	経済変化と衣料の流通・消費	繊維産業(製造・流通)の実態 販売業種、販売業態など
第10回	衣料品の消費と消費者苦情	衣料品の消費と損耗過程 家庭洗濯、商業クリーニングの実態と苦情
第11回	衣料品の消費と消費者苦情	消費者苦情の実態と発生要因 品質表示(取扱い絵表示)とサイズ表示
第12回	衣料品の環境問題	廃棄物処理とリサイクルの推進 環境問題に対する製造、加工技術の取り組み
第13回	損傷・形態変化などに関する苦情 事例	衣料の破れ、収縮、伸び、しわ、ピリングなどの苦情事例につて、原因の究明と再発予防対策を学習 する。
第14回	繊維産業、繊維製品に関する論文 の書き方	時宜を得た問題を提示して,簡潔で要旨一貫した論文の書き方を学習する。
第15回	事例問題・論文の添削、解説	全体結果の講評
		担当者から一言

	講義名	消費者行	動論						担当教員	山田 步	.		
請	講義コード	1401370	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義					
ナン	バリング番号	333MKD28	1										
							授業概要	·					
本講 仕組 では	本講義では、行動経済学と行動デザインの視点から、生活者・消費者を動かすメカニズムについて考えます。「人を動かす」もしくは「人が動く」 仕組みと仕掛けを分析し、リアルな社会の中での人びとの振舞いを理解し、またそれを方向づける方法について検討を加えていきます。授業のなか ではコンペティションに応募するアイデアを企画するといった作業も含まれます。												
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·												
1. 3	 肖費者行動論σ	基本的な	考え 方を理	理解する	 გ.		到達目標						
2. 1	それらの知識を	もちいて、	現実の消	費現	》 。 象、企業 <i>0</i>	マーケティ	ング活動を理	解・分	分析できる。				
	種別	割合(%)	評価基準	等			成績評価						
5		13H (%)	arimae r										
	~_ 743 H2V-9/												
レ	ポート課題												
	上記以外	100	1)販促 2)選択	会議介	≦画コンペ -テクチャ	ティション に関する分	への取り組み 析と発表						
3回以	以上欠席した者		L 是出の者、	最終	プレゼンラ	テーションを	行わなかい者	は評価	面の対象とした	ìl I。			
							授業外学習	9					
							12来ハチョ						
							教科書						
No		書籍	 籍名				著者名			出版	<u></u>		ISBN/ISSN
1	選択と誘導の	認知科学				山田歩			新曜社				978-4-7885-1618-2
2													
3													
									I				
							参考書						
No		書籍	籍名				著者名			出版	社		ISBN/ISSN
1													
2													
3													
	前提学力等												
	履修資格												

講義名	消費者行	動論					担当教員	山田 歩	
講義コード	1401370	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333MKD28	1							

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	コミュニケーション・デザイン	コミュニケーション・デザインとは									
第2回											
第3回	コミュニケーション・デザイン	「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画(発表)									
第4回	コミュニケーション・デザイン	「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画(発表)									
第5回	コミュニケーション・デザイン	「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画(発表)									
第6回	コミュニケーション・デザイン	「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画(発表)									
第7回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン									
第8回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン									
第9回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン									
第10回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン									
第11回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン(発表)									
第12回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン(発表)									
第13回	説得的コミュニケーション	対人コミュニケーションと消費者行動									
第14回	説得的コミュニケーション	対人コミュニケーションと消費者行動									
第15回	説得的コミュニケーション	対人コミュニケーションと消費者行動									
		担当者から一言									

講義名	消費生活	論					担当教員	小牧 美江	
講義コード	1401380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133MKD18	2,134NUT2	214,13	5LAH207					

授業概要

私たちは、生活に必要な商品(物・サービス)を購入し、消費することで生活を営んでいる「消費者」である。消費生活論は、私たちの生活のあらゆる場面を消費者が行う消費の側面から分析し、その成果をもとに、より良い消費行動を通じて経済活動を活性化し、消費者被害・消費者問題の発生を防ぎ、消費者被害救済のシステムを改善するなど、私たちの生活の改善や社会の改善につなげていく学問である。本講義では、消費生活を分析する視点として、「法」と「人権」に着目する。「消費」を「契約」(法律行為)という法の視点から分析し直し、そこに登場する「消費者」「事業者」の権利と責任、関係性、消費者トラブルの実情と原因、消費者法・消費者行政が果たす役割、消費者の人権について考えていく。 消費者が、社会問題、倫理、世界情勢、将来世代の状況等、様々な社会状況や課題を考慮して消費行動を選択することで事業者や政府に対して能動的に働きかけを行うことを通じて、消費者自身の権利を守り、公正な事業活動を促進し、その結果として構築される公正で持続可能な社会を「消費者市民社会」という。本講義では、この消費者市民社会の実現をめざす「消費者市民」とはどのような消費者なのかについても、消費者の権利と責任をキーワードとして考え、自らも「消費者市民」としての行動ができるようになることをめざす。また、「消費者市民を育てる消費者教育」のあり方についても考えていく。 講義形式を中心とするが、適宜、プレゼンテーションなどの演習も取り入れる。

到達目標

- (1)消費生活をさまざまな角度から分析するための基礎となる知識を学び、自分の言葉で説明することができるようになる。
- 、ハルスエルローとしているのでは、コンドックのグラックでは、ロッグロックでは、ロッグロックでは、ロッグロックでは、ロッグロックでは、1000円では、10

- (3)消費者の権利と責任、消費者市民社会について理解し、消費者市民としての行動ができるようになる。 (4)消費者教育が様々な年齢層・場面等に応じて行われることを学び、自分が消費者教育に関わることができる場面と方法を見つけることができるようになる。
- うになる。 (5)消費生活をさまざまな側面から分析することを学び、自分が専門に研究を深めたいと考えている分野の学問と消費生活との接点を見つけることができるようになる。

	成績評価											
種別	割合(%)	評価基準等										
定期試験	0											
レポート課題	50	到達目標(1)(4)(5)については、レポート試験を課す。50点満点とし、課題を理解し説明できているか(25点)、自分の学習成果を盛り込み見解を述べているか(15点)、レポート全体が文章として完成しているか(10点)の3基準で採点する。レポート作成方法については、授業中に指導する。										
上記以外	50	到達目標(2)(3)については、授業中に提示する小レポートの成果(20点満点)と、課題レポートの発表(プレゼンテーション)の成果と発表方法(30点満点)を採点する。レポート作成・発表方法については、授業中に指導する。										

全15回のうち5回以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

授業外においても、消費者庁、国民生活センター、適格消費者団体等のウェブサイトで公開されている消費者被害情報など、消費者に関する情報や 報道に注目し、自身の消費者としての日常生活における行動を点検する姿勢を身に付けてほしい。

	教科書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1	新しい消費者教育 - これからの消費生活を考える	神山久美・中村年春・細川幸一編 著/日本消費者教育学会関東支部	慶應義塾大学出版会	9784766423075									
2													
3													

授業中に配付するレジュメ・資料と共に用いる。

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1	18歳から考える消費者と法・第2版	坂東俊矢・細川幸一	法律文化社	9784589036124									
2	ジェンダーで学ぶ生活経済論・第2版	伊藤純・斎藤悦子	ミネルヴァ書房	9784623073542									
3	消費者政策 - 消費生活論・第5版	鈴木深雪	尚学社	9784860310806									

この他、授業中に参考図書を適宜紹介する。

前提学力等

講義名	消費生活	論					担当教員	小牧 美江	
講義コード	1401380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133MKD18	2,134NUT2	214,13	35LAH207					

<i>ナン</i> ハリ.	フク留号 155㎞101214,1551	LAILZO7
		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	現代の消費生活(ガイダンス)	講義の全体像と各講義テーマの位置付け、到達目標を示すとともに、消費者問題、消費者運動の歴史と現状を概観し、「消費生活」の研究・分析のための視点を示す。
第2回	消費生活と法 「契約」から「 消費」を考える	「消費」という現象を「契約」(法律行為)という法の視点から分析し直す。契約の原則から、消費者・事業者の権利と責任、関係性について考える。
第3回	消費生活と子ども・未成年者	子ども消費者の特徴と消費者トラブルの実情、未成年者取消、成年年齢引下げの法改正に伴う課題、 子どもの権利条約から見た子ども消費者の権利について考える。
第4回	消費生活と高齢者・障がいのある 消費者	高齢者・障がいのある消費者の特徴と消費者トラブルの実情、成年後見制度について、人権の視点から考える。
第5回	消費生活とジェンダー	ジェンダーバイアスや性差別が存在することで、消費者・事業者の意思決定過程にどのような影響が及ぶかなど、消費生活における諸課題をジェンダーの視点から見直し、考える。
第6回	契約トラブル 消費者法・消費 者行政の役割	消費生活における民法及び消費者に関する法律の役割、消費者行政の必要性と役割、消費者政策のあり方について考える。
第7回	意思決定過程と家計管理 - 衣生 活・食生活の諸課題	衣生活・食生活の諸課題を例として、消費行動における意思決定過程と家計管理、消費者信用について考える。
第8回	住生活の法律と生活設計	住宅の契約(売買、賃貸借)に関する法律、住生活の諸課題と生活設計について考える。
第9回	消費生活と情報・安全	事業者による広告・表示など、安全に関する情報を含む情報発信のあり方、消費者による消費生活情報の収集の課題、批判的思考について考える。
第10回	消費生活と環境・倫理	持続可能な消費と資源・エネルギー・環境保護に関する諸課題、エシカル消費、SDGs、持続可能な開発のための教育(ESD)について考える。
第11回	消費者市民社会と消費者教育	消費者教育体系イメージマップを参考に、「消費者市民社会」の担い手となる「消費者市民」を育て る消費者教育について考える。
第12回	学校教育と消費者教育	学習指導要領の消費者教育に関する内容を確認し、教科教育(家庭科、社会科、公民科)における消費者教育、金融経済教育の課題について考える。
第13回	「消費者市民」を実践する(課題 発表)	消費生活に関する課題発表を通じて、「消費者市民」として、主張し、行動する方法を考え、実践する。
第14回	「消費者市民」を実践する(相互 評価)	課題発表による情報を、「消費者市民」として、批判的に検討する方法を考え、実践する。
第15回	消費者市民社会の実現のために(総括)	消費生活論の学習内容全体を振り返り、消費者市民社会実現のために、自分は「消費者」として何を すべきか、自分の研究課題の中で何ができるかについて考える。
	'	担当者から一言

担当者から一言

担当者は、司法書士でもあります。法律専門家にとっても、消費生活論は非常に興味深い学問です。その興味深さを皆さんと共有できればと考えています。

講義名	心理学基	心理学基礎							担当教員 後藤 崇志	
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	133LVD10	5,134NUT1	06,13	5PSY201						
						授業概要	更			
現代心理学の基本	的なテーマ	たついて なアプロ・	解説す ーチに	る。人間より人間	の行動の仕組を理解しよう	狙みや行動の うとするため)予測、)の基礎	制御のメカニ	ズム、 え方を	人間発達の原理や人格形成の理論などのテ 身に着けることを目的とする。
	0 .0-174.		, ,			, _ , _ , _ ,		-3 5-7-Haw 1 3	, ,	
						到達目村				
(1) 人の思考や行 (2) 人の心の仕組	動、社会生 みを明らか	活などを	支える 会に活	心の仕組ん	みの基礎に1 する科学的 <i>t</i>	ついて理解を なアプローチ	深める。 -につい	。 て理解を深め	る。	
	,, 5 %	1000	۵,0,	.,,	, 9111111	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,000	C-111 C/100	0,	
						成績評価	T			
種別	割合(%)	評価基準	等							
定期試験	60%	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理 60%								方法への理解によって評価する。
レポート課題										
	t	1=31/2 - 1		3.1. 415.11						

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·											
種別	割合(%)	評価基準等										
定期試験	60%	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。										
レポート課題												
上記以外	40%	授業の内外で提出を求める課題によって、受講者なりの理解や問題設定ができているかを評価する。										

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれることがあるので、積極的な参加を求める。

授業外学習

授業の前には、教科書の該当章を読み、自分なりの理解と問題設定を行う。 授業の後には、参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	はじめての心理学概論	古見文一・小山内秀和・樋口洋子 ・津田裕之(編)	ナカニシヤ出版	978-4-7795-1361-9								
2												
3												

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

前提学力等

講義名	心理学基	礎					担当教員	後藤 崇志	
講義コード	1401540	1401540 単位数 2 開講期 前期 授業種別 講義							
ナンバリング番号	133LVD10	5,134NUT1	106,13	5PSY201					

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	心理学とは	心理学の歴史や、領域・研究手法の多様性について学ぶ。 								
第2回	感覚・知覚	人が外界からの刺激をどのように受け取っているかを学ぶ。								
第3回	記憶・思考	記憶・思考に関わる諸現象と、それらの現象を支える心の仕組みについて学ぶ。								
第4回	学習	生物の行動が経験を通じて変化する仕組みの基礎について学ぶ。								
第5回	動機づけ	行動を動機づける心の仕組みについて学ぶ。								
第6回	言語	人の言語活動を支える心の仕組みについて学ぶ。								
第7回	感情	感情が喚起される仕組みや、機能について学ぶ。								
第8回	人格(パーソナリティ)	人の個人差を記述し、理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。								
第9回	神経・生理	人の心の仕組みを支える神経活動・生理反応の仕組みについて学ぶ。								
第10回	集団・社会	集団・社会生活を行う中で生じる現象を理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。								
第11回	発達	発達に伴って変化していく人の心の特徴について学ぶ								
第12回	進化	進化の視点から、ヒトの心の理解に迫るアプローチについて学ぶ。								
第13回	心理臨床	心の病理を理解し、治療に役立てようとする心理学の試みについて学ぶ。								
第14回	教育	教育の現場を理解し、改善に活かそうとする心理学の試みについて学ぶ。								
第15回	まとめ	講義で扱った様々な概念の関係性について俯瞰しつつ、発展的な学習に向けた紹介を行う。								
		担当者から一言								

	講義名	生活経営	論						担当教員	山田 歩	
講	義コード	1401560	1401560 単位数 2 開講期 後期 授業種別 講								
ナンノ	バリング番号	333MKD28	2,234NUT3	371,33	5LAH308						
	授業概要										
この ること を 生み	この授業では、私たちを取りまく生活環境を学び、現在そして将来、私たちの生活をよりよくマネジメントする力とそれらを改善する力を身につけることを目標とします。身近な生活課題をとりあげると同時に、ソーシャル・デザインの視点から展開されている様ざまなコミュニケーション施策をみていくことで、現在と将来の自分の生活を見つめ直し、それらをよりよいものに設計することに役立ててもらいたいと考えます。授業では受講生みずからも課題を発見し、それを解決するアイデアを考えてもらいます。										
	到達目標										
1.私7	 たちを取りま	 く生活環境	を理解し	ている	か		到连日的	宗			
2.社会	1.私たちを取りまく生活環境を理解しているか 2.社会や生活者が抱える課題を発見し、それらを解決する力を身につけているjか										
							成績評価	西			
	種別	割合(%)	評価基準	等							
ភ	它期試験										
社会や生活者が抱える問題を発見する レポート課題 100						題を発見す	る力、また、	それら	を解決する力)について評価する	5.
-	上記以外										
							授業外学	習			
No			 籍名			ı	教科書 著者名			 出版社	ISBN/ISSN
		百 *	19 TO				1917			ш ліх т.	100N/ 100N
2											
3											
							参考書				
No		書籍	 籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN
1	アイデアは地 ーシャルデサ	!球を救う。 "イン	希望をつ	くるイ	±事 ソ	ソーシャ川 会	デザイン会	議実行委	養員 宣伝会詞	Š	
2	Communication Shift 並河進 羽鳥書店										
3											
											<u>'</u>
							前提学力	等			
							履修資格	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

講義名	生活経営	論					担当教員	山田 歩	
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333MKD28	2,234NUT3	371,33	5LAH308					

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	オリエンテーション	講義全体のオリエンを行います。								
第2回	環境	地球環境 消費社会								
第3回	環境	地球環境 消費社会								
第4回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係								
第5回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係								
第6回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係								
第7回	健康	健康 悩み								
第8回	健康	健康 悩み								
第9回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策								
第10回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策								
第11回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
第12回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
第13回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
第14回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
第15回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
		担当者から一言								

講義名	生活造形	基礎演習				担当教員	南 政宏/富原	仁美		
講義コード	1401580	単位数	2 開講期	前期	授業種別 演習					
ナンバリング番号	133LVD20	2								
授業概要										
あらゆるデザイン活動の基礎となる「観察力」「表現力」「想像力」を、色彩・立体構成などの制作を通して学ぶ。 思考から制作に至るまでのプロセスや柔軟な発想と表現力を身につける。 平面色彩構成では、平面で得た技術を立体へ展開し、空間を創ることを学ぶ。 石膏表現では、平ので得た技術を立体へ展開し、空間を創ることを学ぶ。 石膏表現では、テーマを立体で表現し、削ることから生みだす形態操作、造形手法の基本技法を習得させる。 最終課題では、それまでに学んだことの集大成として、アイデアを発想し、複合的に思考し、形や色へ落とし込む作業をする。 確かな基礎造形力を身につけることで、その後の専門性を最大限に高めてゆくことを目指す。 内容は変更になる可能性がある。										
	到達目標									
今後、上位のデザイン演習に対応できるよう基礎力を身につける。(1)色彩感覚、(2)発想力、(3)造形力・構成力(4)表現力を習得する。										
1¥ Dil	회수(%)	評価基準等			成績評価					
種別	割合(%)	評価基準等	•							
定期試験										
レポート課題	レポート課題									
上記以外	100	毎回の講評	時の採点の合	う う う う う う う う う う う う う う う う う う う	価。					
3分の1以上欠席	した者は評	種対象にし	ない。未提出	がある場合Ⅰ	は不認定。					
					授業外学習					
演習課題の多くは	授業時間外	での作業と	なる。計画的	は時間の使り	い方が必要である。					
					教科書					
No	書籍	籍名			著者名		出版社		ISBN/ISSN	
1 なし										
2										
3										
		u +* >	フレ :: マピ	 	+ hE .0.>	+ 11 #	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		7 7 7 12 12 12 1	
ル ン フ(人マボリ	ノ、アクリ	ルルツンユ	、スケッナフ 	ック、クロ	ッキー帳、ペンシル 	・ハルター、30	長ハッター、刀ッ	ツーマット	・, ステのリ、彫刻	
No		 籍名			参考書 著者名		 出版社		ISBN/ISSN	
	≡	ч		 	ъпн		山水江		10014/10014	
1										
2										
3										
給の目の使いさめ	+ w.A	の使いさに	関する甘味的	か出力がち	前提学力等					
ベル共の使い力や	絵の具の使い方や、カッターの使い方に関する基礎的な能力がある方が望ましい。 									
	履修資格									

講義名	生活造形	基礎演習					担当教員	南 政宏/富原	仁美	
講義コード	1401580	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	133LVD20	2								

7 2 11 9 2	у д д 1002.15262	位来守□
	タイトル	概要
	ガイダンス シンボルマーク出題	
 第2回	シンボルマーク講評	シンボルマークをデザインし,表現する。
 第3回	ワイヤーによるスケッチ講評	ワイヤーを用いてスケッチをする。
 第4回	立体構成	立体を構成する。
第5回	平面色彩構成 色の帯講評	色彩構成をする。
第6回	ポスターのデザイン エスキース	与えられたテーマについて調査し,ポスターをデザインする。
————— 第7回	ポスターのデザイン講評	デザインしたポスターを講評する。
第8回	スチレンボードによる立体構成	スチレンボードの切り方を学ぶ スチレンボードを用いて立体を構成する。
第9回	粘土によるテーマの表現	粘土を使って与えられたテーマを表現する。
第10回	石膏によるテーマの表現 講評	石膏を使って与えられたテーマを表現したものを講評する。
第11回	色彩構成と立体構成の複合課題 スタディー	色彩構成と立体構成の複合課題
第12回	色彩構成と立体構成の複合課題 スケッチ	色彩構成と立体構成の複合課題
第13回	色彩構成と立体構成の複合課題 エスキース	色彩構成と立体構成の複合課題
第14回	色彩構成と立体構成の複合課題 エスキース	色彩構成と立体構成の複合課題
第15回	色彩構成と立体構成の複合課題 講評	色彩構成と立体構成の複合課題で完成作品を講評する。
		担当者から一言
		担当日から、日

進行状況や休日の関係で授業内容は変更になる場合もある。

講義名	生活素材	論						担当教員	三宅 肇	
講義コード	1401620	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	233FSD26	33FSD261								
						授業概要	更			
│。デザインしたり │に多く用いられる	授業概要 私達消費者の立場で衣服を着用する場合、1.デザイン 2.色柄 3.着心地 が悪くなければ気に入る。しかし、それだけでよいのだろうか。デザインしたり、制作したりする立場では、素材をよく知り、それを充分に生かす使い方のできる能力が要求される。そこで、本講義では、生活に多く用いられる素材である繊維に焦点をあて、繊維の種類、構造、性能の概要を解説する。さらに、素材への付加価値の付与として、仕上げ加工、改質加工等な原理と実際について述べる。ついで、高性能素材としての繊維の最近の進歩について触れ、新しい技術開発を紹介し、素材について									

到達目標

- (1)商品を開発する上で、「デザイン」と「素材(材料)」の両立の必要性、重要性を知ることができる。(2)衣服などの繊維製品の素材がどのような意味を持って使われているのかを知ることができる。(3)繊維原料から衣服になるまでの工程を理解することができる。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	80	講義内容から特に重要な項目を出題。採点の80/100とレポート点を合算して成績評価を行う。									
レポート課題	20	出題テーマについて、講義で学んだ知見が生かされているかなどの観点から採点を行い、定期試験点数と合算して成績評価を行う。									
上記以外											

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

授業外学習

身の回りにある素材を題材にした講義です。予習や復習を積極的に行って頂く必要はありませんが、講義で習ったことを日常生活の中で意識することが最大の復習になります。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

前提学力等

講義名	生活素材	論						担当教員	三宅 肇
講義コード	1401620	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233FSD26	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	序説:生活素材とは	生活素材とは何かを説明し、身の回りの材料と素材の分類を学ぶ
第2回	繊維やプラスチックについて	代表的な生活素材である繊維やブラスチックの基本について学ぶ
第3回	繊維の基礎 (衣服の原料や繊維の 形状)	繊維とは何かについて学ぶ
第4回	繊維各論 植物繊維 (種子毛繊維、靭皮繊維)	繊維の種類や特徴について学ぶ
第5回	繊維各論 動物繊維 (繭繊維 、獣毛繊維)	繊維の種類や特徴について学ぶ
第6回	繊維各論 化学繊維 (分類、 特徴、製造方法)	繊維の種類や特徴について学ぶ
第7回	中間まとめ	
第8回	糸の基礎(糸の種類や表し方)	糸の種類や特徴作り方について学ぶ
第9回	布の基礎(織物、編物、不織布に ついて)	布の種類や特徴、作り方について学ぶ
第10回	織物の基礎 (織物の種類)	布の一種である織物の種類について学ぶ
第11回	織物の基礎 (織物の特徴)	布の一種である織物の特徴について学ぶ
第12回	染色の基礎	染色の種類や方法、特徴について学ぶ
第13回	素材への付加価値の付与 (仕上げ加工、改質加工)	商品としての付加価値の必要性や種類などについて学ぶ
第14回	衣服の快適性について	衣服の快適性に影響する項目について学ぶ
第15回	全体まとめ	
		切当者から一章

どのような分野においても「良い商品」を産み出すためには、「デザイン」と「素材」の両輪が必要です。身の回りのモノを科学的に見ることができる力を身につけて頂きたいと思っています。

	講義名	生活デザー	イン学外源	官智				担当教	員	学科教員/ 囲矢 1月71 宮本 雅子/森下 あ 佐々木 一泰/藤木	`/ 印角 - C.古志 / ;おい / 南 - 政宏 / - 唐介 / 様田 - 尚訓	, / É /	
謹	義コード	1401630	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別 演習			11 × 11 × 11 × 11 × 11 × 11 × 11 × 11	<u> </u>	<u> </u>	
ナンル	バリング番号	233LVD20	7-C										
							授業概要						
地域 解決	や社会におい 方法を検討し、	て、よりよ 、レポート	:い生活環: ·の作成、:	境を実 具体的	現するた な提案や	めに何が問題 発表、制作等	夏なのかを明らか 手を行う。授業は	にする。問題 具体的な課題	題に	取り組む意識や立場、 テーマに即し、フィー	有効な手法を議論 ルドワークを中心	iし、その として行	
われ	ర ం												
	到達目標												
地域	到達目標 地域、社会に関わる問題について専門的視点から分析、考察し、解決・提案できる総合的な生活デザイン能力の習得をめざす。												
	でぬ、社会に国力を可認にファイ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・												
	種別	割合(%)	評価基準	等			成績評価						
<u> </u>	上 定期試験	13 H (*)	HT IM 32 T	••									
	C 703 H20-97												
レ	レポート課題												
	上記以外 100 100 100 100 100 100 100 100 100 10												
							授業外学習						
							教科書				_		
No		書籍	籍名				著者名			出版社	ISBN/I	ISSN	
1													
2													
3													
						<u> </u>							
							参考書						
No		書籍	籍名				著者名			出版社	ISBN/I	ISSN	
1													
2													
3													
	3												
反来	投業時間内に適宜部が 前提学力等												
							別挺子刀守						
							履修資格						
	履修資格												

講義名	生活デザ	イン学外派	寅習					担当教員	学科教員/面矢 慎介/印南 比呂志/ 宮本 雅子/森下 あおい/南 政宏/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/横田 尚美/
講義コード	1401630	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別			
ナンバリング番号	233LVD20	7-C							

	授業計画											
回数	タイトル	概要										
第1回	オリエンテーション	演習内容の説明										
第2回	2回目以降 フィールドワーク等	テーマによっては休暇期間中にフィールドワーク等の演習を実施する場合がある。										
		担当者から一言										

	講義名	木匠塾(生活デザイ	イン)					担当教員	 佐々木 一泰		
 請	 議表コード	1401635	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別	演習				
ナン	バリング番号	233RED22			•	•		•				
							授業概要					
日間で一す方	は国土の約7割を対している。は国土の制力を対して、は、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	リを森林が」 ・桁をそ・ ・桁をといる ・桁が ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	占めている 木-山-木 景景など 音景で 登録 また また また また また また また また また また また また また	3条林にび、程等の間導	国であり ついで 大 は 無 動 を と し に を と に を と に を と に を と に を と に を と に を と に と に と に と に と に と に と に と に と に と と に と と に と と に と と に と と に と と に と に と に と に と に と と に と と に と に と と に に と に と に と に と に と に に と に に に に に に に に に に に に に	, 日本には木 い視野に立 学生主体で 学生も地域が しているが , ができる . :	を生活の中ちり、大きの中では、大きの東京の中では、大きのでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ま	に活かし にぶこと けること ちを見って は , 他	ノコントロー/ を目指す.こ によって, 川 ま川市), 川 ま, その他の明 大学の学生の	レする技術がある。しかしま こでは木材等の生物材料を 材の特性,利用方法,加工 上村(奈良県),多賀町(寺期でも活動を行う。船で 参加もあり,大学を超えた	現在日本の森林は大きな 中心として用いること 技術,木組み,ディテ 滋賀県)の中から選択 のための設計は,地元の 活動も期待できる	
(4)	到達目標 (1) 本浩の知識・技術・歴史背景を理解し、其本的が設計技術を習得する											
(2) #	(1)木造の知識・技術・歴史背景を理解し,基本的な設計技術を習得する. (2)地域に必要とされる構築物の設計を提案できる. (3)木材加工のための工具を巧みに使用できる.											
	毛口	宝(合/)()	□☆海甘油	E 445			成績評(西				
<u> </u>	種別	割合(%)	評価基準	- उं								
	定期試験 0											
レ	ポート課題	0										
	上記以外	100				での取り組 , (3)につい			ンス)によっ	て評価し,到達目標で示す	「(1)については	
							授業外学	'習				
N.		= :	άτι <i>Α</i> -7				教科書	<u>t</u>		11.45.51	1000/1000	
No		香	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1												
2												
3												
							,					
No		書	 籍名				参考書 			 出版社	ISBN/ISSN	
		百	↑레 니				440			LLI IVX TL	13017 13317	
1												
2												
3	3											
	前提学力等											
							130382 3 7 3	, .,				
	履修資格 											
	複修貨格											

講義名	木匠塾(生活デザイ	イン)				担当教員	佐々木 一泰	
講義コード	1401635	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233RED22								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	活動拠点を,加子母,川上村,多賀の各木匠塾の中から選択し,決定する.
第2回	第2~10回	現地視察・制作物の内容検討 . 基本設計 . 現地関係者へのプレゼン .
第11回	第11~25回	現場での制作,制作物の完成. 現地関係者へのプレゼン.
第25回	第25~30回	報告書の作成、全体報告会による発表、
// >	イン学科学作用	担当者から一言

生活デザイン学科学生用. 各活動場所には定員があり抽選の場合もあるので注意.

1	講義名	生活デザイ	イン論						担当教員	学科教員 // 宮本 雅子	/ 面矢 慎: 7 / 森下 ; -泰 / 藤木	介 / 印南 あおい / 連介 /	比呂志 / 南 政宏 / 横田 尚美 /
講	義コード	1401640	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		五文八	来,脉水	/用刀 /	
ナンノ	バリング番号	233LVD20	1										
							授業概要	Ę.					
生活・ママクンと	デザイン学科 を設け、生活 この分野から	では道具・ の中にある は見えにく	住居・服 さまざま い横断的	- 飾という な視点	iう3分野を iインや知 を養う。	E中心に学ん 恵、技術を また各分野	,でいる。こ 恰い出す。ま ごとにゲスト	の授業で た、こ ・を招聘	では生活におけれからの生活 れからの生活 して講義を行	けるデザイン デザインと う。	ンの役割に 各分野のあ	ついて、 らり方に [・]	各分野それぞれにう ついて考察を行い、
	到達目標 (1) 仕近にわけるごぜくいの公割という知となって知識を深め、その心里、価値を理解できるとうにする												
(1)	(1)生活におけるデザインの役割という視点での知識を深め、その背景、価値を理解できるようにする。												
(2 ,	(2)生活に関わるデザインの各分野について基礎的な知識を身につける。												
	12 D.I	mil A (v)	±= /= +>	- ^-			成績評価	T					
	種別	割合(%)	評価基準	等									
淀	E期試験												
レカ	トポート課題 100 各回レスポンスペーパーにより評価する。												
-	上記以外												
							ᄪᄱᅜᄓᅭ	22					
事前に	 こ各講義テー [*]	マで発表さ	れる事前	情報を	・収集し、	 講義後生活 [·]	授業外学 デザインのあ	• •	ついての考察	<u></u> を行う。			
No.		⇒ ¢	TO 67			T	教科書			111453	L		LODN/LOON
No			籍名				著者名			出版社	L		ISBN/ISSN
1													
2													
3													
							4 7 7						
No		書筆	 籍名			 	参考書 著者名			出版社	+	T	ISBN/ISSN
1		— □ ▼	7 2 14				апн			ш/іхТ.	<u>-</u>		10311/10011
2												\dashv	
3													
٦	<u> </u>												
	前提学力等												
なし													
							履修資格	各					
	楼 炒貝竹												

講義名	生活デザ	イン論						担当教員	学科教員/面矢 慎介/印南 比呂志/ 宮本 雅子/森下 あおい/南 政宏/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/横田 尚美/
講義コード	1401640	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233LVD20	1							

回数	授業計画 回数 タイトル 概要													
		概要												
第1回	授業概要・ガイダンス	生活デザイン論の概要												
第2回	マーケティング-1	マーケティング分野について												
第3回	道具-1	道具分野について 1												
第4回	道具-2	道具分野について 2												
第5回	道具-3	道具分野について3												
第6回	道具-4	道具分野について4												
第7回	学外見学	住まいの設備を見学												
第8回	住居-1	住居分野について 1												
第9回	住居-2	住居分野について 2												
第10回	住居-3	住居分野について3												
第11回	住居-4	住居分野について4												
第12回	服飾-1	服飾分野について 1												
第13回	服飾-2	服飾分野について 2												
第14回	服飾-3	服飾分野について3												
第15回	まとめ	生活デザイン論まとめ												
		担当者から一言												

	講義名	生活デザー	イン論演習	ł					担当教員	字科教員/頃 宮本 雅子/ 佐ク木 一巻	『矢 慎介/印 ′森下 あおい <u>₹/藤木 庸介</u>	用 CC 古志 /南 政宏 /横田 尚:	/ / 美 /
講	義コード	1401690	単位数	1	開講期	前期	授業種別	寅習		<u> </u>		<u> </u>	,
ナン	バリング番号	333LVD30	2										
							授業概要						
学生 など	各自の卒業制 を修得し、必	作・卒業論 要な文献や	文に向ける 資料を集め	て、生 か、ま	活デザイ た必要な	ンのそれぞれ 現地調査な	れの分野に関し どを行うなど、	て既存	存の成果を概 の課題や問題	観するととも に応じて演習	に、研究方法、 を行う。	制作方法、	調査方法
	五\\												
交 業	到達目標 卒業研究で取り組むべき課題の意義について述べることができる												
+ *	A業研究で取り組むべき課題の意義について述べることができる												
							成績評価						
	種別	割合(%)	評価基準	等									
7	定期試験												
レ	レポート課題												
	上記以外 調査・研究中間報告、課題発表、レポート・制作物等により総合的に判断する												
							授業外学習						
No			 籍名				数科書 著者名			 出版社		ISBN/	LISSN
1		<u>=</u>								шихт		105.17	10011
2													
3													
						•			•		'		
							参考書						
No		書籍	籍名				著者名			出版社		ISBN/	ISSN
1													
2													
3													
	<u> </u>												
以未	前提学力等												
							刊灰子刀守						
							履修咨 校						
	履修資格												

講義名	生活デザ	イン論演習	N II				担当教員	学科教員/面矢 慎介/印南 比呂志/ 宮本 雅子/森下 あおい/南 政宏/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/横田 尚美/	
講義コード	1401690	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	333LVD30	2							

授業計画								
回数	タイトル	概要						
第1回	ガイダンス 1	自分の進むべき分野について考える期間とする。						
第2回	ガイダンス 2	自分の進むべき分野について考える期間とする。						
第3回	ガイダンス 3	自分の進むべき分野について考える期間とする。						
第4回	ゼミ配属決定	ガイダンスを通して考えた自分の進みたい分野についての調書からゼミ配属を行う。 1 ゼミに6人以上の希望者がある場合は調整を行う。						
第5回	5 回目以降 ゼミ活動	担当教員の指導の下に、学生各自の課題と問題ごとに計画を立て、それに従って演習を行う。						
		担当者から一言						

	講義名	生活デザ	イン論演習	星				担当教員	学科教員/面矢 慎介 宮本 雅子/森下 ある 佐々木 一泰/藤木	/ 印南 比呂志 / おい / 南 政宏 / 事介 / 横田 尚美 /	
請	義コード	1401701	単位数	3	開講期	後期	授業種別 演習			#//	
ナン	バリング番号	333LVD30	3								
							授業概要				
学生 など	学生各自の卒業制作・卒業論文に向けて、生活デザインのそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、研究方法、制作方法、調査方法 などを修得し、必要な文献や資料を集め、また必要な現地調査などを行うなど、各自の課題や問題に応じて演習を行う。										
(1)즉	 卒業研究で取り	組む課題(領域につい	いてのタ	田識を深め	 うる。	到達目標				
(2)割	卒業研究で取り 課題を達成する	ための研究	究方法、制	训作方法	去、調査方	法などを修	移得する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
	成績評価										
	種別	割合(%)	評価基準	寺							
,	定期試験										
レ	ポート課題										
			調査・研	究中間	報告. 課	題発表。レ	ポート. 制作物. 晶		 こり総合的に判断する		
	上記以外	100	W3 E W1	7011-	TIKEL WI	AE70000 P	1				
			•								
							授業外学習				
							,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
							教科書				
No		書籍	籍名				著者名		出版社	ISBN/ISSN	
1											
2											
3										_	
								<u> </u>			
							参考書				
No		書籍	語名				<u> </u>		出版社	ISBN/ISSN	
1											
2										_	
										_	
3	-+										
授業	授業時間内に適宜紹介する										
	前提学力等										
	厚 Ισ Σα + to										
	履修資格										

講義名	生活デザ	イン論演習	<u> </u>				担当教員	学科教員/面矢 慎介/印南 比呂志/ 宮本 雅子/森下 あおい/南 政宏/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/横田 尚美/	
講義コード	1401701	単位数	3	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	333LVD30	3							

授業計画								
回数	タイトル	概要						
第1回	ゼミ活動	担当教員の指導の下に、学生各自の課題と問題ごとに計画を立て、それに従って演習を行う						
第2回	生活デザイン論演習成果発表会	生活デザイン学科教員の前で演習の成果を発表する						
+D以来から								
	担当者から一言							

	講義名	卒業研究	業研究・制作/論文 (生活デザイン)							学科教員/面矢 慎介/印南 比呂志/ 宮本 雅子/森下 あおい/南 政宏/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/横田 尚美/		
講	義コード	1401802	単位数	4	開講期	前期研究	授業種別	卒業		工、小 、	/ 製出 间头/	
ナンル	バリング番号											
							授業概要					
研: 担	授業概要 卒業制作と卒業論文の課題については、生活デザイン専門分野の中から学生自身が担当教員の指導の下に決定し、それぞれの課題に従って制作あるいは論文の作成を行う。卒業制作を行う学生は、制作の他にその内容を説明し、補強する研究報告を同時に提出しなければならない。研究は以下のような手順で進める。担当教員の指導により、卒業研究のテーマをかためて研究をすすめる。研究発表会で、卒業研究の中間発表を行う。											
	到達目標											
各自:	各自がそれぞれ課題としたテーマについて自信を持って発表できる											
	種別	割合(%)	評価基準	·			成績評価	<u> </u>				
		刮口(%)	計画基件	- ਚ								
7	定期試験											
レ	レポート課題											
	上記以外	100	研究の進	捗状況	兄、研究中	間発表の結果	早によって台	含否を判	定する			
							授業外学	習				
							教科書					
No		書籍	語名				著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1												
2												
3												
											l	
							* *					
No		建 律	 籍名				参考書 著者名			 出版社	ISBN/ISSN	
		======================================	# TI				19节			цлх↑⊥	TODIN/ TOON	
1												
2												
3												
指導	教員が適宜指	示する										
							前提学力	等				
							履修資格	各				

講義名	卒業研究	・制作/言	倫文	(生活デヤ	げイン)		担当教員	学科教員/面矢 慎介/印南 比呂志/ 宮本 雅子/森下 あおい/南 政宏/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/横田 尚美/	
講義コード	1401802	単位数	4	開講期	前期研究	授業種別			
ナンバリング番号									

		授業計画											
回数	タイトル	概要											
第1回	卒業研究のテーマの決定	できるだけ早い時期に、研究テーマを決定する。											
第2回	卒業研究を進める	学生は指導教員の指導の下に、自主的に作業することが要請され、各自計画をたてて行う。必要に応じて順次に制作や研究の経過を報告し、指導を受ける。											
第3回	研究中間発表	生活デザイン学科教員全員の前で発表し、審査を受ける											
		ロンタから一言											
		担当者から一言											

	講義名	卒業研究	・制作/言	倫文	(生活デサ	ザイン)			担当教員	学科教員/面矢 慎介/印 宮本 雅子/森下 あおり 佐々木 一泰/藤木 庸介	1/南 政宏/ ┃
講	 義コード	1401805	単位数	4	開講期	後期研究	授業種別	卒業		在文外 家,脉外 庙力	/ 快山 问头/
ナンル	バリング番号										
							授業概要	更			
担設	学業制作と卒業論文の課題については、生活デザイン専門分野の中から学生自身が担当教員の指導の下に決定し、それぞれの課題に従って制作ある は論文の作成を行う。卒業制作を行う学生は、制作の他にその内容を説明し、補強する研究報告を同時に提出しなければならない。最終的には卒 経研究の成果を発表する展示および口頭発表会を開催し、成果をまとめた卒業研究報告集を刊行する。 研究は以下のような手順で進める。 担当教員の指導により、また前期研究発表会での学科教員の助言に沿って、研究をすすめる。 設定された期限までに、規定の内容の論文(作品)を提出する。 展示・口頭発表会、卒業研究報告集で成果を発表する。										
							70±0+				
各自	到達目標 各自がそれぞれ課題としたテーマについて自信を持って発表できる										
							成績評価	T			
	種別	割合(%)	評価基準	等							
7	定期試験										
レ	レポート課題										
	上記以外 100 途中の進捗状況、最終審査の結果によって合否を判定する										
							授業外学	'習			
							教科書				
No		書籍	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN
1											
2											
3											
							参考書				
No		書籍	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN
1											
2	2										
3	3										
指導	指導教員が適宜指示する										
	前提学力等										
	履修資格										

講義名	卒業研究	・制作/言	倫文	(生活デヤ	 ブイン)		担当教員	学科教員/面矢 慎介/印南 比呂志/ 宮本 雅子/森下 あおい/南 政宏/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/横田 尚美/	
講義コード	1401805	単位数	4	開講期	後期研究	授業種別			
ナンバリング番号									

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	卒業研究を進める	指導教員の指導の下に、また前期研究発表会での学科教員の助言に沿って、自主的に研究を進める									
第2回	卒業研究の成果(作品・論文)を 提出する	設定された期日までに卒業研究の成果(作品・論文)を提出する									
第3回	卒業研究発表会	生活デザイン学科教員全員の前で発表し、審査を受ける									
第4回	卒業研究報告集	卒業研究報告集に掲載する原稿を提出する									
		担当者から一言									

講義名	テキスタ [.] 	イルデザイ	ン					担当教員	内丸	もと子	
講義コード	1402206	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習				
ナンバリング番号											
	_					授業概要					
この授業ではテキ	スタイルデ	゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	基礎的	スキルを	身につける。	ことを目的と	する。				
この授業ではテキテキスタイル素材実際の素材を見なさい。 まならにコンセプトよりまた、 また、循環型社会	「は加丄万法 :がらテキス	によって タイルデ	多彩に ザイン	こその表情 ′の後加工	を変えること のさまざまな	とができる。 よ表現を学ぶ	0				
さらにコンセプト よって より宝器	作成から製	品デザイン タイルデ ^ナ	ソへの	落とし込	み等を学び、 案方法を体験	実際に企画	立案を	することに			
また、循環型社会	に向けての	繊維リサ	イクル	のあり方	、エコデザ	ŶシĔ [°] ついて	も考察	していく。			
							_				
(1)テキスタイ	ルデザイン	の過程と	* = *	· · · · · · · ·	た 押 舩 するこ	型達目標 エレができる					
(1)	ルデザイン	を企画立	くなった	プレゼンテ	ーションでき	50. 50.	0				
(3)循境型社会 	に回げて紬	雄製品ので	ありた	うについて	考祭できる。	よ つになる。					
		•				成績評価	Ī				
種別	割合(%)	評価基準	等								
定期試験											
		1 -10 1									
レポート課題	50	レポート 及び									
	授業中でのbuild up 課題										
上記以外	上記以外 <u>最終課題(プレゼンテーション)</u> 50										
-0											
3分の1以上欠席し	た場合は、	評価の対象	象とし	<i>、</i> ません。							
						授業外学	13 13				
 興味があるもの素	敵だと感じ	 るものを[日々ス	 くケッチし	てください。		=				
					•	教科書					
No	書	籍名				著者名			<u> </u>	出版社	 ISBN/ISSN
1											
2											 +
3											
<u> </u>					<u> </u>						
No.	±^	Σά 47				参考書			, ,	LI NC > L	LODALLICON
No	書	籍名			-	著者名			<u> </u>	出版社	ISBN/ISSN
1											
2											
3	3										
 必要なプリントは授業中に配布します。											
前提学力等 Illustrator及びPhotoshopのある程度の知識やスキルがあることが望ましい。											
III ustrator及の 最終課題では、Pc	Titustrator及OPhotoshopのある程度の知識やスキルがあることが望ました。 最終課題では、PowerPointまたはKeynote使用。										
履修資格											
l											

講義名	テキスタ	イルデザイ	イン				担当教員	内丸 もと子	
講義コード	1402206	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション テキスタイルと素材	それぞれの繊維素材の原料が何なのか?どこからくるのか? 素材の総まとめ
第2回	テキスタイルの後加工	実際のテキスタイル素材でさまざまな後加工を学ぶ。
第3回	テキスタイルの後加工	実際のテキスタイル素材でさまざまな後加工の表現方法を学ぶ。
第4回	素材とデザイン	ブランド紹介。 柄を作ってみる。
第5回	テキスタイルプリント	テキスタイルデザイン作成での基礎的なリピート方法を学ぶ。
第6回	テキスタイルプリントと色彩によ るイメージ表現	色彩によるデザインイメージの変換を学ぶ。
第7回	トレンドとデザイン提案	世界の素材トレンドを発信する展示会。 テキスタイル提案事例。
第8回	繊維リサイクル	SDGs、循環型社会に向けて、繊維リサイクルのあり方を考察。 また、ものを作る側としてエコデザインを考える。
第9回	コンセプトの作成	デザイン提案の課題
第10回	テキスタイル素材のデザイン	デザイン提案の課題
第11回	テキスタイル製品へのシミュレー ション	デザイン提案の課題
第12回	提案の構成	デザイン提案の課題
第13回	提案のブラッシュアップ	デザイン提案の課題
第14回	提案のブラッシュアップ	デザイン提案の課題
第15回	まとめ・プレゼンテーション	デザイン提案の課題(最終課題)のプレゼンテーション
		担当者から一言

講義名	デッサン	法						担当教員	富原	仁美	
講義コード	1402260	単位数	1 開	開講期	前期	授業種別	実技				
ナンバリング番号	133LVD20)1									
	授業概要										
造形表現の基礎と の授業。	告形表現の基礎となる描写力を習得する。形態や色彩などの造形要素を理解し、それらを正確に描写表現するための考え方や技術を学ぶ。全回実技 D授業。										
基本的~複雑だ	形能を空間	見的に押握	1, 平面	に正確に	描写する	到達目村 ことが出来る					
基本的~複雑な 遠近感・空間・ 色彩を体系的に 他者への伝達ッ	明暗・素材理解するこ	が記述する。 す感などの ことが出来	し、〒田 造形要素 る。また	を理解します。	て、それる色を絵	らを的確に描 具を用いて作	。 語写表現 ≅り出す	することが出 ことが出来る	来る。 。		
他者への伝達ツ	/ールとして	この描写表	現が出来	そる。							
						成績評値	T				
種別 	割合(%)	評価基準	等								
定期試験											
レポート課題	レポート課題										
上記以外	上記以外 100 到達目標 ~ 及び、 授業の取り組み姿勢、各20%。										
3分の1以上欠度1	1 ⁰⁰										
07107100100	7C-% (1 1 1 1 1	1 Im (2) / 13(C 0 % V 1	'							
						授業外学	習				
1		77. 67		T		教科書				1,117 + 1	1 1001/1001
No カラーコー		籍名 一入門 色 ⁹	 彩		 大井義男・	著者名 ・川崎秀昭		日本色研		出版社	ISBN/ISSN
1 7 7 .											
2											
3											
ガイダンス後に杉	で内購買部で	 ご購入						•			
						参考書					_
No	書	籍名				著者名			<u>H</u>	出版社	ISBN/ISSN
1											
2											
3											
						前提学力	等				
						履修資材	各				

講義名	デッサン	法					担当教員	富原 仁美	
講義コード	1402260	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	133LVD20	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	・この授業で学ぶデッサンについての説明 ・必要購入品の説明と確認
第2回	基本形態の描写	・直方形を描くための説明 ・手順、遠近法について
第3回	基本形態の描写	・円筒形を描くための説明 ・手順、遠近法について
第4回	色彩について	・テキストを使用 ・基本的な項目について
第5回	基本形態の描写	・第2,3回授業内容の復習 ・基礎的なポイントを実技の中で習得し理解する
第6回	基本形態の描写	・第2,3回授業内容の復習・基礎的なポイントを実技の中で習得し理解する
第7回	基本形態の描写	・第2,3回授業内容の復習・基礎的なポイントを実技の中で習得し理解する
第8回	描写と着彩	・透明水彩絵具の使用方法を学ぶ ・形態と色彩
第9回	描写と着彩	・透明水彩絵具の使用方法を学ぶ ・形態と色彩
第10回	描写と着彩	・透明水彩絵具を使用 ・形態と色彩
第11回	描写と着彩	・透明水彩絵具を使用 ・形態と色彩
第12回	描写	・様々な形態、素材のモチーフを描く
第13回	描写	・様々な形態、素材のモチーフを描く
第14回	描写	・様々な形態、素材のモチーフを描く
第15回	描写	・様々な形態、素材のモチーフを描く
		担当者から一言

講義名	道具計画	論						担当教員	印南 比呂志			
講義コード	1402290	単位数	2	開講期	前期	授業種別						
ナンバリング番号 333TLD243-C												

業	

住環境の実態を背景に、人間が関わってきた道具類を毎週ひとつの分野にテーマを絞って、その製品をとりあげて講義をすすめる。その製品の歴史、市場、変遷、社会的価値についてさまざまな視点から考察を試みる。また、ものづくりとしての製品開発における企画設計プロセス、市場での製品流通やマネージメントに至までの実際を学ぶ。テーマによっては外部講師として専門家の招聘して講義を行う。

到達目標

道具という視点で世の中に存在するさまざまな製品、ブランド商品などの背景、価値を理解できるようになる。

	成績評価												
種別	割合(%)	評価基準等											
定期試験													
レポート課題	80	毎回の講義でのレスポンスシート、中間レポート、最終レポート課題により評価する。											
上記以外	20	即日設計課題や、調査課題などの宿題を適宜課す。											

授業外学習

事前に毎週の講義テーマに関する事前情報を収集しておく。

	教科書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1													
2													
3													

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1	生きのびるためのデザイン	ヴィクター・パパネック	晶文社										
2	デザインのイデオロギーとユートピア	ゲルト・ゼレ	晶文社										
3	ものが生まれる産地、ものを輝かせるデザイン	影山和則	ラトルズ										

前提学力等

美術史、デザイン史、建築史についての基本的な学力を要する。

講義名	道具計画	論					担当教員	印南	比呂志	
講義コード	1402290	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	333TLD24	3-C								

, , , , , ,		位来 计 回
	タイトル	
第1回	オリエンテーション・概論	道具という言葉の概念について考える。
第2回	GKの世界	日本における、ものの民主化と戦後のプロダクトデザインの歴史を考える。
第3回	本について	
第4回	刃物の世界について	日本の刃物の歴史と現在。イタリアのサルディニア島の刃物職人にの生活について。
第5回	自動車について	FIAT社の歴史と車産業の変遷をデザインを中心に見て行く。戦後日本の自動車産業の変遷についても 同様に見る。
第6回	パッケージデザインについて	松永真の生み出した商品デザインと、梅原真の地域デザインと商品について。
第7回	住むための道具について	即日設計課題(最小限住宅)
第8回	カメラと時計	アンティックカメラとアナログ時計(機械式道具の世界)について。
第9回	情報とサイン	環境とインテリアグラフィックについて。廣村正彰氏の作品を中心に。
第10回	椅子について	毎年のミラノサローネの傾向について。外部から専門のデザイナーなどを招聘して授業を進める。
第11回	木工職人の道具の世界	伝統的な職人道具ついて。外部から専門の職人などを招聘して授業を進める。
第12回	革製品について	鞄・靴・革職人の世界について。 外部から専門の職人などを招聘して授業を進める。
第13回	オーディオについて	ピュアオーディオの世界について。音とデザインの世界を見る。
第14回	自転車について	コミューターとしての移動具の世界
第15回	総論(レポート課題)	道具に対する知見をレポートにする。
		担当者から一言

実際の道具を手にとって使用したり、感じたりして授業を進める。

講義名	道具デザ	イン演習					担当教員	南	政宏 / 佐藤	延弘			
講義コード	1402300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習						
ナンバリング番号	233TLD24	1											

授業概要

半期を通して、デザインプレゼンテーションの基礎を習得する。

今後、住居、服飾を目指す学生にとっても、illustrator、photoshopでプレゼンパネルを制作する技術が身に付くので卒業研究・制作で役立つ内容になっている。

前半 南担当分

道具(プロダクト)デザインやブランディングデザインの基礎となるアイデア、企画立案から、モデル製作、図面制作、ロゴなどのグラフィックデ ザイン、写真撮影、プレゼンテーションパネルの製作までの基礎を習得する。

到達目標

道具デザイン、プロダクトデザイン、パッケージデザイン、ブランディングデザインなどのプレゼンテーションの基本的な技術を習得する。

- (1)商品のストーリー / ブランドコンセプトとは何か理解を深め、一般的な理解と自分の考えを説明できるようになる。(2)商品を製造・販売するために、どの様な技術や知識が必要かを考え、自分で調べることができる。(3)生産数や製作環境に適した材料や加工技法についての知識を深め、実践することができる。(4)自分の作品(商品)の魅力を、多くの人に正しく伝える表現方法を身につける。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	課題作品	「最終課題の完成度の評価50%」+「各回レポート及び提出物の評価 30%」+「製作過程での問題解決能力の評価10%」 +「授業への参加意欲の評価10%」を基本。 各回提出課題は未完成であっても考えが見える状態であれば必ず提出すること。レポート(写真)は次回授業の開始ま

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。 課題が締め切りに間に合っていないものは、評価の対象としない。

授業外学習

身の回りのモノや風景、デザインされた物品へ関心を持つ。できるだけ多くの時間を手を動かす時間に費やして下さい。また、他の人の考えや作ったものに

	教科書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1	特になし												
2													
3													

	参考書													
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN										
1	Sketching	Koos Eissen (著), Roselien Steur (著)	Bis Pub	9063691718										
2														
3														

前提学力等

Adobe illustratorとphotoshopを使用します。各自用意か学部情報室のパソコンを使用。

講義名	道具デザ	イン演習					担当教員	南 政宏/佐藤	延弘	
講義コード	1402300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	233TLD24	1								

授業計画	
回数 タイトル 概要 第4日 ガイダンス 南政宏担当 道具デザインの基礎について	
第2回 スケッチとレンダリング スケッチとレンダリングについて	
第3回 図面作成 図面を作成する ロゴや商品名のデザイン	
第4回 模型制作 模型制作	
第5回 写真撮影 モデルの写真撮影を学ぶ モデルの写真撮影を学ぶ	
第6回 プレゼンテーションボード デジタルデータによるプレゼンテーションボードの作成	
第7回 講評 講評 講評 講評 ### ### ### ### ### ### ###	
第8回 教員紹介 佐藤延弘担当 授業の進め方/教員紹介スライド/創造力が沸き立つような	
第9回 観察力 課題文の読み解き/五感について考える/「時を感じる」写 真を撮る	
第10回 イメージからモノへ 「写真+言葉+モノ」を使って、時を感じることを他者に伝える	
第11回 中間プレゼンテーション テーマに沿って造形物や実験装置を製作。制作物とスライド (映像)を使って時を感じるモノや現象を発表 / グループ	
第12回 モノから生活の場へ 中間プレゼンで考えた「モノ」に用途を与える / 素材や技術のデータを収集分析する / ラフ案を考える	
第13回 素材 = 技術 スタディー模型、試作チェック / パッケージ (C式かぶせ	
第14回 空気感 商品写真 / リーフレットとポスター作成 / 商品説明書 / 商品 ディスプレイ (店舗空間・POP・展示什器)の説明	
第15回 講評会 展示設営とディスプレイ/講評会とフィードバック/販売 (学外展示/展示販売会)	
担当者から一言	

デジカメを毎回持参してください。 (製作の進行状況の記録やアイデアなどを撮影、課題チェック時に確認します。)

講義コード 1402310 単位数 2 開講期 後期 授業種別 演習 + こいがいこくが来号 233TL D341	講義名	道具デザ	イン演習					担当教員	印南	比呂志/南	政宏 / 佐々木	一泰	
ナンバリング来号 233TI D341	講義コード	1402310	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習					
7 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ナンバリング番号	233TLD34	1										

授業概要

前期授業の道具デザイン演習 で習得した技術、技法を基礎として、製品デザイン開発の方法をさまざまなものづくりの業界の現場に関わりなが ら学んでいく。

架空もしくは実際の企業の商品計画やCI(コーポレートアイデンティティ)計画などの実践的な課題を通して進めていく。またこれらの成果をわかりやすく表現するための提案パネルや模型などの制作を通して、プレゼンテーションの方法も学んでいく。商品開発からブランディングまで含めた課題が多くなる。

産学連携のプロジェクトや、日本の第一線で活躍するプロダクトデザイナーをお招きしての講評会などを行う。

到達目標

- (1)ものづくりの現場調査の方法。つまりインタビューやドキュメンテーションの方法を修得する。(2)デザイン提案物の簡単なモデリングやパネルプレゼンテーション技術を修得する。(3)コンピュータのを使ってプレゼンテーションできる。(パワーポイント、CGなど)

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	提出課題による評価:50%
上記以外	50	課題作業のプロセスにおける取り組みによる評価50%

3週~4週毎にデザイン制作課題を課す。 授業時間数の1/3以上欠席したものは評価対象にしない。

授業外学習

時間外での課題制作もある。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

		参考書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	編集デザインの教科書	工藤強勝監修	日経デザイン刊・日経BP社	978-4822235048
2				
3				

前提学力等

Adobe illustratorとphotoshopを使用します。デジカメも使用します。 各自で作りたいものに合わせて素材調達から行う課題がある。

講義名	道具デザ	イン演習					担当教員	印南 比呂志	/南 政宏/	/ 佐々木	一泰		
講義コード	1402310	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習						
ナンバリング番号	233TLD34	1											

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション 道具演習課題1	道具デザインに関するテーマの出題
第2回	道具演習課題1	エスキース,スケッチ,モデリング
第3回	道具演習課題1	写真撮影 プレゼンボードの制作
第4回	道具演習課題1	講評
第5回	道具演習課題2	外部講師によるテーマの出題 デザインサーベイ、デザインプロセス、エスキース,スケッチ
第6回	道具演習課題2	エスキース,スケッチ,モデリング
第7回	道具演習課題2	エスキース,スケッチ,モデリング
第8回	道具演習課題2	エスキース,スケッチ,モデリング
第9回	道具演習課題2	写真撮影 プレゼンボードの制作
第10回	道具演習課題2	写真撮影 プレゼンボードの制作
第11回	道具演習課題2	講評 外部講師による講評会
第12回	道具演習課題3	エスキース,スケッチ,モデリング
第13回	道具演習課題 3	試作の完成
第14回	道具演習課題3	プレゼンテーションパネルの作成
第15回	道具演習課題3	講評
		担当者から一言

講義名	道具デザ	イン演習						担当教員	 面矢	慎介/印	南	比呂志	
 講義コード	1402320	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習						
ナンバリング番号	333TLD34	1-C											
						授業概要	要		_				
道具の計画・デザ 製品およびそれら	道具の計画・デザインにおいて必要な知識・考え方と技術を修得する。道具デザイン演習 ~ で学んだ技術と知識を基礎として、生活関連分野の製品およびそれらを含んだ生活空間についての具体的な計画・デザインの課題を課す。												
	70/李 D 4番												
(1)基礎的調 ョンまでの作業を	<u>到達目標</u> (1)基礎的調査・構想、(2)企画立案、(3)造形、(4)立体モデル制作、(5)プレゼンテーションパネル制作、(5)プレゼンテーションまでの作業を修得する。												
	コンみてのIF来で同句である。												
種別	割合(%)	評価基準	等										
定期試験	定期試験												
レポート課題	ポート課題 20 課題作業のプロセスにおける調査報告(20%)												
上記以外 80 完成提出作品とそのプレゼンテーション(80%)													
企業や地域からの	<u></u> 要望による	課題や、	コンペ	などを中	心に行うた	め、評価はタ	卜部審査	、クライアン	'卜審결	なども考慮	憲して	_ C総合的に	ご行う。
						授業外学	習						
作業は授業中では	完成しない	1。学生に	は課題	の進行に	:沿って授業	時間以外での	D作業が	要求される。					
						教科書	ţ						
No	書	籍名				著者名			l	出版社			ISBN/ISSN
1													
2													
3													
毎回の課題に適し	た資料等を	指示する	0										
						参考書	ŧ .						
No	書	籍名				著者名			l	出版社		\Box	ISBN/ISSN
1	1												
2													
3													
毎回の課題に適し	た資料等を	指示する	۰										
ギロゴゼンい方言	-		1	17 - 1		前提学力)等						
道具デザイン演習	• হুট	でに復修	: U (l	1ること。									
	履修資格												

講義名	道具デザ	イン演習						担当教員	面矢 慎介/印南	比呂志
講義コード	1402320	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	333TLD34	1-C								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション・開発課題の 設定	商品開発プロセスについての基礎
第2回	地域産業課題・A (課題の発見・コンセプト)	地域の産業から課題を得て、新たな商品開発やブランディングを提案する。
第3回	地域産業課題・A (アイデアスケッチ)	アイデアスケッチをチェックする。
第4回	地域産業課題・A (スタディモデル)	スタディモデルを使って発表し基本設計を進める。
第5回	地域産業課題・A (実施設計)	最終のデザインを決定し、実施設計を進める。
第6回	地域産業課題・A (プレゼンテーション)	完成したものをプレゼンテーションし提出する。
第7回	地域産業課題・B (コンセプト・ア イデアスケッチ)	アイデアスケッチをチェックする。
第8回	地域産業課題・B (スタディモデル)	スタディモデルを使って発表し基本設計を進める。
第9回	地域産業課題・B (実施設計)	最終のデザインを決定し、実施設計を進める。
第10回	地域産業課題・B (プレゼンテーション)	完成したものをプレゼンテーションし提出する。
第11回	地域産業課題・C(課題の発見・コンセプト)	地域の産業から課題を得て、新たな商品開発やブランディングを提案する。
第12回	地域産業課題・C(アイデアスケッチ)	アイデアスケッチをチェックする。
第13回	地域産業課題・C(スタディモデル)	スタディモデルを使って発表し基本設計を進める。
第14回	地域産業課題・C(実施設計)	最終のデザインを決定し、実施設計を進める。
第15回	地域産業課題・C(プレゼンテーション)	完成したものをプレゼンテーションし提出する。
		担当者から一言

講義名	デジタルデサ	げイン演習 Α					印志	ᄡᄆᆂᄼᅕᄑ	まわ い / 小杉	羊種フ	
講義コード	1402331	単位数	1	開講期	前期	担当教員	印南竹岡	瓦西志/森/ 寛文	あおい/小杉	夫偲士	/
ナンバリング番号											

ナンバリング番号						
			授業概要			
CADや画像処理 , l	ドローイン	グソフトなどを用いて , ・	デジタルデザインのリテラシー <i>t</i>	から操作技術の	D基礎から応用までを学ぶ	.
			7/11年 FD 4年			
 PCを用いたデザ	イン作業の	 D知識を深める	到達目標			
	1 2 11 214 -					
			成績評価			
種別	割合(%)	評価基準等	PART I SECULAR			
定期試験						
 レポート課題		授業中に貸した課題を次	欠週までに復習完成させるなど、	技術の習得度	を評価する。	
レが一下味趣	50					
上記以外	50	授業中の取り組み、態度	せなどを評価する。			
		•				
			+따개시 1 574 <u>2</u> .2			
	 の理解度、	および毎回の授業内で作	授業外学習 F成する課題を持ち帰り復習して	 次週の提出す	 る。基本的に授業内で終 ⁻	
いによる演習を行	う。		F成する課題を持ち帰り復習して			
No	聿:				 出版社	ISBN/ISSN
	<u> </u>	*# ப	100		Щихт	TODAY TOOK
1						
2						
3						
., I	-	77 G	参考書		Julio # I	I
No		籍名	著者名		出版社	ISBN/ISSN
1						
2						
3						
			前提学力等			
			履修資格			

講義名	デジタルデサ	げイン演習 A					四声	ᆹᄆᆂᄼᅕᄑ	あおい/小杉	羊種フ	
講義コード	1402331	単位数	1	開講期	前期	担当教員	印南竹岡	比呂志 / 森下 寛文	መመ <i>ነነ</i> / ሳላን	夫愢丁	/
ナンバリング番号											

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	ガイダンス	演習の進め方の説明、機器などの使用にあたっての注意事項。							
第2回	DTPソフトを使った、レイアウトの 基礎・1(タイポグラフィ和文)	IIIustratorを使用して、文字組の基礎を学ぶ。							
第3回	DTPソフトを使った、レイアウトの 基礎・2(タイポグラフィ欧文)								
第4回	DTPソフトを使った、レイアウトの基礎・3(画像処理)	Photoshopを使用して、写真画像の修正、合成処理などを学ぶ。							
第5回	DTPソフトを使った、レイアウトの 基礎・4(編集レイアウト)								
第6回	Webサイトの構築・作成の基礎・1	IT社会における、ネットの世界がどういう仕組みで動いているのかの原理について理解を深める。							
第7回	Webサイトの構築・作成の基礎・2	ウェブ上に溢れる新しい技術について知る。 							
第8回	Webサイトの構築・作成の基礎・3	ウェブ作成について基礎を学ぶ。							
第9回	Webサイトの構築・作成の基礎・4	ウェブ作成について基礎を学ぶ。							
第10回	illstrator photoshopを使ったファッションデザイン画の基礎	集中講義として行う(日時はオリエンテーション時に説明する)							
第11回	illstrator photoshopを使ったファッションデザイン画の基礎	集中講義として行う(日時はオリエンテーション時に説明する)							
第12回	illstrator photoshopを使ったファッションデザイン画の基礎	集中講義として行う(日時はオリエンテーション時に説明する)							
第13回	illstrator photoshopを使ったファッションデザイン画の基礎	集中講義として行う(日時はオリエンテーション時に説明する)							
第14回	illstrator photoshopを使ったファッションデザイン画の基礎	集中講義として行う(日時はオリエンテーション時に説明する)							
第15回	illstrator photoshopを使ったファッションデザイン画の基礎	集中講義として行う(日時はオリエンテーション時に説明する)							
		担当者から一言							

講義名	デジタルデサ	げイン演習 B							
講義コード	1402332	単位数	1	開講期	後期	担当教員	佐々木	一泰 / 高杉	昭吾
ナンバリング番号									
拉米帕莱									

+537	44	107	Æ

じっ ノン・ゲン・コーム じんのいそ	. デジタルデザインのリテラシーから操作技術の基礎から応用までを学ぶ
トローオ ソハソ ナトルとを田口(- ナシタルナサインのリナラシーから悪性技術の身際から心田士でをえん

到達目標

PCを用いたデザイン作業の知識を深める.

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験									
レポート課題	50	授業中に課した課題を次週までに復習完成させるなどにより、技術の習得度を評価する。							
上記以外	50	授業中の取り組み、態度などを評価。							

授業外学習

授業における課題の理解度,および毎回の授業内で作成する課題を持ち帰り復習精査して次週に提出し評価。基本的に授業時間内に終了できる程度 の課題内容による演習を行う.

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1	cinema4D Beginners	阿部司	BNN	978-4-86100-850-4					
2									
3									

テキスト:なし.適宜プリントを配布する.指定図書:授業内に適宜紹介する.参考書:授業内に適宜紹介する.

前提学力等

前期・後期を通じてで3分野のデジタルスキルを網羅する。

講義名	デジタルデサ	げイン演習 B									
講義コード	1402332	単位数	1	開講期	後期	担当教員	佐々木	一泰 / 高杉	昭吾		
ナンバリング番号											

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	ガイダンス・cinema4dを使った, プロダクト3DCGの基本・1	演習説明,機器などの使用にあたっての注意事項。3DCGとは。								
第2回	cinema4dを使った,プロダクト 3DCGの基本・2	ポリゴンモデリング基礎								
第3回	cinema4dを使った,プロダクト 3DCGの基本・3	パスによるモデリング基礎								
第4回	cinema4dを使った,プロダクト 3DCGの基本・4	レンダリング								
第5回	cinema4dを使った,プロダクト 3DCGの基本・5	シーン設定								
第6回	cinema4dを使った,プロダクト 3DCGの基本・6	マテリアル								
第7回	cinema4dを使った,プロダクト 3DCGの基本・7	テストの練習								
第8回	cinema4dを使った,プロダクト 3DCGの基本・8	テスト								
第9回	DRA-CAD, Vectorworksを使った , 2D・3DCADの基本・1	CADの基本知識とデータの仕組み								
第10回	DRA-CAD, Vectorworksを使った , 2D・3DCADの基本・2	2D/3DCADのデータ作成 (数値・座標の入力による作成)								
第11回	DRA-CAD , Vectorworksを使った , 2D・3DCADの基本・3	2D/3DCADのデータ作成 (数値・座標を用いた立体化)								
第12回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・4	2D/3DCADのデータ作成 (データのアプリケーション間の連携と性質)								
第13回	DRA-CAD, Vectorworksを使った , 2D・3DCADの基本・5	2D図面データの作成 (2DCAD製図の基礎)								
第14回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・6	2D図面データの作成 (2DCAD製図の基礎)								
第15回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・7	2D図面データの作成 (2DCAD製図の基礎)								
		担当者から一言								

担当者から一言

学部情報室のPCの起動がとても遅いため、遅刻せず授業開始前に立ち上げることが望ましい。 cinema4D学生版は登録制であるが無償で使える。事前に自身のPCにインストールしておくと、授業外で学習しやすい。インストールする場合は、PC

講義名	道具デザイン史/							担当教員	面矢 慎介
講義コード	1402340	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333TLD242								

授業概要

近代以降における道具デザインの変容についての解説。近代以降の工業化によって、生活環境を構成する道具は大きく変容してきた。従来のデザイン史が歴史上有名なデザイナー個人やグループの造形思想に重きをおいて造形上の変容を説明してきたのに対して、本講義では、近代以降に登場した家庭用生活機器・生活道具を中心に、それらの成立・発展・普及の経緯やデザインの変容について、経済的・社会的・文化的・技術的背景との関係から考察する。

到達目標

道具のデザインが恣意的な外形上の操作ではなく、産業社会における生産と生活の形態と深く結びついた活動であることを理解できる。(1)授業内容を理解し、ポイントをまとめ、自分なりの意見を述べることができる。(2)授業内容に関連する文献を読み、文献中の歴史的事象と現代の事象とを比較考察することができる。(3)1つの道具を事例としてそのデザインの歴史的変化について調べ、結果を文章にまとめることができる。

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験	0								
レポート課題	80	文献レポート(中間レポート)と期末レポート 成績評価への寄与率は、文献レポート20%、期末レポート60%							
上記以外	20	コメントカード							

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

授業外学習

毎回、授業終了時にコメントカードを回収する。

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	欲望のオブジェ	アドリアン・フォーティ	鹿島出版界							
2	カラー版・世界デザイン史	阿部公正ほか	美術出版社	978-4-568-40084-7 C3070						
3										

前提学力等

「近代デザイン史」をすでに履修していることが望ましい。

講義名	道具デザ	イン史/					担当教員	面矢 慎介	
講義コード	1402340	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333TLD24	2							

	<u> </u>	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	デザイン史を学ぶ意味、デザイン史の2つの視座
第2回	デザイナーなしのデザインの時代	19世紀、イギリス・アメリカ
第3回	初期機能主義のデザイン	1920-30年代、ドイツ・イギリス
第4回	インダストリアルデザイナーの誕 生	1930年代、アメリカ
第5回	企業とデザイン	1940-50年代、アメリカ
第6回	家事の機械化	1900-1940年代、アメリカ
第7回	台所の近代化	9 - 2 0 世紀、イギリス・アメリカ・ドイツ・日本
第8回	ラジオのデザイン	1920-40年代、イギリス・アメリカ
第9回	プラスチックとデザイン	19世紀-20世紀、アメリカ・イギリス・ドイツ
第10回	戦後日本のインダストリアルデザ イン 1	1940-70年代
第11回	期末レポートの出題・解説	テーマの見つけ方、レポートの書き方
第12回	戦後日本のインダストリアルデザ イン 2	各年代の製品事例紹介
第13回	アノニマスアプローチによる道具 デザイン史	個別研究事例の紹介
第14回	アノニマスアプローチによる道具 デザイン史	個別研究事例の紹介
第15回	終わりに	デザイン史からみたデザインの現代
		担当者から一言

	講義名	道具デザ [.]	イン論/					担当教員	印南 比呂志/南 政家	左
請	義コード	1402350	単位数	2 開講期	後期	授業種別	講義			
ナン	バリング番号	333TLD24	1-C							
						授業概要	Ē			
プロ業とらから	プロダクトをデザインして販売できる商品としていくためには、様々な条件を克服していかなければならない。 企業側にある論理、販売側にある論理、デザイナーが実現したいイメージ。それらをどのように乗り越えて商品として実現していくのか、デザイナーと、メーカーの実務的なやり取りを通しながらそのプロセスを追いながら解説する。商品について深く考察することでメーカーとユーザーの視点から道具について考察する。									
商品	をとりまく経	 済の仕組み	や流通、販		告、ブラン	<u>到達目材</u> ディングにつ		 知識を深める	0	
	成績評価									
	 種別	割合(%)	評価基準等	<u> </u>		成績評値				
5	種別 定期試験	割合(%)	評価基準等	Ē		成績評値	<u></u>			
		割合(%)		・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ナリティの			いるか。		
L:	定期試験		テーマに対					いるか。		
ν:	定期試験ポート課題上記以外	50	テーマに対毎回のレス	lして , オリジ:	ーによる。	ある内容で書	書かれて			
ν:	定期試験ポート課題上記以外	50	テーマに対毎回のレス	けして , オリジ: ポンスペーパ-	ーによる。	ある内容で	書かれて			
ν:	定期試験ポート課題上記以外	50	テーマに対毎回のレス	けして , オリジ: ポンスペーパ-	ーによる。	ある内容で書	対象にし			
必要	定期試験ポート課題上記以外	50 50 ポートを課	テーマに対毎回のレスでする。授業	けして , オリジ: ポンスペーパ-	ーによる。	ある内容で書 たものは評価 授業外学 教科書	対象にし		中尼社	Jepn/Jeen
ν:	定期試験ポート課題上記以外	50 50 ポートを課	テーマに対毎回のレス	けして , オリジ: ポンスペーパ-	ーによる。	ある内容で書	対象にし		出版社	ISBN/ISSN
レ: 必要 No	定期試験ポート課題上記以外	50 50 ポートを課	テーマに対毎回のレスでする。授業	けして , オリジ: ポンスペーパ-	ーによる。	ある内容で書 たものは評価 授業外学 教科書	対象にし		出版社	ISBN/ISSN
ル 必要 No 1	定期試験ポート課題上記以外	50 50 ポートを課	テーマに対毎回のレスでする。授業	けして , オリジ: ポンスペーパ-	ーによる。	ある内容で書 たものは評価 授業外学 教科書	対象にし		出版社	ISBN/ISSN

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1	人間尺度論	戸沼幸市	彰国社	3052-300295-3081					
2	safe:design takes on risk	paola antonelli	The Museum of Modern Art	0-87070-580-6					
3									

前提学力等

講義名	道具デザ	イン論/					担当教員	印南 比呂志/南 政宏	
講義コード	1402350	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333TLD24	1-C							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス 道具デザイン基礎 南担当	ガイダンス 道具デザイン基礎
第2回	日用品について考える 南担当	各自,使ってみて良かった日用品について考察する。
第3回	日用品について 南担当	各自,使ってみて良くなかった日用品について考察する。
第4回	コピーについて 南担当	文章で伝えることについて考える。
第5回	商品開発の事例 南担当	商品開発の事例を紹介する。
第6回	商品開発の事例 南担当	商品開発の事例を紹介する。
第7回	商品開発の事例 南担当	商品開発の事例を紹介する。
第8回	商品開発の事例 南担当	商品開発の事例を紹介する。
第9回	ものの寸法について 印南担当	身体寸法と道具の関係、空間(家、都市)スケールによる道具との関係について考える。
第10回	視覚、触覚と尺度について 印南担当	道具の形状が醸し出す使用方法や機能、使用することによって知る機能など、道具と人の関係を考える。
第11回	空間と距離について 印南担当	人とモノの距離、モノとモノの距離によってつくられる空間認識について考える。
第12回	時間による経年変化ついて 印南担当	老化、劣化、旧式化、壊れる、古くなるなどで表現される道具の機能や形状、材料の経年変化について考える。
第13回	速度とかたちについて 印南担当	形態と速度の関係を考える。車、飛行機、列車などの移動体から、生物の身体の形状を比較する。
第14回	安全と安心について 印南担当	さまざまなリスクを予測した道具の機能とデザイン、国際的な基準や法的な流れについて考える。
第15回	総括 印南担当	道具の世界を俯瞰して考える。ディスカッション。
		担当者から一言

	講義名	統計学基礎	礎						担当教員	澤山	郁夫	
請	 義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義				
ナン	バリング番号	133LVD10	6,134NUT	107,13	35PSY203							
	授業概要											
手に な性 のよ	最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。そもそもなぜそのデータに対して統計的処理を行なう必要があるのか。データにはどんな性質があるか。どんなタイプのデータにはどんな手法がふさわしいのか。どんな手法を使うとどんな結果が引き出されるのか。本講義では、以上のような問題を念頭に置きながら、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱う。											
							 到達目	漂				
(2)木 (3)丼	母集団と標本の 目関を含む記述 推定と検定の基 日常生活で用い	『統計量の』 『本手順を『	基本的な値 習得する。	吏い方				つける。				
							成績評(西				
	種別	割合(%)	評価基準	等								
,	定期試験											
レ	ポート課題											
	上記以外	100%	小テスト	・またに	はレポート	(随時):	各回で扱った	た統計学	的知識を理解	?できて	いるかを問う。	
							授業外学	- 캠				
No		聿4	 籍名				数科書 著者名	i		ļ4	 出版社	ISBN/ISSN
1		<u>=</u> 7	ra H							Ц		10017 10011
2												
3												
	•				l				ı			
							参考書	ŧ				
No	**ロやかい		籍名 ディナ:ग <i>+</i>	۰ – L	が書いて	吉田 寿夫	著者名		北大路		出版社	ISBN/ISSN
1	本当にわかり あるごく初步	の統計の2	- ヽ へい ん 本 	, C C	い音いし				40八吋百	פֿעוּ		978-4762821257
2												
3												

前提学力等

講義名	統計学基	礎					担当教員	澤山 郁夫	
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD10	6,134NUT	107,13	5PSY203					

	-	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	統計学は(何の)役に立つのか?
第2回	母集団と標本	サンプリングによって世界を把握するという考え方について。記述統計学と推計統計学の違い。
第3回	分布を考える	分布の代表的な形。偶然のできごとはいかに分布するのか。二項分布について。
第4回	表とグラフ、位置とばらつき	数値計算の前に、データを視覚化し、整理するだけで分かることは何か。位置とばらつきについて。
第5回	記述統計(1)	平均と標準偏差、その表現法。
第6回	記述統計(2)	中央値と四分位数、箱ひげ図。
第7回	正規分布とは何か	正規分布の主な性質
第8回	推定	推計統計学とは何か。中心極限定理と信頼区間。
第9回	比較と検定	仮説検定法、帰無仮説の考え方、平均の比較。
第10回	比較と検定(2)	さまざまな検定法:平均の差の検定、 二乗検定など。
第11回	分散分析と多重比較	要因と水準、対応の考え方。一元分散分析の基礎。多重比較の基礎。
第12回	相関と回帰(1)	記述統計としての相関。相関係数の読み方。
第13回	相関と回帰(2)	推計統計としての回帰。モデルを立てること。「実現値=期待値+誤差」という考え方。
第14回	さまざまな統計的手法	パラメトリック / ノンパラメトリック検定のいろいろ。多変量解析の紹介。
第15回	まとめ	科学における統計学の位置づけ。統計の用いられ方。統計の誤用について。
		担当者から一言

講義名	人間工学						担当教員	中村 孝之	
講義コード	1402510	1402510 単位数 2 開講期 後期 授業種別 講義							
ナンバリング番号	233LVD20	3							
						授業概	要		
社会の変化に伴っ 理、身体、そして さにおいて、人間 授業計画について	て生じなる、 行動の最 し と い 時期 は 前 前 前 前 前 に が る で る 。 る ら る ら る ら る ら る う る う る う る う る う る う	人間と、 人間のを 関係を るこ	製品や 本 え と が あ	o環境のあ 特性や Himo Soo。	り方のギャッ し、プロダク インを行う手	ップを埋めて クト、インラ 法について	こ行くた テリア、 こ学ぶ。	めの手がかり 建築などの生	となるのが人間工学である。ここでは、生理、心 活環境構成要素を取り上げて、安全性や使いやす

到達目標

- (1)人間工学の目的とするところを理解し、基本的な知識を習得する(2)生活環境やプロダクト製品に関する、人間生活工学の視点を養う(3)インテリアやプロダクトデザインの際に、人間からのアプローチができるようになる

	成績評価											
種別 割合(%) 評価基準等												
定期試験	40%	到達目標(1)について、記述試験を行う										
レポート課題	60%	到達目標(2)(3)について、レポートを作成する										
上記以外												

3分の一以上欠席した場合、評価の対象としないことがある。

授業外学習

配布プリントにより授業を行う。授業中にノートをとることで短期記憶をつくり、復習することで長期記憶にする。そして設計やデザインの場面で応用することによって身につくものである。参考書を紹介するので、1冊は読むこと。

	教科書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1													
2													
3													

プリントを配布

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1	初めて学ぶ人間工学	岡田明、後藤 義明, 八木 佳子, 山崎 和彦, 吉武 良治	理工図書										
2	ユーザーインターフェイスの実践	山岡俊樹、岡田明	海文堂出版										
3	ユニバーサルデザインの教科書[増補改訂版]	中川聡	日経BP社										

前提学力等

講義名	人間工学						担当教員	中村 孝之	
講義コード	1402510	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233LVD20	3							

<i>,</i> ノハリ.	フク留号 233に VD 203							
	I							
回数	タイトル	概要						
第1回	ガイダンス(人間工学とは、人間 工学の役割)	│人間工学は人間から考えた製品や環境をつくる手段であり身近にあることを知る。 │ │						
第2回	人間工学の歴史と発達	人間を基準にしたデザイン、工学としての歴史を学ぶ。 						
第3回	人間の特性 (人体寸法、基本データ)	人間にかかわる各種データを知る。						
第4回	人間の特性(姿勢、動作)	静的人体寸法、動的人体寸法の基本を学ぶ。						
第5回	人間の特性 (行動特性)	環境や空間における、人の行動の特性を学ぶ。						
第6回	人間の特性 (感覚、距離感)	人と人の関係における、感覚や行動の特性を学ぶ。						
第7回	人間の特性(知覚、認知)	人の五感、特に視覚、聴覚の特性と空間のあり方を学ぶ。						
第8回	マンマシンインターフェイス	人間と、モノや環境との関係をつくるメカニズムを知る。						
第9回	ヒューマンエラー	人間と、モノや環境との関係の中で起こるエラーについて学ぶ。						
第10回	10回 ユニバーサルデザイン 人間から考えるデザイン展開の考え方として、ユニバーサルデザインからのアプローチを学ぶ。							
第11回	生活環境への展開(安全性)	人間工学の応用展開として、住環境を中心に安全設計を学ぶ。						
第12回	生活環境への展開(快適性・使いやすさ)	人間工学の応用展開として、快適性や使いやすさを考えたデザインを学ぶ。						
第13回	モノづくりへの展開 (椅子)	人間工学を応用展開した椅子やデスクの設計を知る。						
第14回	モノづくりへの展開 (空間、製品)	人間工学を用いてプロダクトされた、ユニバーサルデザイン製品を知る。						
第15回	実空間での体験学習 (時期は、 前後するものとする)	実際の住宅空間や設備を体験できる「積水ハウス総合住宅研究所」で、人間工学からのモノづくりを 体験し、考える。						

授業中にノートをとることが必須です。プリントとノートを一つのバインダーに綴じることを勧めます。

講義名	人間工学	実習				担当教員	森下	あおい	/ 宮本	雅子			
 講義コード	1402520	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習						
ナンバリング番号	333LVD30)1											
						授業概要							
生活に関わるデザインの多くのものは、人体のサイズや形態を基準に設計されている。この授業では体形把握のために必要な人体計測法と、その 基準となる人体各部の計測点を、実際の計測を通じて学ぶとともに、服飾、道具、住居分野のデザインを行う際に必要とする体形特徴や、動作や姿													
勢によって生じる体形の変化などと関係する設計条件を実験によって把握する。また計測値をデザインに活用するための統計手法を学ぶ。													
						 到達目標							
(1)デザインに必要 (2)衣服型紙と人	要な人体形態	態の理解				23211							
(2)状版空紙と入り (3)計測値の統計が (4)人間とモノと(処理法の習:	得	する能力]の習得									
							;						
種別	割合(%)	評価基準	等			73.横計仙							
定期試験													
レポート課題													
上記以外	100	到達目標 について て分析す	の(1)テ は、レ る能力の	デザインに ポート10 の習得、	こ必要な人体 %、(3)計測 については、	本形態の理解、 川値の統計処理 、レポート50	につい 里法の習 %で評	1ては、レポ− 習得について! 価する。	- ト30% は、レ7	%、(2): ポート10	衣服型約 0%、(4	低と人(本寸法の関係の理解、 とモノとの関係につい
授業時間数の3分 実習課題ごとにし	_ ♪の1以上欠 ›ポートが誤	ス席した者 ませられる	は評価す	対象にし	ない。								
						授業外学習	望						
1	-	~~ ~				教科書				+ 1			
No	書	籍名				著者名			<u> </u>	出版社			ISBN/ISSN
1													
2													
3													
						参考書							
No	書	籍名				著者名			<u>H</u>	出版社			ISBN/ISSN
1													
2													
3													
 テキスト:配布資 	料によって	授業を行	います		<u> </u>			<u> </u>					
						前提学力等	等						
						履修資格	i i						

講義名	人間工学	実習					担当教員	森下	あおい / 宮本	雅子		
講義コード	1402520	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習					
ナンバリング番号	333LVD30	1										

ナンハリ:	ング番号 333LVD301								
		授業計画							
回数	タイトル	概要							
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について							
第2回	人体の計測とは	第2回~8回はグループに分かれて人体計測を行うため、計測方法の種類と計測に必要な基準点を学ぶ。							
第3回	姿勢・シルエットの計測	写真撮影を行い姿勢・シルエットの観察と考察を行う							
第4回	体表に沿った2点間の計測	マルチン式人体計測法により、長径項目・周径項目の計測を行う							
第5回	2 点間の直線距離の計測	マルチン式人体計測法により、高径項目・幅径項目の計測を行う							
第6回	日常動作と体形変化について	日常動作による体形変化の観察と考察を行う							
第7回	計測値の統計処理(1)	計測値の統計処理の方法を説明する							
第8回	計測値の統計処理(2)	個人と集団のデータについて考察とまとめ方を学ぶ							
第9回	課題説明と注意事項の説明	第10~15回の6実習はグループごとにローテーションで行うため、実習の方法について説明する							
第10回	望ましい通路の幅 車椅子を利用した場合の通路幅について検討する								
第11回	斜路の検討	路の検討 車椅子を使用した場合の斜路の勾配について学内の学内の斜路を対象に検討する							
第12回	道具の使いやすさの分析	8種類のドアノブを対象としてその寸法の計測と使いやすさの分析を行う							
第13回	空間イメージ	空間の明るさ、光源の色温度、器具の配置と空間イメージを検討する							
第14回	椅子の高さと座り心地	椅子の高さ、座面の材質の違いによる座り心地と体圧分布							
第15回	色識別について	視覚の状態(白内障、色弱)による色識別能力について体験するとともに学内のサインの評価を行う							
		担当者から一言							

担当者から一言

前半の計測実習では、実験着を着用してグルー毎で互いに計測者、被計測者になりながら、人体計測を行います。

講義名	人間文化	論 A					担当教員	藤木中井	庸介/Borjigin Burensain/木村 裕/ 均/今井 絵理	
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	133LVD10	02,134NUT	102,13	5LAH2011,						
						坪	E		•	

人間文化学部は、地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科の5学科から成っている。しかしそれぞれの学科は特定の分野の中に閉じ込められているわけではない。では、それぞれの学科は外の分野に向かってどのように開かれているのだろうか、それを考える手がかりとして、この講義では異なる学科に属する10組の教員どうしの対談と、各学科の教員による5つのレクチャーが行われる。これから4年間を過ごす学部で、どのように学問の関心を広げ、他学科の教員や学生と交流を開いていけばよいのか、この講義からそのことを考えるヒントをつかんでほしい。

到達目標

- (1)人間の文化に関する知識を幅広く身につけ、理解できる。(2)学問領域を越えて、多様なできごとに興味と関心を持つ態度を持つことができる。(3)自分の領域で直面している問題に対して、他領域の人々とディスカッションを行い、柔軟な思考と判断を行うことができる。

		成績評価								
種別	割合(%) 評価基準等									
定期試験										
レポート課題	50	最終レポート課題(学生による学科間ディスカッションによるもの)								
上記以外	50	各対談時のレスポンスペーパー								

授業外学習

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

前提学力等

講義名	人間文化	論A					担当教員	藤木中井	庸介/Borjigin Burensain/木村 裕/ 均/今井 絵理	
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別				
ナンバリング番号	133LVD10	2,134NUT	102,13	5LAH2011,	37BAC102					

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	イントロダクション	この講義の進め方に関するガイダンス。									
第2回	地域文化×生活栄養	第2回〜第11回は各学科から一人の教員が対談形式の講義を行います。学科の組み合わせの日取りは 変更される場合があります。教員の組み合わせと講義タイトルは4月のオリエンテーション時に伝え									
第3回	生活デザイン×地域文化										
第4回	地域文化×人間関係										
第5回	人間関係×生活デザイン										
第6回	生活デザイン×生活栄養										
第7回	国際コミュニケーション×地域文 化										
第8回	人間関係×国際コミュニケーショ ン										
第9回	生活デザイン×国際コミュニケー ション										
第10回	国際コミュニケーション×生活栄 養										
第11回	生活栄養×人間関係										
第12回	各学科によるまとめ(1)	生活栄養学科まとめ / 地域文化学科まとめ / 生活デザイン学科まとめ									
第13回	各学科によるまとめ(2)	国際コミュニケーション学科まとめ /人間関係学科まとめ/次週の準備									
第14回	学生自身によるディスカッション	各5学科から最低1人を含むチームを作り、他学科の学生との討議を行います。									
第15回	ディスカッションをまとめる	レポートをまとめるためのガイダンス。									
		担当者から一言									

	講義名	人間文化記	人間文化論 B							亀井 若菜/東 幸代/吉村 淳一/ 横田 祥子/谷口 真紀				
講	美コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義						
ナンバ	バリング番号	133LVD10	3,134NUT	103,13	5LAH2021,	37BAC103								
	授業概要													
テー・文 本講	テーマ:「交流する文化、交差するまなざし」 文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ちながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。 本講義では、5人の教員がオムニパス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。 本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。													
	石 心幸 口 極													
文化	到達目標 文化の交流や変容の諸相について理解すること。													
	成績評価													
	種別	割合(%)	評価基準	 等			及線計1	<u> Ш</u>						
7	定期試験	()												
^														
レポート課題 100% ミニレポートもしくは小テストに対する採点														
-	上記以外													
							授業外学	'콥						
							教科書	i						
No		書籍	籍名				著者名			8	出版社		ISBN/ISSN	
1														
2														
3														
特に	なし					•			•			· ·		
							参考書	t						
No		書籍	籍名				著者名			H	出版社		ISBN/ISSN	
1														
2														
3														
その	都度、紹介す	<u></u> る				<u> </u>						L		
							前提学力	等						
							履修資	各						

講義名	人間文化	人間文化論B								若菜/東 幸代/吉村 淳一/ 祥子/谷口 真紀
講義コード	1402550	402550 単位数 2 開講期 後期 授業種別 講義								
ナンバリング番号	133LVD10	133LVD103,134NUT103,135LAH2021,37BAC103								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	新渡戸稲造の文化学術交流その1: 「太平洋の架け橋」の両側	ペアトーク・グル-プワーク・全体発表を交え、なぜ新渡戸(1862-1933)はアメリカで英文著書『武士道』を出版したのかに迫る。(谷口真紀)
第2回	新渡戸稲造の文化学術交流その2: 「国際連盟の星」の明暗	ペアトーク・グル-プワーク・全体発表を交え、なぜ新渡戸 (1862-1933) は植民地台湾での仕事を引き受けたのかに迫る。(谷口真紀)
第3回	新渡戸稲造の文化学術交流その3: 「平和の使徒」の功罪	ペアトーク・グル-プワーク・全体発表を交え、なぜ新渡戸 (1862-1933) は満州事変での日本の立場 を擁護したのかに迫る。 (谷口真紀)
第4回	食文化を通してみる文化交流 1	ファストフードの地域戦略を考える。(横田祥子)
第5回	食文化を通してみる文化交流 2	日本におけるハラールフードについて考える。(横田祥子)
第6回	食文化を通してみる文化交流3	海を渡った中華料理の現地化について考える。(横田祥子)
第7回	日本人の世界観と「鎖国」	日本人の世界観と、その形成要因について考える。
第8回	「鎖国」体制下の対外関係	いわゆる「鎖国」について学ぶ。
第9回	「鎖国」体制下の対外関係	いわゆる「鎖国」の影響について、諸外国との関係や日本人の対外観を考える。
第10回	異文化を象徴する女性像 1	異文化は美術において、女性像を用い象徴的な意味を持たせて表現されることがある。3回を通して その事例を見ていきたい。
第11回	異文化を象徴する女性像 2	女性画家が描く場合(亀井若菜)
第12回	異文化を象徴する女性像3	ジャポニスムの事例(亀井若菜)
第13回	多言語の状況 スイスの事例	言語意識、言語政策、言語教育、言語対立などの観点からドイツ周辺諸国の多言語状況を概観する。 初回は4つの言語を公用語とするスイスの事例を取り上げる。(吉村淳一)
第14回	多言語の状況 ベルギーの事例	3つの言語(オランダ語、フランス語、ドイツ語)を公用語とし、地域別一言語主義という特殊な状況に置かれているベルギーの事例を取り上げる。(吉村淳一)
第15回	多言語の状況 ルクセンブルクの 事例	3つの言語(ルクセンブルク語、フランス語、ドイツ語)を公用語とし、三言語併用社会を形成しているルクセンブルクの事例を取り上げる。(吉村淳一)
		担当者から一言

	講義名	人間文化	論 C						担当教員	宮本遠藤	雅子 / 松嶋弘史 / 横田	秀明 / 尚美 /	中村 好孝 / 未定 *
講	義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義					
ナンバ	バリング番号	133LVD10	4,134NUT	104,13	35LAH203								
	授業概要												
ぞれ こ な問	人間文化論Cでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題ついて考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系3学科(生活デザイン・生活栄養・人間関係)教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について5回講義する(宮本・横田)。次に、現代の「食と栄養」を取り巻く様々この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について5回講義する(宮本・横田)。次に、現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点をとりあげながら、健康を維持・増進するための食生活について5回講義する(生活栄養学科教員)。さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになろうとしているかという現代家族論を5回講義する(松嶋・中村)。												
	到達目標												
す人 (生 。	(宮本・横田) (1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす人体を含む環境への影響に関心を持つことができる。 す人体を含む環境への影響に関心を持つことができる。 (生活栄養学科教員) 現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を踏まえ、健康を維持・増進するための食生活について理解することができる。 。 (松嶋・中村)(1)家族をみるための視点を身につけることができる。(2)現代的社会問題を家族との関連で理解することができる。												
	成績評価												
	種別	割合(%)	評価基準	等									
	定期試験 0												
レ	ポート課題	0											
	上記以外	100	らだの関	係や、) 到達目標(ファッシ: 19%、(2)	ョン産業が [:]	ミの中の暮ら もたらす環境	しとその きへの影	D変化につい 響に関心を持	て理解 [:] きつこと	すること、(だ だができる、に	2) 自分:	が身に着ける衣服とか は、課題レポート
各教 授業	員がそれぞれ 時間数の 3 分	授業中に誤 の1以上欠	関を出す に席した者	ことかは評価	がある。 動対象にした	<u>ټا،</u>							
							授業外学	習					
							#1 2:1 						
No		書	 籍名				教科書 著者名			Ŀ	 出版社		ISBN/ISSN
1													
2													
3													
No		建 :	 籍名				参考書 			L	 出版社		ISBN/ISSN
		百	↑월 니 -				11111			L	ロルバエ		13014/13314
2													
3													
													l
							前提学力	等					
							履修資材	各					
I													

講義名	人間文化	論C					担当教員	宮本遠藤	雅子 / 松嶋 弘史 / 横田	秀明 / 中村	子孝 /	
講義コード	1402560	402560 単位数 2 開講期 後期 授業種別 講義										
ナンバリング番号	133LVD10	4,134NUT1	104,13	5LAH203								

	授業計画								
	タイトル	概要							
- ロxx 第1回	日本の住まい	日本の住宅について概観する。							
第2回	超高齢社会における住環境	超高齢社会における日本の住宅問題について考えるきっかけとする。							
第3回	日本のあかり	日本のあかりの歴史について概観し、現代の照明環境について考える。							
第4回	ファッション消費環境	 衣服は最もからだに近い環境である。その視点から、服と人間とのかかわりについての問題点を考え る。							
第5回	ファッション産業をとりまく環境	毎日からだに身に着ける服がどのような環境で作られているのか、より広い視野で衣服と環境につい て考える。							
第6回	日本人の食事の変遷	日本人の食文化と食事について解説するとともに、現代の日本人の目指す食事について考察する.							
第7回	日本の食糧事情	▼							
第8回	健康食品とサプリメント	近年、いわゆる健康食品やサプリメントが数多く市場に出まわっている。その機能性や摂取法、健康 被害にあわないための注意点などについて述べる。							
第9回	健康を維持増進するため食生活	生活習慣病予防のために、何を・いつ・どのように食べるのかについて述べる							
第10回	「食べる力」=「生きる力」を育 む食育~実践力を育てる~	「食べる力」を育む実践力の強化法について述べる。							
第11回	家族のなりたちと人間の心理	進化心理学、あるいは文化心理学の観点から、人間の家族のもつ特殊性、家族の成立する要件などについて外観する。また、そのことが食生活や、住居の問題といかに密接につながっているのかについ							
第12回	家族を形成する心理	恋愛から結婚、出産というライフイベントを人はどのように経験し、のりこえていくのか。そこに心理学的にどのような問題が生じていくのかについて家族心理学的観点から述べる。							
第13回	家族を維持する心理	出産、育児と、仕事との両立、あるいは父親の育児参加といった問題について、家族心理学的観点から述べる。							
第14回	家族関係の歪みがもたらすもの	家族をいとなんでいくうえで遭遇する障害や病理、具体的には愛着の問題、産後うつ、思春期の不過 応などについて述べる							
第15回	家族関係の社会学	家族関係が社会関係により、いかに相互に影響されあっているのかについて、社会学的観点から述べる。							
		担当者から一言							

講義名	比較衣装	論					担当教員	横田 尚美	
講義コード	1402630	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133FSD16	1							
授業概要									
衣食住の中の衣は 文明が生まれてか	 、生活デサ ら今日まて	インを構	成する化を開	 東要な要 代ごとに	 素である。 比較しながら	 S論じること	で、そ	 れぞれの時代	の服飾の必然を知る。

そのことが現在を理解する鍵となり、未来を考えるヒントになる。 時代時代の歴史やデザインとともに論じるので、デザインのインスピレーション源にもなる。 服飾を通じて、生活デザイン全般や世界の歴史を理解する一助とする。

到達目標

- (1) 歴史の流れを把握できる。 (2) 服飾の変化を歴史の中に意味づけられる。 (3) 服飾の変化のポイントが理解できる。 (4) 時代ごとの他のデザイン分野との関わりが理解できる。 (5) 各回ごとのポイントが理解できる。 (6) 現在や未来の社会の動きに関心を持つことができるようになる。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	92	(1)~(4)について、授業内容の理解度を定期試験で計る。それぞれ23%とする。									
レポート課題											
上記以外	8	(5)については、リアクションペーパーで評価する。 各回の内容を理解しているか、授業に積極的かを評価する。									

3分の1以上を特段の理由なく欠席した場合は、評価の対象としない。 定期試験の結果とリアクションペーパーの内容に基づいて、100点満点中60点以上を合格とする。

授業外学習

講義の終わりに、次回の内容に関する質問を出し、それについて次回までに考えをまとめてくるように指示する場合がある。 毎回、様々な展覧会などを紹介するので、自主的かつ積極的に足を運ぶことが望ましい。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	カラー版世界服飾史	深井晃子	美術出版社	978-4+568-40077-9							
2	20世紀からのファッション史	横田尚美	原書房	978-4-562-04773-4							
3											

	参考書										
No	書籍名	出版社	ISBN/ISSN								
1											
2											
3											

高校の社会科の教科書や資料集などを持っていれば、参考にしてほしい。

前提学力等

講義名	比較衣装	論					担当教員	横田 尚美	
講義コード	1402630	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133FSD16	i1							

7779.		授業計画
 回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	
第2回	古代の服飾1	古代エジプト、メソポタミアの服飾とその背景を知る。
第3回	古代の服飾2	古代ギリシア・ローマの服飾とその背景を知る。
第4回	中世の服飾	ヴィザンチン帝国の服飾、ロマネスク時代の服飾について、その背景とともに理解する。
第5回	中世~近世の服飾	ゴシック時代の服飾とその背景を知る。 ゴシックからルネサンスへの過渡期の服飾と背景、ルネサンスについて学ぶ。
第6回	近世の服飾1	ルネサンスの服飾とその背景、大航海時代の服飾とその背景を知る。
第7回	近世の服飾2	オランダ市民社会の服飾とその背景、バロック時代の服飾とその背景を知る。
第8回	近世の服飾3	ロココ文化とその時代の服飾について学ぶ。 産業革命とイギリス趣味の流行、その時代の服飾について学ぶ
第9回	近世の服飾4	フランス革命の背景と服飾の意味、その後の時代の服飾について学ぶ。
第10回	近代の服飾1	新古典主義とエンパイアスタイル、ダンディズムについて学ぶ。
第11回	近代の服飾2	ロマン主義の流行とその時代の服飾について学ぶ
第12回	近代の服飾3	近代化と新しい産業であるデパートや既製服産業と、その時代の服飾について学ぶ。
第13回	近代の服飾4	オートクチュールとクリノリンスタイルについて、その背景とともに学ぶ。
第14回	近代の服飾5	ジャポニスムとバッスルスタイルについて、その背景と共に学ぶ。
第15回	まとめ	古代から近代までの変化を確認する。
	•	担当者から一言

講義を受ける態度などについては、初回に説明する。

講義名	比較道	具論						担当教員	面矢	慎介			
 講義コート	14026	30 単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義						
ナンバリング	番号 133TL	0141				•							
						授業概	要						
比較文化の視点から道具を考察する基本的視点の解説。個別的文化をこえて生活道具の多様性を理解するため、世界各地の生活用具をとりあげて日本の生活用具と比較し、その相違をもたらした文化的・技術的背景について考察する。日本および世界各地の伝統的道具ばかりでなく、近代化以降の道具、大量生産による現代製品についても取り上げる。比較の対象領域としては、わが国の近代化以前の道具文化との関連の深い朝鮮半島、および近代化以後の主要な文化移入元のひとつであった英国、第二次世界大戦後の工業製品において日本に強い影響をもたらした米国などを中心とする。													
	到達目標												
生活文化と道具デザインの密接な関係についての認識を深める。(1)授業内容を理解し要点をまとめられる。(2)授業内容に対して自分の意見や感想を述べることができる。(3)授業に関係する文献を読み、内容をまとめ、考察を加えることができる。(4)1つの道具について自分で調べ、その結果を文章にまとめることができる。													
	成績評価												
種別	割合(%) 評価基準	集等										
定期試験	0												
レポート課	題 60	期末レ	ポート										
上記以外	40	コメン	カー	ド(15%) と小レポ	ート(3本	,計25	%)					
- 授業時間数の	3分の1以	上欠席した者	がは評価	対象とし	ない。								
						授業外学	学習						
毎回の授業終	了時にコメン	ノトカードを	E回収										
					ı	教科書	ŧ	-				1	
No		書籍名				著者名				出版社		ISBN/ISS	N
1													
2													
3													
						参考書	ŧ						
No		書籍名				著者名			E	 出版社		ISBN/ISS	N
道具学^	の招待				道具学叢書	書委員会		ラトルス				978-4-89944-1	85-2
2 おまるた	いら始まる道	 具学			村瀬春樹			平凡社新	折書				
3													
						前提学力	力等						
						履修資	格						

講義名	比較道具	論					担当教員	面矢 慎介	
講義コード	1402680	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133TLD14	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	比較道具論の視点	道具の多様性、伝播と進化(便器と便所)
第2回	民具の概念	民具研究の事例(藁の文化ほか)
第3回	日本の伝統的道具 1	火鉢とこたつ
第4回	ヨーロッパの伝統的道具	調理と暖房の火の設備
第5回	日本の伝統的道具 2	鍋と鉄鋳物
第6回	モンゴルの住居と道具	ゲル、ゲル内の民具
第7回	体験学習(今年度は行わない)	モンゴルゲルの解体(今年度は行わない)
第8回	中国・朝鮮半島・日本のすわる文 化	椅子、オンドル、ちゃぶ台
第9回	道具の近代化 1	イギリスの鍋
第10回	道具の近代化2	電気やかんと魔法瓶
第11回	大学におけるレポートとは何か	レポートの書き方、資料の集め方
第12回	道具の近代化3	真空掃除機
第13回	道具の近代化4	風呂
第14回	研究事例の紹介	研究事例の紹介
第15回	小道具のアノニマスヒストリー	ガラスびん、授業全体の総括
		担当者から一言

講義名	服飾文化	論					担当教員	横田 尚美	
講義コード	1402780	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233FSD26	5							

授業概要

服飾文化について、服飾文化史、社会と服飾産業という観点から紹介する。 現在のファッションの原点を知る。 ファッションとは異なる服飾文化の側面に気付かせる。 特に第2次世界大戦後については、ファッションビジネスの変化についても注目する。 時代時代の歴史やデザインとともに論じるので、デザインのインスピレーション源ともなる。

到達目標

- (1)20世紀から現在に至る歴史の流れを把握できる。 (2)ファッションの変化を歴史の中に意味づけられる。 (3)20世紀初めから現在のファッションに至る過程が、社会の変化とともに理解できる。 (4)時代ごとの他のデザイン分野との関わりが理解できる。 (5)各回ごとのポイントが理解できる。 (6)現在とこれからの社会や文化の変化に関心が持てるようになる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	92	(1)~(4)について、授業内容の理解度を定期試験で計る。 複合的な内容の試験によって、理解度を計る。
レポート課題		
上記以外	8	(5)については、リアクションペーパーで評価する。 各回の内容を理解しているか、授業に積極的かを評価する。

3分の1以上を特段の理由なく欠席した場合は、評価の対象としない。 定期試験の結果とリアクションペーパーの内容に基づいて、100点満点中60点以上を合格とする。

授業外学習

講義の終わりに、次回の内容に関する質問を出し、それについて次回までに考えをまとめてくるように指示することがある。 毎回、様々な展覧会を紹介するので、自主的かつ積極的に足を運んでほしい。

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	カラー版世界服飾史	深井晃子	美術出版社	978-4-568-40077-9								
2	20世紀からのファッション史	横田尚美	原書房	978-4-562-04773-4								
3												

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

高校の社会科の教科書や資料集などを持っていれば、参考にしてほしい。

前提学力等

比較衣装論を受講していることが望ましい。

講義名	服飾文化	論					担当教員	横田	尚美	
講義コード	1402780	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	233FSD26	5								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	比較衣装論の内容を確認し、服飾文化論の内容を紹介する。
第2回	近代の服飾1	1880年代~1890年代の服飾とその背景を学ぶ。
第3回	近代の服飾2	アールヌーヴォーとS字シルエットについて、その背景とともに学ぶ。
第4回	20世紀初期のファッション	20世紀初めの服飾とその背景を学ぶ。
第5回	第一次世界大戦とファッションの 変化	第一次世界大戦前後の服飾とその背景を学ぶ。
第6回	1920年代のファッション	1920年代の服飾について、アールデコなどの時代背景とともに学ぶ。
第7回	1930年代のファッション	世界恐慌以降1930年代の時代背景と服飾について学ぶ。
第8回	1940年代のファッション	日本と西欧の第二次世界大戦前~後の服飾について、その時代背景とともに学ぶ。
第9回	1950年代のファッション	1950年代のオートクチュール全盛期の時代背景と服飾について学ぶ。
第10回	1950年代~60年代初めのファッション	若者文化の生まれた1950年代~60年代の時代背景と服飾について学ぶ。
第11回	1960年代前半のファッション	大衆文化の花開いた1960年代前半の服飾と時代背景について学ぶ。
第12回	1960年代後半のファッション	ベトナム戦争の影響などを受けた1960年代後半の文化と服飾について学ぶ。
第13回	1970年代のファッション	1970年代の服飾について、その時代背景とともに学ぶ。
第14回	下着セミナー(特講)	(株)ワコールの方を招いて、会社の歴史と下着について体験的な講習をしていただく。
第15回	まとめ	20世紀から現在までの服飾文化について、時代の変化とともに確認する。
		I 担当者から一言

講義を受ける態度などについては、初回に説明する。 服飾文化を扱うという性質上、世界の情勢やトレンドにより、内容を変更して、時機に応じた内容を取り上げることがある。

	講義名	服飾心理等	学					担当教員	横田	尚美			
講	義コード	1402800	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義					
ナンノ	「リング番号	333FSD262	2										
							授業概要	Ē					
様々7 服飾、	様々な服飾、服飾に関わる人間の行為などを通して、服飾と人間の関係について考える。 服飾、またはファッションが人間の心理に与える影響を自覚し、社会を理解する一助とする。												
(1)	到達目標 (1) それぞれのテーマに問題意識を持つことができる。												
(2)	服飾が持つ心	理的な力を	^{選思識を持} を客観的か	つ総合	かに分析	。 し、理解す	ることができ	きる。					
							成績評価	<u> </u>					
	種別 割合(%) 評価基準等												
Į.	E期試験												
	₽ 1 ±885		冬休みと	期末に、	レポー	ト課題を課	す。						
ν.	ポート課題	90	(2) [2]	コハてと	、レボー	・トの書きア	だっいて評価	曲する。					
-	上記以外	10	(1)にこ	ついては	、リアク	ションペー	-パーによって	て計る。					
3 分 の	11以上を特段	の理由なく	夕度した	변수(t	証価の∜	付象とした	I. 1						
レポ・	ートとリアク	ションペー	パーの内容	容に基づ	がて、1	00点満点中	い。 960点以上を台	格とす	ける。				
							授業外学						
授業(毎回、	の内容につい 様々な展覧	て具体的な 会を紹介す	(テーマを) るので、	与え、事 自主的か	事前に考え いつ積極的	えてくるよ りに足を運	うに指示する んでほしい。	ことが	ある。				
					ļ		教科書						
No	ファッション		籍名			横田尚美	著者名		丸善丸善出版		出版社		ISBN/ISSN
1		25/20				操田问天			九百山加	× 			4-621-07250-1
2													
3													
													<u>l</u>
							参考書						
No		書籍	======= 籍名				著者名			E	 出版社		ISBN/ISSN
1													
													
2													
3													
授業	授業に使用する資料を持参してもらうことがある。												
	前提学力等												
	履修資格												

講義名	服飾心理	 学					担当教員	横田 尚美		
講義コード	1402800	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	333FSD26	2								

		位光≐1四
	タイトル	
第1回	オリエンテーション	横安
第2回	服を着る意味	服を着る意味を、意見を出し合い、また映像を視聴することで考える。
第3回	現物史料が与える心理的側面	 京都服飾文化研究財団の展示を見学し、その展示品から当時の製作者や着用者の心理や見学者の心理 について考える。
第4回	ファッションショーと服飾心理	最新の東京コレクションの映像から、ファッションデザインが見る人にもたらす心理的側面について 考える。
第5回	1960-70年代のファッションと心理 的背景	1960-70年代のファッションを社会背景と若者の心理とともに理解する。
第6回	1980年代のファッションと心理的背景	1980年代のファッションを社会的背景とファッション消費者の心理とともに理解する。
第7回	1990年代以降のファッションと心 理的背景	1990年代のファッションを社会的背景とファッション消費者の心理とともに理解する。
第8回	ファッション消費者心理とファッ ションビジネス1	ファッション消費者心理を理解するための知識として、ファッション業界の概要と仕事の流れをを学ぶ。
第9回	ファッション消費者心理とファッ ションビジネス2	ファッション消費者心理を理解するための知識として、ファッションシステムを理解する。
第10回	ファッション消費者心理とファッ ションビジネス3	ファッション消費者心理を理解するための知識として、ファストファッションやラグジュアリーブランドのブランドビジネスのシステムについて学ぶ。
第11回	ファッション消費者心理とファッ ションメディア1	ファッションの雑誌やサイトを題材に、ビジネスのシステムとファッション消費リテラシーについて 考える。
第12回	ファッション消費者心理とファッ ションメディア2	前回の内容をふまえて、実際にサイトや雑誌で確認する。 民族服飾が表す情報と着用者の心理について学ぶ。
第13回	民族服飾と心理2	映像を用いながら、より深く民族服飾が表す情報と着用者の心理について学ぶ。
第14回	民族服飾と心理3	特にイスラム教徒と服飾について学ぶ。 また民族服飾を実際に見たり着用したりすることにより、着用した時の心の動きを体感する。
第15回	服飾デザインに対する問題意識	卒制卒論発表会を見学することで、身近な先輩が服飾デザインについて持っている問題意識を知る。 そのことによって、研究の心理的背景を考える。
		担当者から一言

さまざまな学科の学生を歓迎する。 服飾心理という性質上、世界の情勢やトレンドにより、内容を変更して、時機に応じた内容を取り上げることがある。

講義名	服飾	造形	論					担当教員	森下	あおい	
講義コード	1402	2830	単位数	2	開講期	前期	授業種別 講義				
ナンバリング都	5号 333F	FSD26	1								
							授業概要				
衣服は体形を製紙の展開、パイ	衣服は体形を基にデザインに応じたパターンが服種やディテールにおいて様々に設計される。この授業では衣服設計に必要な衣服型紙の基本形、型 紙の展開、パターン構造や作成方法について理解する。各回では、身頃、衿、袖、スカート、パンツの形状や、主要なシルエットとデザインとの関 係を説明する。特に基本的な型紙の形状と展開方法は、演習形式で学びながら、衣服の立体性を把握する。										
孫を説明 9 る。 	特に歩4	ትዚ ባ	型紙の形	水では	開力法は	、凍留形式(で子ひなから、衣服	3の立体性を把	握りる	•	
(1)人体とで (2)デザイン	大服パタ- ンに対する	ーン形 るパタ	が状の相互 マラン展開	関係の理解)理解 }						
(= // / /	, _,,,,,		- 700713		•						
	成績評価										
種別	割台	≩(%)	評価基準	等							
定期試験											
レポート課題	ī o	デザインとパターンについての情報を収集してまとめる									
上記以外	8	0	各回で学 	:3()(3	アーン作成	理論を実践的	的に理解している <i>た</i>	か、ふりかえり	テスト	・にて確認する	
授業の3分の	 1 以上欠原	第した	<u> </u> :ものは評	価の対	象としな	l I					
							10米八丁日				
							 教科書				
No		書籍	籍名				著者名		Н	出版社	ISBN/ISSN
1											
2											
3											
						<u> </u>					
							参考書				
No		書籍	籍名				著者名		Н	出版社	ISBN/ISSN
1											
2											
3											
[*] 授業中に参考:	プリントを	を配布	します								
							前提学力等				
	履修資格										
		_									

講義名	服飾造形	服飾造形論								あおい
講義コード	1402830	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	333FSD26	1								

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	人体と衣服の基本形	衣服の造形要素、作図の方法とストレートスローパー、タイトスローパーとデザインへの展開について									
第2回	衣服のシルエット	身頃のさまざまなシルエットとパターンについて									
第3回	デザインの要素(1)	立体化技法(ダーツ・ギャザー)について									
第4回	デザインの要素(2)	立体化技法(ドレープ・フレアー・プリーツ)について									
第5回	衿の基本形	衿の造形要素について									
第6回	衿のパターン(1)	衿のデザインとパターン展開について (シャツカラー)									
第7回	衿のパターン(2)	衿のデザインとパターン展開について (テーラードカラー)									
第8回	袖の基本形	袖の造形要素について									
第9回	袖のパターン	袖のデザインとパターン展開について									
第10回	スカートの基本形	スカートの造形要素について									
第11回	スカートのパターン	スカートのデザインとパターン展開について									
第12回	ドレーピングについて	ドレーピングによる表現について									
第13回	ドレーピングのデザイン(1))	事例研究									
第14回	ドレーピングのデザイン(2)	事例研究									
第15回	まとめ	ふりかえり									
		担当者から一言									
											

	講義名	服飾デザ	イン演習					担当教員	森下 あおい		
請	講義コード	1402860	単位数	2 開講期	前期	授業種別	演習				
ナン	バリング番号	233FSD26	4								
						授業概要					
こ素態	この授業では、体形と衣服の形態、ゆとり量の関係を、衣服パターンの各部位の形状から理解する。作品制作によって、服種とデザインに合わせた素材の選択、印つけ、裁断方法を把握し、さらに基本的な縫製技術を習得する。全体を通じて順序だててものづくりの流れを理解する。また着用状態を観察し評価の視点を学ぶ。										
	到達目標										
(1 (2 (3	到達目標 (1)体形に対する衣服のゆとりと立体化について理解する (2)パターン理論と縫製技術を習得する (3)着用評価の視点を学ぶ										
	成績評価										
	種別	割合(%)	評価基準等	等							
7	定期試験										
レ	ポート課題 20 パターン作図、裁断、縫製方法を理解しているか。										
	上記以外	80	課題を適切	刀な方法で時	間内に制作で	きているか。					
3分 <i>0</i> 遅刻											
						授業外学習	3				
課題	については、	授業外で準	賃備をするこ	とや宿題に	よって進める劇	必要がある。					
NI-		= 4	20 A7		T	教科書		<u> </u>	1114571	1000//1000	
No	文化ファッシ		籍名 服飾造形詞	<u></u> 講座3 ブラ	文化服装学	著者名		文化出版	出版社 i局	ISBN/ISSN	
1	文化ファッシ ウス・ワンヒ	ピーズ	33.67.272			1707119		7110=1111		4-579-10839-6	
3											
					1						
						参考書					
No		書籍	———— 籍名			<u></u> 著者名			出版社	ISBN/ISSN	
1											
2											
3											
	前提学力等										
	履修資格										

講義名	服飾デザ	服飾デザイン演習								あおい
講義コード	1402860	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習			
ナンバリング番号	233FSD26	4								

授業計画										
回数	タイトル	概要								
第1回	パターンの作成	シャツとスカートのデザイン、原型からの作図を学ぶ								
第2回	印つけと裁断 (シャツ)	生地の印つけ、シャツの裁断方法を学ぶ								
第3回	縫製 (ダーツと肩合わせ)	ダーツと肩合わせによって身頃形状を理解する								
第4回	見返しと衿の裁断と芯貼り	見返しと芯地の役割を学ぶ								
第5回	衿づくり (1)	衿作りの方法を学ぶ								
第6回	衿づくり(2)	衿作りの方法を学ぶ								
第7回	衿つけ	衿と身頃の立体的関係を理解する								
第8回	脇縫いと袖づくり	袖の立体化の手法を学ぶ								
第9回	袖つけ	袖つけと身頃の始末を学ぶ								
第10回	仕上げ	裾上げやボタンつけなどの方法を学ぶ								
第11回	印つけと裁断(スカート)	生地の印つけ、スカートの裁断方法を学ぶ								
第12回	縫製	脇縫いとファスナーつけ								
第13回	縫製	ベルトつけ								
第14回	仕上げ	カギホックと裾上げ								
第15回	合評	着用評価・まとめ								
		担当者から一言								

講義名	服飾デザ	イン演習						担当教員	横田 尚美
講義コード	1402870	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233FSD36	51							
授業概要									
服飾が、それぞれ	の時代の中	ヮゟゟ	うな生	活デザイ	ンの中で身に	こつけられて	いるか	を、映画や文	学のストーリーの中で理解することで、服飾デザ

版師が、代われているからなっては、アインの中で学につけられているがを、映画で文字のストーインの発想に活かすための演習を行う。 現存する衣装、当時のファッション雑誌などの一次資料も活かしながら、調査し、発表する。 服飾文化についてのレポート課題により、論理的に考察する力とルール通りにレポートを作成する力を養う。 基礎服飾デザインに続き、ジャケットやワンピースの解体を通して、さらに服の構造を理解する。 最後に、課題の製作物や論文について発表し、批評し合う。

到達目標

- (1)原作が楽しめ、理解できる。 (2)原作に登場する生活デザインなどの文化を窓口に、視野を広げることができる。 (3)原作に登場する服飾について関心を持ち、生活デザイン全体の中で理解できる。 (4)原作について、分析的なレポートがルールに則って作成できる。 (5)3つのアイテムの構造などが理解できる。 (6)時代背景とその時代の服飾デザインを理解し、応用して服飾デザインなどを発想したり、研究課題を考えて研究したりすることができる。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験											
レポート課題	30	(4)について、内容(15%)、書き方(15%)で評価する。									
上記以外	70	(1)~(3)、(5)については、授業態度や発表の内容、リアクションペーパーで評価する。(20%) 発表会の課題で評価する。(50%)									

授業外学習

9回から13回については、分担した部分の服飾を含む様々な歴史や文化について、グループワークと各自の活動によって調査を行う。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

初回に決定した文学作品を購入する。文庫本の予定である。

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

講義の中で適宜、紹介する。

前提学力等

比較衣装論、服飾文化論、服飾デザイン演習 を受講していることが望ましい。

講義名	服飾デザ	イン演習					担当教員	横田 尚美	
講義コード	1402870	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233FSD36	1							

, , , , , , ,		
	I	
回数	タイトル	
第1回	オリエンテーション	演習の方法を説明し、受講者が取り組む文学作品を選ぶ。
第2回	事前学習1	取り組む作品を描いた映像でストーリーを知る。
第3回	事前学習2	前回視聴した部分の問題などを解決し、続きを視聴する。
第4回	作品購読の導入	前回視聴した部分の問題などを解決し、映画全体を通して、文化、生活デザイン、服装を概観する。 作品を受講者で輪読し、作品世界を知る。
第5回	現存資料の学習1	作品を理解するための手段として、現存する衣服の資料について、見学を通して理解を深める。
第6回	ワンピースの学習	ワンピースの解体を通して、ワンピースの構造を知る。
第7回	ジャケットの学習	ジャケットの解体を通して、ジャケットとテーラードカラーの構造を知る。
第8回	コートの学習	コートの解体を通して、コートの機能性と構造を知る。
第9回	服飾と文化についての発表1	輪読の際に指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。次の部分について、事前 に講読し、服装や文化について指摘する。
第10回	服飾と文化についての発表2	前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。次の部分について、事前に講読 し、服装や文化について指摘する。
第11回	服飾と文化についての発表3	前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。次の部分について、事前に講読 し、服装や文化について指摘する。
第12回	服飾と文化についての発表4	前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。次の部分について、事前に講読 し、服装や文化について指摘する。
第13回	服飾と文化についての発表5	前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。
第14回	課題製作	各自がテーマと内容を決めて、演習のまとめとなる課題に取り組む。
第15回	発表会	取り上げた作品の生活デザインや時代背景についての課題作品や論文を発表し、評価し合う。
		扣出来がた一章
		担当者から一言

専攻する予定の分野を問わず、多くの学生に受講してほしい。 選ぶ原作によっては、関連する展覧会や施設の見学などを更に行う場合がある。

講義名	服飾デザ	イン演習					担当教員	森下	あお	11/	法月	紀江		
講義コード	1402880	単位数	2	開講期	前期	授業種別 演習								
ナンバリング番号	333FSD36	2												
						授業概要	•							
この授業では、デ すためのリサーチ インと作図、素材 行う。														
	到達目標													
到達目標 (1)テーマに対するリサーチとアイデアの展開力 (2)デザインと素材の関係を把握する力。 (3)コンセプトを作品として明確ににまとめる力。														
	成績評価													
種別														
定期試験														
レポート課題	レポート課題 20 テーマに対するリサーチとアイデアをレポートにまとめる。													
上記以外	80	コンセブ	プトに基	ţづいて、:	形態、素材、	色彩の関係を、	明確にまとめる	らている	るか、	作品I	こて評	呼価する	3	
授業を3分の1以	上欠席した	場合は、討	平価の対	対象としな	<i>()</i> ا									
						授業外学習								
						教科書								
No	書	籍名				著者名 ————————————————————————————————————		t	出版社	:			ISBN/ISSN	
1														
2														
3														
1							ı							
						参考書								
No	書	籍名				著者名		Ł	出版社	:			ISBN/ISSN	
1														
2														
3														
 														
						前提学力等								
	履修資格													

講義名	服飾デザ	服飾デザイン演習								あおい/法月	紀江	
講義コード	1402880	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習					
ナンバリング番号	333FSD36	2										

授業計画											
回数	タイトル	概要									
第1回	ワンピースの基本パターン	ワンピースの基本パターンとデザインについて ウエストの位置による変化を学ぶ									
第2回	ワンピースのパターン展開	ワンピースのパターン展開。プリンセスラインとパネルライン、シフト型シルエットについてを学ぶ									
第3回	基本ワンピースの組み立て	ワンピースの基本形の組み立て、テーマとデザインについてディスカッションする									
第4回	デザイン検討	シルエットの確認からパターンを検討する									
第5回	ワンピースの組み立て(1)	パターン作成と組み立てを行い、ディテールと素材を検討する									
第6回	ワンピースの組み立て(2)	試作品の評価、デザインと素材の決定									
第7回	デザインと素材の確認	テーマ、デザインと素材を確認する									
第8回	裁断	裁断									
第9回	印つけ	印つけ									
第10回	縫製(1)	縫製									
第11回	縫製(2)	縫製									
第12回	縫製(3)	縫製									
第13回	縫製(4)	縫製									
第14回	仕上げ	合評									
第15回	まとめ	まとめ									
		担当者から一言									

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

	講義名	服飾デザ	イン論						担当教員	森下	あおい		
講	義コード	1402900	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義					
ナンノ	バリング番号	233FSD26	3										
							授業概要	į					
服飾めに	デザインは、 必要な人体と	社会生活を 衣服形態の	背景に、 基礎知識	着用目を学び	的に応じ 、現代	た機能性とそのライフスク	審美性を技術 タイルの中で	や芸術 の服飾	・文化を総合 製品の生 <u>産、</u>	して表 消費、	現する。こ における誤	の授業では、 課題を、グル-	デザインを行うた - プワークを行いな
がら	養う。さらに	実践的な力	を身につ	けるた	:めに、デ	ザインのアイ	イデアの抽出	方法や	テーマの展開	、表現	技法につい	てを学ぶ。	
							7小夫 口 4年	=					
(1) 服飾デザイ:	 ンが関わる	多面的要	<u></u> 素を理	 解する		到達目標						
(2)	(2服飾デザインの課題を考察する (3)服飾デザインのリサーチからアイデア展開、表現の流れを理解する												
	4 中	割合(※)	☆/無甘油	- <u>^</u> -			成績評価	Ī					
	種別	割合(%)	評価基準	- ज									
Ā	定期試験												
レ7	レポート課題 60 テーマに対する調査資料を収集し、自らの意見が述べられるか。												
	=		服飾の多	面性と	·構成要素	・	 意見交換がで	きるか	\.				
-	上記以外	40	NIX WIP VO 3	штс	- 1 11 17, 52 75	: C 72/17 O (C 013	•				
	.		<u>I</u>										
							授業外学習	12					
							10米月子日	=					
							教科書						
No		書籍	籍名				著者名			Н	出版社		ISBN/ISSN
1													
2													
3													
3													
							4 * * *						
No			 籍名				参考書 著者名			<u>H</u>	 ¦版社		ISBN/ISSN
1													
2													
3													
授業	中にプリント	を配布しま											
							前提学力等	等					
							履修資格	i					

講義名	服飾デザ	イン論					担当教員	森下	あおい	
講義コード	1402900	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	233FSD26	3								

<i>, , ,</i> , , , , , , , , , , , , , , , ,	フク笛号 233/30/203										
ED ##	h / L II	授業計画									
回数	タイトル はじめに	概要 概要 服飾デザインの目的と役割を学ぶ。									
第1回											
第2回	人と衣服(1)	人と衣服デザインの関係をファッションの事例から理解する。									
第3回	体形と衣服(2)	体形と衣服デザインの関係を機能的な衣服の事例から理解する。									
第4回	衣服の形態	衣服の構造とシルエットの構成要素、プロポーションとディテールをはじめとして造形原理を理解する。									
第5回	素材と色彩	衣服素材、テキスタイルについて、特徴、役割、用途の視点で学ぶ。									
第6回	生産の現状と課題(1)	服飾製品の生産について、生産者、消費者の視点で現状を把握する。									
第7回	生産の現状と課題(2)	服飾デザインの創造性について、着用者、用途、目的の違いにおいて現状を把握する。									
第8回	生産の現状と課題(3)	服飾デザインの創造性に関わる課題について、グループごとに意見交換し考察する。									
第9回	消費の現状と課題(1)	服飾製品の生産、購入、消費の実態について、現状を把握する。									
第10回 消費の現状と課題(2) 服飾製品の廃棄に関わる社会的責任について、課題を考察する。											
第11回 消費の現状と課題(3) 服飾製品の消費に関わる課題について、グループごとに意見交換し考察する。											
第12回	デザインの実践のプロセス	作品事例により、デザインのためのリサーチとアイデアの展開法、コンセプトを考察する。									
第13回	デザインの実践の技法 作品事例により、デザイン画、プレゼンテーションの様々な表現を学ぶ。										
第14回	デザインの実践	テーマに対するデザインを作成し提案する。									
第15回	まとめ	ふりかえりとまとめ									
		 担当者から一言									

授業を3分の1以上欠席した場合は評価対象にしない

講義名	プレゼン	テーション	ン技法				担当教員	印南 比呂志/南 政宏	
講義コード	1402910	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD20)3							

授業概要

デザイン、建築、映画、アートなどさまざまな表現手法について、それらの専門分野毎に制作作業のプロセスや、基本的技術、考え方などを講義する。グラフィック分野の編集工学として、タイポグラフィ、写真、印刷、造本、映像、DTP、WEBなどの分野の表現技術について学ぶ。また立体表現手法については、スタディモデルから、プロトタイプモデルまでの制作過程を実際に実演しながら説明していく。生活デザイン学科以外でもプレゼンテーション技術について役立つ講義内容もある。講義テーマによっては現場で活躍する専門家を外部講師として招聘する。演習授業ではなく、講義形式の授業ではあるが、常に実践事例をもとに講義をすすめていく。

到達目標

映像やグラフィック、模型の表現におけるリテラシーと技術について、基礎的な知識を身につける。前半は表現技術の歴史や作品性を中心に講義を 進める。後半は実践的な技術を身につけるための講義を行う。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	なし。
レポート課題	60	毎回の授業において、授業の終了前にレポートを提出させる。
上記以外	40	簡単なプレゼンを宿題として課す。

5分の1(3回)を超えて欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

毎回の授業テーマを確認して作家の業績を書籍やウエブサイトで検索して確認しておくこと。そして、毎回提示された作品を再閲覧、確認すること。。

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

特になし

		参考書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日常にひそむ数理曲線	佐藤雅彦 + ユーフラテス	小学館	978-4-09-480310-5
2	明和電機魚器図鑑	土佐正道 土佐信道	NTT出版株式会社	4-87188-533-XC0076
3	眼の狩人	大竹昭子	新潮社	4-10-602401-2

映像DVDについて、授業で上映できないものがあるため、個人で閲覧を勧めるものがある。

前提学力等

ものごとをわかりやすく説明できる力があれば良い。

講義名	プレゼン	テーション	ン技法					担当教員	印南 比呂志/南 政宏	
講義コード	1402910	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義			
ナンバリング番号	133LVD20	3								

<i>ナン</i> ハリ.	フク留号 133に 10203	
		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション・魅力あるわ かりやすいプレゼンテーションと	グラッフィク、アニメーション、写真、映像、立体表現、音楽を駆使したプレゼンテーション技術を中心に現代のプロジェクションマッピングやモーショングラフィックまでを考える。
第2回	デザイン、アート、パフォーマン スなどのメディア表現について	佐藤雅彦の作品(ピタゴラスイッチ、日常にひそむ数理曲線、多くのCM表現)、明和電機の商品(ツクバシリーズ、NAKIシリーズ)のプレゼンテーション、パフォーマンス表現を中心に考える。
第3回	アニメーションによる表現につい て・1	日本のアニメプロダクション(スタジオジブリ、プロダクションIG、STUDIO 4 、マッドハウス、GAINAX、ロボットなど)の映画、TV、CM作品を中心に映像表現のスタイルを考える。
第4回	アニメーションによる表現につい て・2	海外のアニメーション(ピクサーアニメーションスタジオ、ディズニー、ドリームワークスなど)の 作品の歴史と世界戦略を考える。
第5回	実験映像による表現について 印南担当	アニメーション技術の展開。ユーリ・ノルシュテイン、チャールズ・イームズ、ノーマン・マクラーレン、佐藤義尚、山村浩二、マイケル・デュドク・ドウ・ヴィット、ルネ・ラルーなどの作品を考え
第6回	写真というメディアがもつ力と写 真家という職能について	報道、広告、建築、アートなど、専門特化した写真家の作品を考える。ロバート・キャパ、ユージン ・スミス、岡村昭彦、アンリ・カルティエ・ブレッソン、ロバート・メイプルソープ、森山大道、植
第7回	映画のリアリズム表現について 印南担当	ジョルジョ・メリエスによる創世記にはじまり、トーキーの時代から1930年代から1960年代の作品(チャールズ・チャップリン、フランク・キャプラ、小津安二郎、イタリアのネオレアレスモの作
第8回	環境グラフィックについて 印南担当	サイン計画(廣村正彰、原研哉、GK)、色彩計画(ジャン・フィリップ・ランクロ)、シークエンス デザイン(韓亜由美)らの作品について考える。
第9回	書体について 南担当	書体やフォントについて活用術を学ぶ
第10回	モデル制作 南担当	各種モデルの作り方について実演する
第11回	印刷データの作り方 南担当	印刷データの作り方を学ぶ
第12回	建築でのプレゼン コンセプト 南担当	建築系コンペを題材にプレゼンテーションを学ぶ
第13回	道具でのプレゼン コンセプト 南担当	プロダクトやパッケージなどのコンペを題材にプレゼンテーションを学ぶ
第14回	写真撮影術 南担当	写真撮影の方法やカメラ基礎について学ぶ
第15回	スライドプレゼンテーション 南担当	投影資料スライド資料を用いたプレゼンテーションについて
		担当者から一言

後半は、一年生履修の、基礎設計製図と関連して進めるため、授業内容が前後することがある。

	講義名	マーケティ	ィングリ	ナーチ	演習				担当教員	山田	步			
講	義コード	1402999	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習						
ナンバ	バリング番号	233MKD38	1											
							授業根							
ンを の接 する	企業やブランドは私たち生活者と様々な方法でつながろうとしています。心に残るCMや、フォローしたくなるアカウント、また、思わず開封しくなるダイレクトメールは、どのような切り口をもとに作られているのでしょうか。企業やブランドと生活者の間で交わされるコミュニケーショとマーケティング・コミュニケーションと呼びますが、効果的にコミュニケーションを行うためには、生活者を深く理解し、生活者とブランドとり接点を発見し、それらを適切にコミュニケーションに落とし込む必要があります。この演習では、生活者理解と生活者とブランドとの接点を発見であるためのリサーチを学びます。リサーチを企画・実施することを通して、生活者とブランドとの接点がどのようになされているかについて理解を認めます。													
₹-	ーケティングリサーチの考え方と手法を理解したか。また、それを応用できるか。													
	1 4 Dil	刺人 (4)	÷=:/=:+:::	- ^-			成績評	严価						
	種別	割合(%)	評価基準	寺										
፟፟፟፟	定期試験													
レ	レポート課題													
	上記以外													
							授業外:	学習						
							教科	書						
No		書籍	籍名				著者名			Н	出版社			ISBN/ISSN
1														
2														
3														
						1			<u> </u>				<u> </u>	
							参考	書						
No		書籍	籍名				著者名			Н	出版社		-	ISBN/ISSN
1														
2														
3														
							前提学	力等						
							履修資	路格						

講義名	マーケテ	ィングリヤ	ナーチ	演習			担当教員	山田 歩	
講義コード	1402999	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233MKD38	1							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ブラインド・テスト	情報が商品評価に与える影響についてブラインドテストをもちいて検証する
第2回	ブラインド・テスト	情報が商品評価に与える影響についてプラインドテストをもちいて検証する
第3回	プラインド・テスト	情報が商品評価に与える影響についてブラインドテストをもちいて検証する
第4回	ブラインド・テスト	情報が商品評価に与える影響についてプラインドテストをもちいて検証する
第5回	「生活者発想」による調査	博報堂が提唱する「生活者発想」にもとづく調査により、生活環境を見直す
第6回	「生活者発想」による調査	博報堂が提唱する「生活者発想」にもとづく調査により、生活環境を見直す
第7回	「生活者発想」による調査	博報堂が提唱する「生活者発想」にもとづく調査により、生活環境を見直す
第8回	「生活者発想」による調査	博報堂が提唱する「生活者発想」にもとづく調査により、生活環境を見直す
第9回	調査PR	ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う。
第10回	調査PR	ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う
第11回	調査PR	ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う
第12回	調査PR	ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う
第13回	調査PR	ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う
第14回	調査PR	ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う
第15回	調査PR	ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う
		担当者から一言

	講義名	マーケティ	ィング論						担当教員	山田	卡		
諺	講義コード	1403000	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義					
ナン	バリング番号	133MKD18	1,335LAH3	307									
							授業概要	Ę					
どとなよこすんし場うの。	ごんなに優れた機能の製品でも、どんなに優れたデザインの製品でも、消費者に受け入れられヒットするとは限りません。ある製品が価値あるものとして消費者に受け入れられるためには、どんな製品を出すかを考えるだけでなく、どんな消費者を対象にするのかや、どんな価格で、また、どんは場所、広告を用いて売ればいいのかといったことまで考える必要があります。そして、商品としてヒットしたあとも、継続的にその商品が売れるこうに、消費者との持続的な関係を構築し、製品・サービスの価値を高める努力を続ける必要があります。この授業では、こうした企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標としまて。												
							到達目標	票					
企業	È業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。												
							成績評価	T					
	種別	割合(%)	評価基準マーケテ		の老え方	を理解できた	t- 1)						
:	定期試験 マーケティングの考え方を理解できたか 50 また (1) また (2) また (2) また (3) また (3) また (3) また (3) また (4) ま												
レ	ロボート課題 宣伝会議賞(25) 授業課題(25)												
	上記以外												
							授業外学	習					
	I	→				Г	教科書			.1.1	-+1		
No	1からのマーク		籍名 第3版			石井淳蔵・	著者名		碩学舎	出片	反社		ISBN/ISSN
1			212-782										
2													
3													
									•				
							参考書						
No		書籍	鲁名				著者名			出席	反社		ISBN/ISSN
1													
2													
3													
							前提学力	等					
							履修資格	 各					

講義名	マーケテ	ィング論					担当教員	山田 歩	
講義コード	1403000	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133MKD18	1,335LAH3	307				·		

	-	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	マーケティングの考え方についての概説
第2回	マーケティングの基本概念	S T P についての説明
第3回	マーケティングの基本概念	マーケティング・ミックスについての説明
第4回	製品のマネジメント	プロダクトについての説明
第5回	広告のマネジメント 1	プロモーションついての説明
第6回	広告のマネジメント 2	演習(宣伝会議賞)
第7回	広告のマネジメント 3	演習(宣伝会議賞)
第8回	価格のマネジメント	プライスについての説明
第9回	特別講義	マーケティング実務にかかわる専門家による講義(日程の変更あり)
第10回	チャネルのマネジメント	プレイスについての説明
第11回	ブランドのマネジメント	ブランド戦略についての説明
第12回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とマーケティングの接点についての説明
第13回	マーケティングリサーチ	マーケティングにリサーチがどのように必要になるのかについての説明
第14回	コンシューマー・インサイト	インサイト起点のマーケティングについて
第15回	まとめ	総括
	1	担当者から一言

	講義名	生活工学	(情報処理	里を含	む)				担当教員	堀江	健二郎			
講	義コード	1600471	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義						
ナン	バリング番号	133LVD20												
							授業概要							
電気 ても ます	家庭には多種・多様な電化製品が使用されています。また、自家用車をはじめとする機械製品も生活にはなくてはならないものとなっています。 電気の分野においては、オール電化やIH調理機器などの技術開発やソーラー発電などによる省エネルギー開発が進んでいます。機械の分野において によいイブリッド車や電気自動車さらには電動アシスト自転車等環境への配慮および生活を便利に、より快適にする製品が生活の中に入り込んでいます。このような、IOTをはじめとする生活を便利に ます。さらには、スマートフォンやタブレット端末の普及により情報化社会も急速に進化しています。このような、IOTをはじめとする生活を便利に 決適にする機器や製品の基礎知識を習得し、安全に正しい使用法を学ぶとともに、電機・機械・情報の各分野の基礎的知識と技術を学びます。													
	到達目標													
(2)	1)家庭生活で使用されている機械や電気機器の構造、原理を学ぶ 2)環境や安全に配慮した生活機器の活用方法 3)情報化社会における機器の活用													
	成績評価													
	種別 割合(%) 評価基準等													
7	定期試験 40													
レ	道宜、課題レポートを作成し提出する。 レポート課題 40													
	上記以外	2 0	グルーフ	゚ヷ゠ゟ	7、発表。									
課題	レポートの未	提出者は、	評価対象	としな	:11.									
							授業外学習	3						
						•	教科書							
No		書	籍名				著者名			<u> </u>	出版社		ISBN/ISSN	
1														
2														
3														
必要	に応じて、授	 業開始前あ	るいは、	事前に	講義資料	<u>・</u> を配布する。			ı				<u> </u>	
						1	参考書						_	
No		書籍	籍名				著者名			<u> </u>	出版社		ISBN/ISSN	
1														
2														
3														
							前提学力等	·····································						
							履修資格	i						

講義名	生活工学	(情報処理	里を含	む)				担当教員	堀江 健二郎
講義コード	1600471	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD20								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	はじめに・本講義内容のガイダン ス	家庭生活における身近な電気・機械にかかわる生活工学全般について興味・関心を持たせる。 講義の展開方法と目標について解説する。
第2回	機械の基礎(1)	機械の定義と歴史、機械の運動伝達および機械の要素(ねじ、ばね等)についての解説し、機械の基本を考えさせる。
第3回	機械の基礎(2)	機械材料と力学の基礎を解説し、機械要素の強度について考えさせる。
第4回	機械の基礎(3)	機械とエネルギーと家庭用燃焼器具についての解説し、熱エネルギーについて考えさせる。
第5回	機械の基礎(4)	家庭用ミシンおよび自家用車の基礎的な機構・構造などについて解説する。
第6回	機械の基礎(5)	自動車エンジンと自動車の構造について解説し、自動車のメンテナンスや正しい取り扱いについて考えさせる。
第7回	電気の基礎(1)	電気自動車とハイブリッド車およびこれからのエネルギーと環境について解説し、それらのテーマで 討論をとおして考えを深める。(グループワークの活用・レポート提出)
第8回	電気の基礎(2)	電気エネルギーの発生と変換、電気の動力への変換と利用について解説する。
第9回	電気の基礎(3)	電気の熱への変換と利用と電気の光への変換について解説する。
第10回	電気の基礎(4)	電子機器の仕組み、構造および屋内配線について解説する。
第11回	電気の基礎 (5)	日本のエネルギー事情と対策について解説し、今後の電気エネルギーについて討論をとおして考えを 深める。(グループワークの活用・レボート提出)
第12回	情報機器の基礎	コンピュータの機能と操作および2進数・10進数と16進数および論理回路について解説する。
第13回	情報技術とモラル	IOTについての解説と高度情報化社会の光と影について解説し、討論をとおして考えを深める。(グループワークの活用・レポート提出)
第14回	製図の基礎	ものづくりの基礎となる製図について解説。 (課題提出)
第15回	より豊かな生活と講義のまとめ	バイオミミクリーの観点から今後の生活について考察し、本講座の感想等をレポートにまとめる。
		担当者から一言

講義名	食物学(調理実習る	を含む)				担当教員	福渡小澤	努/廣瀬 惠子	潤子 / 佐野	光枝 /
講義コード	1600800	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義					
ナンバリング番号	133LVD20	5										

飽食の時代を生きる私たちが、健康的で充実した食生活を楽しむためには何を知らなければならないのか、食品学、栄養学の視点を中心に考えていく。得られた知識をもとに、豊かな食生活をいかにして営むかを調理実習を通して実践する能力を身につける。

到達目標

- (1)食品の栄養機能,成分特性,加工特性に関する知識を身につけ,理解する. (2)栄養素の種類,特徴,役割および健康維持のための摂取量に関する知識を身につけ,理解する. (3)食品の衛生管理に関する知識,考え方を身につけ,理解する. (4)調理実習を通し、基本的な調理操作について理解し、技術を身につける。

成績評価					
種別	割合(%)	評価基準等			
定期試験					
レポート課題	75	到達目標(1)~(3) についてレポート課題を課す(50%). 調理実習レポート5回×5%			
上記以外	25	調理実習の参加状況5回×5%			

- ・3分の1以上欠席した場合は,評価の対象としない ・調理実習は2回以上の欠席の場合は評価対象とならない。

授業外学習

- ・調理実習の際には、あらかじめ実習手順の確認をしてから実習に参加のこと。 ・調理実習時の衛生管理を順守できない場合は実習に参加できない。

教科書						
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN		
1	映像で学ぶ 調理の基礎とサイエンス	松崎・藤井・寺本	学際企画	978-4-906514-86-1		
2	栄養素でわかる食品と健康	柴田克己・木戸康博	培風館	978-4-563-07365-7		
3						

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

前提学力等

講義名	食物学(調理実習を含む)						担当教員	福渡小澤	努/廣瀬 惠子	潤子 / 佐野	光枝 /	
講義コード	1600800	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義					
ナンバリング番号	133LVD205											

<u> </u>							
授業計画							
回数 タイトル	概要						
第1回 食品の分類と食品成分表	食品の種類と分類、食品成分表について概説する。						
第2回 食品に含まれる栄養素(水分・たんぱく質)	: 水分とたんぱく質の特徴、化学的性質、加工特性について理解する。						
第3回 食品に含まれる栄養素(脂質)	脂質の特徴、化学的性質、加工特性について理解する。						
第4回 食品に含まれる栄養素(炭水化物・その他)	別 炭水化物、その他栄養素の特徴、化学的性質、加工特性について理解する。						
第5回 炭水化物 , 脂質の役割	たんぱく質,炭水化物,脂質の種類,特徴,機能について理解する.						
第6回 たんぱく質の役割	たんぱく質の種類,特徴,機能について理解する.						
第7回 ビタミン,ミネラルの役割	ビタミン,ミネラルの種類,特徴,機能について理解する.						
第8回 食事摂取基準	日本人の食事摂取基準および健康を維持するために摂取したい栄養素量について理解する.						
第9回 食品の変質とその防止	微生物による変質・変敗、化学的変質、変質の防止法について理解する。						
第10回 食品衛生をめぐる諸問題と食品表示	食品中の残留物質、遺伝子組み換え食品、食品表示について理解する。						
第11回 調理実習 オリエンテーション	実習に際しての注意事項、衛生管理方法						
第12回 調理実習 食材の取り扱い(野菜、果物)	食材の下処理・切り方						
第13回 調理実習 食材の取り扱い(卵)	卵の調理性(加熱凝固・乳化)						
第14回 調理実習 日本料理(1) (欠	て 飯の炊き方						
第15回 調理実習 日本料理(1) (た	だしのとり方						
第16回 調理実習 日本料理(1) (炒め・煮物調理)	炒め調理、煮物調理						
第17回 調理実習 日本料理(2) (乾 物の取り扱い)	を物の取り扱い						
第18回 調理実習 日本料理(2) (素 し調理)	茶わん蒸し(鶏卵の調理)						
第19回 調理実習 日本料理(2) (魚の取り扱い)	は 魚のさばき方						
第20回 調理実習 西洋料理 (オーブン 加熱調理)	/ 加熱操作(オープンと蒸し器調理)						
第21回 調理実習 西洋料理 (ゲル化)	ゲル化 (コーンスターチによるゲル化)						
第22回 調理実習 西洋料理 (テーブル マナー)	, 西洋料理のテーブルマナー						
第23回 調理実習 中華料理 (獣肉の取り扱い)	獣肉の取り扱い、切り方						
第24回 調理実習 中華料理 (スープの 調味パーセント)	汁物の調味						
第25回 調理実習 中華料理 (揚げ調理)	・ 揚げ操作						
	担当者から一言						

調理実習の際には、調理専用白衣、調理用帽子が必要となる(別途指示)。